

令和 2 年 度
(2 0 2 0)

病 院 年 報

市 立 敦 賀 病 院

病 院 理 念

市立敦賀病院は、地域の医療をささえ、
信頼され、温もりのある病院をめざします。

基 本 方 針

- ・ 嶺南の中核病院として、地域の医療介護福祉施設との連携を深め、地域の医療の発展に努めます。
- ・ 患者さん中心の安全、安心な医療を行います。
- ・ 患者さんにやさしい、開かれた病院をつくります。
- ・ 質の高い効率的な医療をわかりやすく提供します。
- ・ やりがいと誇りをもった職員を育成し、チーム医療を推進します。

事業管理者あいさつ

市立敦賀病院 敦賀市病院事業管理者 米島 學

この度、令和2年度の市立敦賀病院年報を発刊するはこびとなりました。

市立敦賀病院は、福井県嶺南地域の中核病院であり、敦賀市を中心とした嶺南地域の方々の病気を治療し健康管理に寄与するための病院です。

国は、医療・福祉・介護の一体改革である「地域包括ケアシステム」の構築を目指しており、地域全体で患者さんをサポートする体制の整備が求められています。

これに対応すべく、当院は、これまでの急性期医療を維持しつつ、地域の医療ニーズに即した病院運営を行っています。具体的には、県内で唯一2つの地域包括ケア病棟を有する公的病院として、急性期病床治療後の回復期の患者さんを在宅復帰に繋げています。平成30年4月から訪問診療を、10月から訪問看護ステーションを立ち上げての訪問看護を開始しています。平成30年8月には福井県で2番目の特定行為指定研修機関になり、自院のみならず他院からも特定看護師を目指す看護師を受け入れています。職員と共に、患者さん中心の医療を続けた結果、平成22年度から11年連続の黒字経営が続いています。

令和2年度はコロナ禍の一年でした。地域の中核病院として、新型コロナウイルス患者さんの入院加療、行政から依頼されたPCR検査、発熱外来など、新型コロナウイルス感染症関連の役割を積極的に担っています。同時に、地域の救急車の8割以上を受け入れ、非コロナの医療も確実にを行っています。令和3年度はさらにワクチン接種、自宅観察中の新型コロナ患者さんに対するメディカルチェックも加わっており、職員の頑張りと共に長く続く自粛に敬意を表します。

最後に、指導医の派遣にご尽力いただいております大学及び県医療行政各位に心から感謝申し上げますとともに、今後とも皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます

令和4年2月

病院長あいさつ

市立敦賀病院 病院長 太田 肇

市立敦賀病院の令和2年度の年報をお届けします。

令和2年度はCOVID-19感染症に始まり、このウイルスに翻弄された1年でした。福井県内においては令和2年3月下旬から4月上旬にかけて第一波が発生しました。県内第一波は10万人あたりの感染者数が一時は東京都に匹敵するような勢いで発生し、医療が逼迫しました。当院では令和2年2月7日より帰国者・接触者外来を開設し、3月26日からはドライブスルー方式でPCR検査の検体採取を開始しました。県内第1波当初(4月2日)から対策本部を立ち上げ、同日から陽性患者の受け入れを開始し、令和4年1月現在では最大でコロナ患者専用病床11床+疑似症1床まで増床しています。県内第1波においては約2か月間にわたり救急科の常勤医を福井県立病院へ派遣し、また入院コーディネートセンターにも設置当初から当院DMAT隊員を派遣しています。職員のメンタルヘルスについては、感染症病棟や発熱外来への職員の配置の際に面談を行い、また精神科医や臨床心理士のサポートによりメンタルヘルス支援体制を整えました。

一方で地域の中核病院としての外来・入院体制の維持のほか救急医療体制の維持にも努めました。地域医療構想の核となる地域医療調整会議はコロナ禍で進んではいませんが、医師の働き方改革やチーム医療、人材育成については少しずつ前に進んでいます。災害とも言えるCOVID-19感染症に対し、病院も今までの医療体制を見直して変わらなくてはなりません。この機会に変わるこそが今後のウィズコロナ・ポストコロナの時代に当院が生き残っていく上で大切であると思われまます。これまでワクチン接種も含めCOVID-19対策に携わったすべての職員の皆さんに深甚なる敬意を表します。また多くの激励・ご支援を賜りました方々に心より感謝を申し上げます。今後も職員一丸となって二州地区の地域医療の核として貢献できますよう、さらに努力していく所存でございます。

本報告書において、各部門からの令和2年度の活動報告をとりまとめています。ご一読いただき、今後とも皆様のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年2月

目 次

I 病院の沿革及び現況

1	病院の沿革	1
2	病院の概要	3
3	施設の概要	4
4	設備の概要	4
5	設備基準等届出一覧	5
6	組織図	6
7	職員の現況	7
8	入院部屋数	8
9	経営の概要	9
10	経営分析	10
11	委員会等一覧	12
12	対外活動	13

II 決算概要

1	収益的収入及び支出	15
2	資本的収入及び支出	18
3	貸借対照表	18
4	診療行為別診療収入の状況	19
5	診療科別診療収入の状況	20
6	企業債・減価償却の状況	23
(1)	企業債の年度別状況	23
(2)	減価償却額の年度別状況	23

III 各部署の活動状況

1	診療部	25
2	医療安全管理室	25
3	感染制御センター	26
4	医療支援部	29
(1)	人材確保育成室	29
(2)	地域医療連携室	30
(3)	患者相談室	32
(4)	入退院支援室	34
5	医療技術部	35
(1)	検査室	35

(2) 放射線室	37
(3) リハビリテーション室	39
(4) 臨床工学技術室	40
(5) 栄養管理室	41
(6) 歯科衛生室	42
6 薬剤部	43
7 看護部	45
8 事務局	46
(1) 総務企画課	46
(2) 医療サービス課	47
9 訪問看護ステーションつなぐ	48
10 委員会活動	49

IV 業務の概要

1 患者の状況	65
(1) 入院・外来別患者数	65
(2) 患者数の推移	65
(3) 診療科別患者数	66
(4) 市町村別患者数	67
(5) 月別患者数	68
(6) 救急患者の取扱状況	70
(7) 患者搬送の状況	73
2 人間ドックの状況	74
3 中央手術室業務の状況	75
4 種類別麻酔件数	75
5 内視鏡検査件数	75
6 周産期医療の状況	76
7 薬剤室業務の状況	77
(1) 調剤業務の状況	77
(2) 服薬指導の状況	77
(3) 注射剤調製の状況	77
(4) 後発医薬品採用率	77
8 人工透析の状況	77
9 放射線科（室）の状況	78
(1) 撮影の状況	78
(2) 紹介患者の取り組み	78
(3) 血管撮影検査の状況	78
(4) MR I 検査の状況	78

(5) CT検査の状況	78
(6) 核医学検査の状況	79
(7) 放射線治療の状況	79
(8) マンモグラフィーの状況	80
(9) 骨密度検査の状況	80
(10) エコー検査の状況	80
(11) 透視検査の状況	80
(12) 血管造影の状況	81
10 臨床検査の状況	82
(1) 各種検査件数	82
(2) 生理機能検査件数	82
(3) 血液製剤使用量	83
11 リハビリテーションの状況	83
12 患者給食及び栄養指導の状況	84
13 死亡患者数及び病理解剖件数	84
14 患者相談の状況	85
(1) 患者相談の状況	85
(2) 病院に対するご要望の状況	85
(3) 入院説明・案内の状況	85
(4) ボランティアの活動状況	85
15 地域医療連携の状況	85
(1) 紹介及び逆紹介の状況	85
(2) 開放型病床の状況	86
(3) 地域包括ケア病棟の状況	86
(4) 退院支援の状況	86
(5) 地域連携パスの状況	86
(6) ふくいメディカルネット運用件数	86
16 医療安全の状況	86
(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況	86
17 院内がん登録の状況	87
(1) 部位別院内がん登録の状況	87
(2) 経緯別院内がん登録の状況	88

V DPCの概要

1 DPC係数の状況	89
2 DPC/PDPSにおけるMDC 2桁分類	90

VI 研究業績

1 診療部	91
2 医療支援部	98
3 医療技術部	99
4 看護部	101

VII 臨床研修プログラム概要

令和2年度市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績	105
---------------------------------	-----

参考資料

○ 第2次市立敦賀病院中期経営計画の概要	109
○ 市立敦賀病院の患者権利章典	114
○ 市立敦賀病院職業倫理規程	116
○ 医療事故防止のための8カ条	117

I 病院の沿革及び現況

1 病院の沿革

明治15年 2月	県立敦賀病院開設
明治24年 4月	郡制施行に伴い郡立敦賀病院に改称
大正12年 4月	郡制廃止により敦賀郡町村組合立病院に改称
昭和18年 4月	日本医療団へ現物出資
昭和24年 2月	病院開設許可（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
昭和24年 4月	日本医療団より全施設組合に返還
昭和30年 1月	町村合併により市立敦賀病院に改称
昭和38年 3月	2ヵ年度継続事業で病院本館、鉄筋コンクリート造・4階建 全面改築（4,487㎡）完成（一般172床、伝病20床、結核40床）
昭和44年10月	2ヵ年度継続事業で救急診療棟、鉄筋コンクリート造・4階建 増設（2,190㎡）完成（一般232床、伝病25床、結核40床）
昭和48年 4月	医師住宅1号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（7戸）完成
昭和49年 4月	医師住宅2号棟、鉄筋コンクリート造・2階建（8戸）完成
昭和54年 5月	木造病棟を取り壊し、中央診療棟（放射線部門・手術部門病棟） 鉄筋コンクリート造・4階建増改築（3,223㎡①）完成 （一般276床、伝病25床、結核28床）
昭和62年10月	3ヵ年度継続事業で本館診療棟、鉄筋コンクリート造・7階建 増改築（12,068㎡②）完成（合計床面積 18,454㎡） （一般276床、伝病25床）
平成元年10月	神経科精神科（外来）開設
平成 5年 4月	循環器科・消化器科・麻酔科開設
平成 6年10月	3ヵ年度継続事業で東診療棟、救急診療棟、鉄筋コンクリート造 5階建増改築（6,486㎡③）完成 （東病棟…完成・同年4月、運用開始・同年6月） （合計床面積①②③ 21,777㎡）（一般348床、伝病10床）
平成 7年 1月	土曜閉院完全実施
平成 7年12月	3ヵ年度継続事業で電算情報トータルシステム整備完了
平成 9年 3月	医師住宅及び駐車場敷地購入（3,906.06㎡）
平成10年11月	医師住宅新築工事竣工 鉄筋コンクリート造・5階建（2,520.96㎡） 妻帯用12戸、単身用8戸
平成11年 1月	旧医師住宅解体
平成11年 4月	第二種感染症指定医療機関に指定（一般348床、感染症2床）
平成12年 3月	立体駐車場完成 鉄骨造2階建（4,273.18㎡）（253台収容）
平成14年 9月	神経内科開設
平成15年 9月	第3次整備建設着工（平成15年度～平成18年度継続事業）
平成15年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43号取得
平成15年11月	厚生労働省管理型臨床研修病院指定 第030944号
平成17年 3月	第3次整備建設工事のうち北診療棟（7,815㎡）完成
平成18年 7月	リハビリテーション科開設
平成18年10月	病床数変更（一般373床、感染症2床）
平成18年12月	第3次整備建設工事完成
平成20年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-2号取得（更新）

平成20年12月	中期経営計画策定（第1次）
平成21年 1月	電子カルテ導入
平成21年 5月	病床数変更（一般330床、感染症2床）
平成22年 4月	給食業務全面委託開始
平成23年 2月	DMA T 隊編成
平成23年 4月	D P C 請求病院開始
平成23年 6月	DMA T 指定医療機関
平成23年 7月	DMA T 隊第2班編成
平成23年10月	救急科開設
平成24年 7月	リハビリ棟耐震補強工事完成（全棟耐震化完了）
平成24年 8月	院内保育所開設
平成25年10月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-3号取得（更新）
平成26年 2月	第2次中期経営計画策定
平成26年 3月	医薬品S P D 導入
平成26年10月	地域包括ケア病棟開設
平成27年10月	原子力災害対策施設整備工事完成
平成27年10月	地域包括ケア病棟増設（2病棟71床体制）
平成28年 4月	地方公営企業法の全部適用へ移行
平成28年 6月	自治体立優良病院表彰受賞
平成29年 3月	第2次中期経営計画改訂
平成29年 4月	形成外科、心臓血管外科を増設 消化器内科（元消化器科）、循環器内科（元循環器科・心臓血管外科）へ 名称変更
平成30年 4月	訪問診療開始
平成30年 4月	特定行為指定研修機関に認定
平成30年10月	市立敦賀病院訪問看護ステーション「つなぐ」開設
平成30年10月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-4号取得（更新）
平成31年 4月	人材確保育成室・在宅医療推進室・入退院支援室の設置
令和2年11月	発熱外来を設置
令和3年 1月	乳腺外科を増設

2 病院の概要（令和3年4月1日現在）

- 名 称 市立敦賀病院（昭和24年2月1日 福井県指令医第462号）
- 所 在 地 福井県敦賀市三島町1丁目6番60号
- 開 設 者 敦賀市 敦賀市長 瀧上隆信
- 管 理 者 敦賀市病院事業管理者 米島 學
- 院 長 太田 肇
- 敷 地 面 積 17,965.18 m²
- 建 物 延 面 積 30,091.96 m²
- 診 療 科 目 内科／神経内科／消化器内科／循環器内科／小児科／外科
心臓血管外科／乳腺外科／整形外科／脳神経外科／皮膚科
形成外科／泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／放射線科
神経科精神科／歯科口腔外科／麻酔科／リハビリテーション科
救急科（22診療科）
- 特殊診療部門 救急医療、人工透析、生活習慣病健診、人間ドック
- 許可病床数 一般病床 330床・感染症病床 2床 計332床
- 診療指定 保険医療機関、労災保険指定医療機関、国保療養取扱機関
指定自立支援医療機関（更生医療・育成医療・精神通院医療）
身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関
生活保護法指定医療機関、児童福祉法指定療育育成機関
結核指定医療機関、指定養育医療機関、災害拠点病院
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関、公害医療機関
第二種感染症指定医療機関、原子力災害医療協力機関
母体保護法指定医の配置されている医療機関
救急告示病院、第二次救急病院群輪番制病院
エイズ治療拠点病院、特定疾患治療研究事業委託医療機関
指定療育機関、小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関
地域周産期母子医療センター、洋上救急協力機関
労働者災害補償保険法に基づくアフターケア指定医療機関
DPC指定病院、日本赤十字常備救護班
- 研修等施設指定 日本内科学会教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会指導施設
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本呼吸器学会認定施設
日本整形外科学会研修施設、日本医学放射線学会修練機関
日本脳神経外科学会専門医制度関連施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本臨床細胞学会施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設、マンモグラフィ検診施設
日本眼科学会専門医制度研修施設、日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本産科婦人科学会専門研修連携施設
日本周産期・新生児医学会暫定研修施設（補完研修施設）

日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設
 日本医療機能評価機構認定病院、基幹型臨床研修病院
 日本透析医学会教育関連施設、腹部ステントグラフト実施施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本救急医学会専門指導医施設
 日本脳卒中学会認定研修教育施設、DMAT指定医療機関
 日本口腔外科学会認定准研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設
 日本腎臓学会認定施設

3 施設の概要

敷地面積	17,965.18 m ²
建物延面積	30,091.96 m ²
	本館診療棟 12,067.92 m ²
	中央診療棟 3,223.29 m ²
	東診療棟 6,486.02 m ²
	北診療棟 8,314.73 m ²
	計 30,091.96 m ²

4 設備の概要

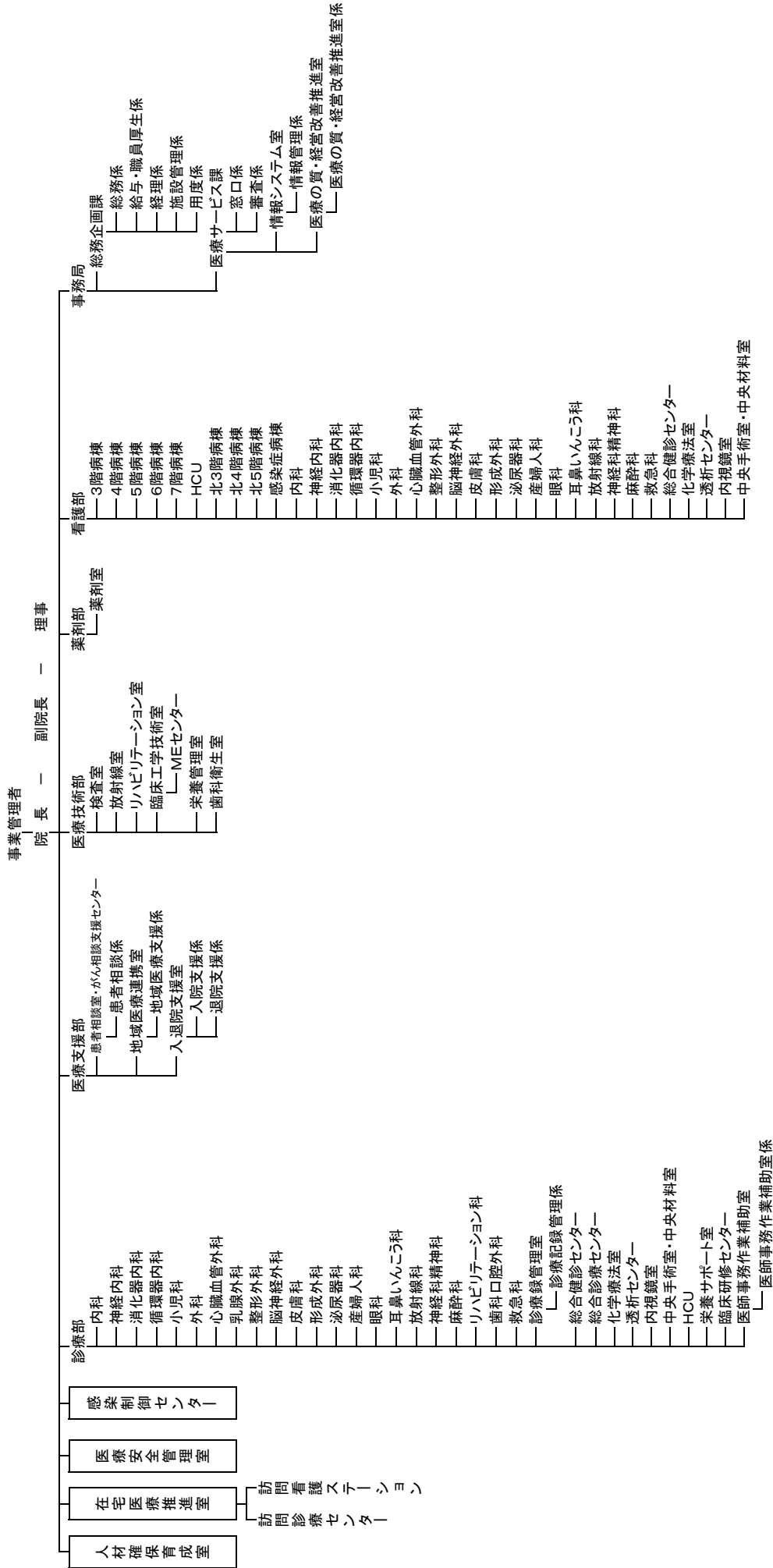
受変電	設備容量：6,500KVA 契約電力：1,150KW 受電電圧：6,600V（2系統受電）
非常用電源設備	発電機容量：625KVA×2・200KVA×2・105KVA×1
無停電電源装置	50KVA×4
太陽光発電設備	太陽電池アレイ×90 最大出力10KW
弱電設備	構内電話・コードレス電話設備 インターホン設備 ナースコール設備 電気時計設備 TV共聴設備
消防設備	自動火災報知設備 排煙設備 誘導灯 スプリンクラー設備 非常放送設備 非常通報設備 屋内消火栓設備
熱源設備	炉筒煙管蒸気ボイラー：1.5t/h 2基 貫流蒸気ボイラー：0.75t/h 2基 スチームアキュムレーター：30 m ² 1基
空調設備	吸収式冷温水機：5基（330RT×2・240RT×1・50RT×2） 水冷チラーユニット：1基 エアーハンドリング空調機 ガスエンジンヒートポンプマルチエアコン 電気式ヒートポンプマルチエアコン ファンコイルユニット
給水設備	受水槽：SUSパネル55t×2 SUSパネル25t×2 高架水槽：SUSパネル16t×2 SUSパネル7t×1 雑水高架水槽：SUSパネル13t×2 SUSパネル7t×1
排水設備	一般排水系統 RI排水系統 特殊排水系統
給湯設備	貯湯槽：SUS4.5t×2 SUS3.0t×2
浄化槽設備	RI処理槽
医療ガス設備	液体酸素設備 圧縮空気供給設備 亜酸化窒素供給設備 窒素供給設備 吸引設備
昇降機設備	寝台用エレベーター：10基 一般エレベーター：2基 ダムウェーター：2基
搬送設備	気送管設備：85φ14ST1系統・15φ4ST1系統

5 施設基準等届出一覧

(令和3年9月現在)

No.	施設基準名称	No.	施設基準名称
1	一般病棟入院基本料 急性期一般入院基本料 入院料4	43	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
2	救急医療管理加算	44	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
3	超急性期脳卒中加算	45	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
4	診療録管理体制加算1	46	検体検査管理加算(IV)
5	医師事務作業補助体制加算1(15対1)	47	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
6	急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割以上)	48	ヘッドアップティルト試験
7	看護職員夜間16対1配置加算1	49	神経学的検査
8	療養環境加算	50	コンタクトレンズ検査料1
9	重傷者等療養環境特別加算	51	小児食物アレルギー負荷検査
10	栄養サポートチーム加算	52	CT透視下気管支鏡検査加算
11	医療安全対策加算1 (医療安全対策地域連携加算有)	53	画像診断管理加算2
12	感染防止対策加算1 (感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算有)	54	CT撮影及びMRI撮影
13	患者サポート体制充実加算	55	冠動脈CT撮影加算
14	ハイリスク妊娠管理加算	56	心臓MRI撮影加算
15	ハイリスク分娩管理加算	57	小児鎮静下MRI撮影加算
16	後発医薬品使用体制加算1	58	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
17	データ提出加算2	59	外来化学療法加算2
18	入退院支援加算1(入院時支援加算、総合機能評価加算、地域連携診療計画加算有)	60	無菌製剤処理料
19	認知症ケア加算1	61	心大血管疾患リハビリテーション料(I) 初期加算有
20	せん妄ハイリスク患者ケア加算	62	脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 初期加算有
21	地域医療体制確保加算	63	運動器リハビリテーション料(I) 初期加算有
22	ハイケアユニット入院医療管理料1	64	呼吸器リハビリテーション料(I) 初期加算有
23	小児入院医療管理料4(北3階、北5階)	65	がん患者リハビリテーション料
24	地域包括ケア病棟入院料2(看護職員配置加算、看護補助者配置加算有)	66	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
25	糖尿病合併症管理料	67	導入期加算1
26	心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	68	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
27	がん性疼痛緩和指導管理料	69	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
28	がん患者指導管理料イ	70	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
29	がん患者指導管理料ロ	71	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
30	糖尿病透析予防指導管理料	72	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
31	乳腺炎重症化予防・ケア指導料	73	体外衝撃波胆石破砕術
32	救急搬送看護体制加算1	74	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
33	ニコチン依存症管理料(減算中)	75	輸血管理料II
34	開放型病院共同指導料	76	輸血適正使用加算
35	ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	77	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
36	肝炎インターフェロン治療計画料	78	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
37	ハイリスク妊産婦連携指導料1	79	麻酔管理料(I)
38	薬剤管理指導料	80	地域歯科診療支援病院歯科初診料
39	検査画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	81	歯科外来診療環境体制加算2
40	医療機器安全管理料1	82	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料

組織図(令和3年4月1日現在)



7 職員の現況

年度末現在 単位：人

	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	合計	臨時嘱託 (再掲)	合計	臨時嘱託 (再掲)	合計	パートタイム 会計年度職員 (再掲)
医師	51	6	59	11	65	
薬剤師	14		12		12	
診療放射線技師	14		14		16	1
臨床検査技師	16		16		20	6
臨床工学技士	6		6		8	
理学療法士	15		15		15	
作業療法士	7		7		10	
言語聴覚士	4		5		6	
歯科衛生士	4	1	4	1	5	1
管理栄養士	4		5		6	
栄養士					1	1
臨床心理士					1	1
保健師	2		2		3	1
助産師	18		16		17	1
看護師	255	5	255	4	286	24
准看護師	8	1	8	1	10	1
事務職員	24	6	26	7	30	3
電気技師	2		2		3	
施設管理員	1	1	2	2	2	
事務員	24	16	25	17	34	11
看護補助者	16	16	15	15	25	11
医師事務作業補助者	12	12	13	13	36	21
その他					12	7
合計	497	64	507	71	623	90

8 入院部屋数（令和3年4月1日現在）

	本館3階		本館4階	本館5階	本館6階	本館7階		北館2階 HCU	北館3階			北館4階	北館5階	合計
		ドック				無菌室			小児入院	感染症				
特 室	(1) 1		(1) 1		(1) 1				(1) 1			(1) 1		(5) 5
1 人 部 屋	(6) 6	(6) 6	(5) 5	(9) 9	(5) 5	(4) 4	(1) 1		(2) 2	(6) 6	(2) 2	(8) 8	(6) 6	(60) 60
重 症 1 人 部 屋								(4) 4	(2) 2					(6) 6
2 人 部 屋	(2) 1		(4) 2	(4) 2	(4) 2	(6) 3		(2) 1						(18) 9
重 症 2 人 部 屋	(2) 1		(2) 1	(2) 1	(2) 1							(2) 1		(10) 5
4 人 部 屋	(32) 8		(32) 8	(20) 5	(24) 6	(24) 6			(32) 8	(4) 1		(36) 9	(24) 6	(228) 57
5 人 部 屋													(5) 1	(5) 1
合 計	(43) 17	(6) 6	(40) 15	(35) 17	(36) 15	(34) 13	(1) 1	(6) 5	(37) 13	(10) 7	(2) 2	(47) 19	(35) 13	(332) 143

上段：病床数（ ）

下段：病室数

9 経営の概要

年度	収益的収支 (単位：千円)			資本的収支 (単位：千円)			一般会計繰入金 (単位：千円)			医療収支 比率 医療費用 収入 (単位：%)	職員給与 比率 職員給与 収入 (単位：%)	年度末 職員数 (臨時嘱託再掲) (※令和2年度～ パートタイム会計 年度任用職員再掲) (単位：人)	病 床 利 用 率 (単位：%)	病床数 (単位：床)
	収入	支出	純損益	収入	支出	差引	収益勘定	資本勘定	合計					
24	7,591,393	7,526,684	64,709	377,624	876,556	△ 498,932	634,442	264,978	899,420	95.2	51.9	(52) 424	85.8	332
25	7,369,227	7,282,485	86,742	342,618	705,979	△ 363,361	633,747	258,817	892,564	94.1	53.2	(65) 424	82.0	332
26	7,572,989	7,493,034	79,955	406,186	1,235,195	△ 829,009	615,612	269,489	885,101	89.9	58.4	(61) 447	78.1	332
27	7,707,144	7,455,378	251,766	639,612	1,122,653	△ 483,041	609,739	281,245	890,984	91.9	56.1	(61) 458	78.0	332
28	7,582,663	7,288,098	294,565	510,322	1,002,325	△ 492,003	627,195	326,072	953,267	93.3	56.8	(70) 472	79.0	332
29	7,787,414	7,667,091	120,323	376,123	770,376	△ 394,253	703,398	234,503	937,901	92.9	58.3	(67) 483	79.0	332
30	7,800,754	7,773,986	26,768	427,990	685,315	△ 257,325	765,210	251,554	1,016,764	86.9	61.0	(64) 497	72.5	332
元	8,221,583	7,928,962	292,621	437,975	700,630	△ 262,655	777,571	268,775	1,046,346	92.9	60.0	(71) 507	74.9	332
2	8,688,212	8,174,171	514,041	763,808	1,020,085	△ 256,277	826,638	256,516	1,083,154	87.3	62.2	(90) 623	69.7	332

10 経営分析

分析項目	算出	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
1日当り患者数	入院	人	366日 259	365日 262	365日 268	365日 256	366日 249	365日 232
	外来	人	243日 699	243日 697	244日 699	244日 700	240日 699	243日 628
	合計	人	958	959	967	956	948	860
医師1人1日当り患者数	入院	人	5.08	5.14	5.25	5.02	4.22	3.57
	外来	人	13.71	13.67	13.71	13.73	11.85	9.66
	合計	人	18.79	18.80	18.96	18.75	16.07	13.23
医療収支対前年度比率	医療収益の対前年度比	%	103.43	97.45	103.31	100.42	105.71	95.05
	医療費用の対前年度比	%	101.17	96.04	103.70	107.38	101.54	101.13
患者1人1日当り診療収入	入院	円	41,202	41,216	41,785	43,111	48,032	49,174
	外来	円	13,039	11,880	12,174	12,710	12,994	13,858

分析項目	算出	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	
給与費	給与費 医業収益	%	56.10	56.84	58.30	61.14	59.97	62.20	
	材料費	薬品費 医業収益	%	17.49	14.27	15.01	16.06	14.24	14.75
		診療材料費 医業収益	%	8.15	8.97	8.42	8.11	8.20	8.69
		給食材料費 医業収益	%	0.14	0.13	0.11	0.10	0.10	0.11
		医療消耗 備品費 医業収益	%	0.12	0.08	0.08	0.13	0.13	0.21
小計	%	25.90	23.45	23.62	24.41	22.68	23.76		
経費	経費 医業収益	%	16.38	16.60	16.53	17.48	16.46	20.52	
	減価償却費 医業収益	%	9.64	9.44	8.54	8.40	7.80	7.45	
資産減耗費	資産減耗費 医業収益	%	0.27	0.33	0.01	0.06	0.12	0.28	
研究研修費	研究研修費 医業収益	%	0.52	0.59	0.63	0.59	0.62	0.34	
合計	医業費用 医業収益	%	108.81	107.24	107.64	112.08	107.66	114.54	
医業収益に対する医業費用の割合									

1 1 委員会等一覧

(令和3年4月現在)

No.	名称	No.	名称
1	部長会	36	緩和ケアチーム
2	管理運営・診療委員会	37	糖尿病診療委員会
3	防災対策委員会	38	透析センター運営委員会
4	救急蘇生災害医療部会	39	化学療法委員会
5	DMAT	40	医療器械購入機種選定委員会
6	赤十字救護班	41	地域包括ケア病棟運営委員会
7	医療安全対策委員会	42	CS・ES委員会
8	リスクマネジメント部会	43	CS部会
9	DVT部会	44	ES部会
10	アレルギー部会	45	聴き上手広め隊
11	医療安全推進会議	46	倫理委員会
12	医療機器管理委員会	47	臨床研究部会
13	病棟管理委員会	48	臨床倫理部会
14	感染対策委員会	49	臓器移植チーム
15	ICT	50	倫理コンサルテーションチーム
16	AST	51	治験審査委員会
17	放射線安全委員会	52	薬事委員会
18	検体検査適性化委員会	53	教育研修委員会
19	血液製剤管理委員会	54	病院年報編集委員会
20	医療ガス安全委員会	55	TQM委員会
21	勤務環境改善委員会	56	DPC委員会
22	電子カルテ委員会	57	広報委員会
23	クリティカルパス委員会	58	医療従事者修学資金貸与審査委員会
24	診療材料検討委員会	59	院内スペース効率利用部会
25	栄養管理委員会	60	医療の質・経営改善推進委員会
26	褥瘡サポート委員会	61	認知症サポート委員会
27	栄養サポート委員会	62	臨床研修管理委員会
28	地域医療連携委員会	63	臨床研修部会
29	在宅医療推進委員会	64	心臓リハビリテーション運営委員会
30	訪問診療部会	65	診療材料管理業務委託検討委員会
31	救急室・外来運営委員会	66	医薬品管理業務委託検討委員会
32	HCU運営委員会	67	特定行為研修管理委員会
33	手術部会委員会	68	機能評価推進委員会
34	労働安全衛生委員会	69	がん診療連携拠点病院推進委員会
35	緩和ケア委員会	70	医師事務作業補助室運営委員会

12 対外活動

令和2年度 出前講座 実績

	開催日	時間	依頼元/開催場所	テーマ	講師	参加人数
1	1月19日	15:00~15:50	県立敦賀高等学校 敦賀高等学校講堂	命の大切さについて	北5階看護師長 助産師 上田紀子	230
2	2月25日	18:00~19:00	美浜町社会福祉協議会 美浜町ハートピア	感染防止について	看護部次長 感染管理認定看護師 小堀 和美	37
参加人数合計						267

令和2年度 地域開放学習会実績

	開催日	テーマ	講師・担当者	人数
1	8月27日	感染管理「COVID感染防止について」	感染管理認定看護師 田中 恵実	14
2	9月23日	がん患者の精神的なケアについて せん妄ケアについて	神経科精神科医師 がん緩和認定看護師 松本日和 仲間 有希	27
3	10月23日	コロナ禍の入退院支援について事例紹介と情報交換	特定看護師 訪問看護認定看護師 地域医療連携室MSW 田辺 里江 近江谷 未幸 藤井 祐太	14
4	11月27日	呼吸器フィジカルアセスメント 呼吸器ケアに関するQ&A	慢性呼吸器疾患看護認定看護師 リハビリテーション科 理学療法士 若山しのぶ 澤 裕介	13
5	12月18日	安全な嚥下のための準備	リハビリテーション科 作業療法士 言語療法士 野添 晴菜 西川 杏美	18
8	3月	摂食嚥下障害がある人の在宅支援についてのQ&A	摂食嚥下障害看護認定看護師 下町 智子	12
参加人数合計				98

健康応援フェスタ2020・市民公開講座は新型コロナウイルス流行につき開催中止。

Ⅱ 決算概要

1 収益的収入及び支出

収入

単位：千円

	30年度		令和元年度		令和2年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業収益	7,778,882	99.9	8,194,327	105.3	8,660,970	105.7
医業収益	6,534,111	100.1	6,906,860	105.7	6,565,216	95.1
入院収益	4,028,316	98.7	4,374,575	108.6	4,154,507	95.0
外来収益	2,169,590	104.6	2,178,431	100.4	2,115,158	97.1
その他医業収益	336,205	91.6	353,854	105.2	295,551	83.5
医業外収益	1,239,105	99.1	1,286,677	103.8	1,940,900	150.8
受取利息	813	121.9	865	106.4	480	55.5
他会計負担金	765,210	108.8	777,571	101.6	826,638	106.3
補助金	17,697	15.3	22,841	129.1	651,128	2850.7
寄附金	-	-	5,000	皆増	0	-
財産収益	8,147	99.8	8,830	108.4	8,241	93.3
病院事業引当金戻入	20,499	101.2	23,278	113.6	11,904	51.1
院内保育収益	5,652	88.4	4,112	72.8	2,924	71.1
訪問看護ステーション収益	2,656	皆増	7,822	294.5	9,704	124.1
長期前受金戻入	332,066	97.4	328,025	98.8	333,366	101.6
その他医業外収益	86,365	170.6	108,333	125.4	96,515	89.1
特別利益	5,666	10.2	790	13.9	154,854	19601.8
その他特別利益	5,666	10.2	790	13.9	154,854	19601.8

支出

単位：千円

	30年度		令和元年度		令和2年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業費用	7,752,705	101.1	7,903,170	101.9	8,147,433	103.1
医業費用	7,323,222	104.3	7,435,588	101.5	7,519,957	101.1
給与費	3,995,183	105.0	4,141,980	103.7	4,083,419	98.6
給料	1,407,974	104.6	1,435,831	102.0	1,763,500	122.8
手当等	1,100,690	102.2	1,141,319	103.7	1,267,812	111.1
賞与引当金繰入額	202,264	105.8	208,064	102.9	235,145	113.0
退職給付費	231,009	125.4	252,823	109.4	228,057	90.2
賃金	505,906	104.0	543,389	107.4	0	皆減
法定福利費	509,088	105.2	521,620	102.5	546,232	104.7
法定福利費引当金繰入額	38,252	107.3	38,934	101.8	42,673	109.6
材料費	1,595,067	103.5	1,566,417	98.2	1,559,670	99.6
薬品費	1,049,691	107.2	983,771	93.7	968,653	98.5
診療材料費	530,022	96.4	566,192	106.8	570,424	100.7
給食材料費	6,585	95.9	7,172	108.9	7,084	98.8
医療消耗備品費	8,769	160.7	9,282	105.9	13,509	145.5
経費	1,142,268	105.9	1,136,939	99.5	1,347,471	118.5
厚生福利費	348	80.6	429	123.3	94	21.9
報償費	344	32.5	137	39.8	204,787	149479.6
旅費	12,633	114.9	12,526	99.2	11,952	95.4
職員被服費	1,191	94.3	1,460	122.6	2,246	153.8
消耗品費	33,119	98.3	31,317	94.6	33,632	107.4
消耗備品費	7,669	151.2	6,802	88.7	10,548	155.1
光熱水費	108,630	112.8	106,727	98.2	102,836	96.4
燃料費	52,248	105.7	55,434	106.1	51,430	92.8
食糧費	15	7.7	20	133.3	7	35.0
印刷製本費	3,435	117.9	3,864	112.5	2,469	63.9
修繕費	53,975	126.9	60,242	111.6	67,411	111.9

保険料	15,961	96.2	16,170	101.3	15,050	93.1
賃借料	95,715	104.8	100,923	105.4	109,502	108.5
通信運搬費	7,941	112.4	8,363	105.3	9,356	111.9
委託料	733,328	103.8	716,643	97.7	713,462	99.6
交際費	77	187.8	52	67.5	0	0.0
公課費	108	720.0	40	37.0	92	230.0
諸会費	3,031	99.9	2,959	97.6	2,909	98.3
雑費	12,500	119.4	12,831	102.6	9,688	75.5
減価償却費	548,558	98.4	538,808	98.2	488,949	90.7
建物減価償却費	320,659	99.8	320,184	99.9	318,635	99.5
構築物減価償却費	63	100.0	1,442	2288.9	1,442	100.0
器械備品減価償却費	135,206	101.8	130,214	96.3	116,151	89.2
車両減価償却費	-	-	577	皆増	1,432	248.2
リース資産減価償却費	42,996	70.0	34,137	79.4	33,319	97.6
無形固定資産減価償却費	49,634	118.4	52,254	105.3	17,970	34.4
資産減耗費	3,866	527.4	8,283	214.3	18,379	221.9
固定資産除却費	3,866	527.4	8,283	214.3	18,379	221.9
研究研修費	38,280	93.0	43,161	112.8	22,069	51.1
謝金	111	58.7	233	209.9	25	10.7
図書費	6,443	110.7	6,556	101.8	7,320	111.7
旅費	15,780	98.7	18,117	114.8	1,415	7.8
消耗品費	8,335	95.5	8,691	104.3	8,596	98.9
消耗備品費	330	皆増	0	皆減	0	-
印刷製本費	190	皆増	152	80.0	164	164.0
委託料	111	63.8	125	112.6	185	185.0
負担金	6,550	67.6	8,843	135.0	4,168	4168.0
雑費	430	77.3	444	103.3	196	196.0
医業外費用	376,989	61.9	424,043	112.5	432,987	102.1
支払利息	80,915	91.0	73,020	90.2	65,098	89.2
企業債利息	80,556	91.4	72,669	90.2	64,525	88.8
リース利息	358	73.5	351	98.0	573	163.2
長期前払消費税償却	14,585	91.0	18,070	123.9	14,422	79.8
院内保育費	31,877	99.5	26,269	82.4	25,342	96.5
消耗品費	324	65.7	212	65.4	172	81.1
保険料	6	100.0	6	100.0	7	116.7
委託料	31,547	100.1	26,051	82.6	25,163	96.6
訪問看護ステーション費	10,296	皆増	32,049	311.3	28,582	89.2
給料	1,641	皆増	10,079	614.2	14,178	140.7
手当等	2,936	皆増	8,555	291.4	5,287	61.8
賞与引当金繰入額	1,057	皆増	1,060	100.3	1,514	142.8
退職給付費	300	皆増	2,014	671.3	1,626	80.7
貸金	1,380	皆増	4,436	321.4	0	0.0
法定福利費	944	皆増	4,222	447.2	3,984	94.4
法定福利費引当金繰入額	133	皆増	176	132.3	83	47.2
診療材料費	5	皆増	90	1800.0	563	625.6
医療消耗備品費	82	皆増	24	29.3	18	75.0
厚生福利費	1	皆増	3	300.0	3	100.0
図書費	32	皆増	12	37.5	35	291.7
旅費	62	皆増	182	293.5	0	0.0
職員被服費	74	皆増	112	151.4	142	126.8
消耗品費	184	皆増	153	83.2	101	66.0
消耗備品費	721	皆増	0	皆減	0	-
光熱水費	129	皆増	251	194.6	244	97.2
燃料費	308	皆増	135	43.8	153	113.3

印刷製本費	41	皆増	20	48.8	0	0.0
保険料	22	皆増	38	172.7	45	118.4
賃借料					90	皆増
通信運搬費	3	皆増	10	333.3	28	280.0
委託料	36	皆増	358	994.4	430	120.1
負担金	37	皆増	63	170.3	23	36.5
諸会費	68	皆増	31	45.6	30	96.8
雑費	100	皆増	25	25.0	5	20.0
病院事業引当金繰入	1,112	0.4	6,017	541.1	684	11.4
雑支出	238,204	108.1	268,119	112.6	293,019	109.3
賠償金	0	0.0	499	皆増	5,840	皆増
特別損失	52,494	152.6	43,539	82.9	194,489	446.7
過年度損益修正損	1,292	186.4	3,114	241.0	708	22.7
その他特別損失	51,202	151.9	40,425	79.0	193,781	479.4

2 資本的収入及び支出

単位：千円

	30年度		令和元年度		令和2年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
資本的収入	427,990	113.8	437,975	102.3	763,808	174.4
一般会計繰入金	251,555	107.3	268,775	106.8	256,516	95.4
国・県補助金	9,285	133.2	0	皆減	193,842	皆増
投資返戻金	9,850	115.2	6,800	69.0	3,850	56.6
企業債	157,300	124.7	162,400	103.2	309,600	190.6
資本的支出	685,314	89.0	700,629	102.2	1,020,085	145.6
企業債償還金	404,935	106.4	444,282	109.7	405,596	91.3
建物整備費	39,972	535.4	0	皆減	62,598	皆増
資産購入費	140,736	111.6	173,238	123.1	460,118	265.6
リース資産購入費	51,598	74.4	40,788	79.0	42,923	105.2
基金組入金	9,250	125.9	6,800	73.5	2,450	36.0
長期借入金償還金	0	皆減	-		-	
返還金	23	皆増	21	91.3	0	皆減
投資	38,800	97.9	35,500	91.5	46,400	130.7

3 貸借対照表

(資産の部)

単位：千円

	30年度		令和元年度		令和2年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	7,278,981	95.0	6,935,948	95.3	6,978,340	100.6
有形固定資産	7,045,878	95.4	6,748,490	95.8	6,745,598	100.0
土地	683,829	102.7	683,829	100.0	683,829	100.0
建物	13,433,446	100.0	13,433,446	100.0	13,490,353	100.4
建物減価償却累計額	△ 7,872,477	104.2	△ 8,192,661	104.1	△ 8,511,296	103.9
構築物	156,943	110.8	156,943	100.0	156,943	100.0
構築物減価償却累計額	△ 134,349	100.0	△ 135,791	101.1	△ 137,233	101.1
器械備品	5,341,495	101.9	5,351,889	100.2	5,580,599	104.3
器械備品減価償却累計額	△ 4,665,250	102.6	△ 4,664,572	100.0	△ 4,613,225	98.9
車両	4,775	151.6	9,183	192.3	9,183	100.0
車両減価償却累計額	△ 1,169	42.5	△ 1,745	149.3	△ 3,177	182.1
リース資産	314,684	84.6	328,292	104.3	142,409	43.4
リース資産減価償却累計額	△ 216,049	92.3	△ 220,323	102.0	△ 52,787	24.0
無形固定資産	91,196	71.4	50,522	55.4	52,412	103.7
ソフトウェア	91,196	71.4	50,522	55.4	52,412	103.7
投資その他の資産	141,907	98.7	136,936	96.5	180,330	131.7
長期貸付金	119,450	104.8	121,150	101.4	138,150	114.0
貸倒引当金	△ 23,100	120.9	△ 22,500	97.4	△ 27,250	121.1
長期前払消費税	45,557	93.0	38,286	84.0	69,430	181.3
流動資産	3,683,440	107.3	4,042,949	109.8	4,561,455	112.8
現金預金	2,420,732	117.8	2,754,725	113.8	2,728,530	99.0
未収金	1,241,398	91.5	1,266,912	102.1	1,809,941	142.9
貯蔵品	21,310	98.7	21,312	100.0	22,984	107.8
資産合計	10,962,421	98.8	10,978,897	100.2	11,539,795	105.1
(負債の部)						
固定負債	4,449,045	95.4	4,233,313	95.2	4,259,031	100.6
企業債	3,085,504	91.5	2,842,308	92.1	2,725,439	95.9
リース債務	37,194	56.7	59,341	159.5	63,337	106.7
引当金	1,326,347	108.1	1,331,664	100.4	1,470,255	110.4
流動負債	1,258,207	112.2	1,258,531	100.0	1,164,741	92.5
企業債	444,281	109.7	405,596	91.3	426,468	105.1
他会計借入金	0		0		0	
リース債務	40,721	76.8	41,070	100.9	28,453	69.3
未払金	510,720	123.8	543,703	106.5	410,851	75.6
引当金	241,706	105.3	248,234	102.7	279,415	112.6
その他流動負債	20,779	97.1	19,928	95.9	19,554	98.1
繰延収益	3,264,782	97.4	3,195,728	97.9	3,299,829	103.3
長期前受金	10,251,637	102.2	10,410,756	101.6	10,572,423	101.6
長期前受金収益化累計額	△ 6,986,855	104.6	△ 7,215,028	103.3	△ 7,272,594	100.8
負債合計	8,972,034	98.2	8,687,572	96.8	8,723,601	100.4
(資本の部)						
資本金	2,433,060	100.0	2,433,060	100.0	2,433,060	100.0
剰余金	△ 442,673	92.5	△ 141,735	32.0	383,134	-270.3
資本剰余金	99,666	110.6	109,448	109.8	120,780	110.4
利益剰余金	△ 542,339	95.4	△ 251,183	46.3	262,354	-104.4
資本合計	1,990,387	101.8	2,291,325	115.1	2,816,194	122.9
負債・資本合計	10,962,421	98.8	10,978,897	100.2	11,539,795	105.1

4 診療行為別診療収入の状況

単位：千円

	平成30年度			令和元年度			令和2年度				
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比		
入院	基本診療料	3,042,614	75.4	101.5	3,243,594	74.3	106.6	3,003,478	72.5	92.6	
	検査料	48,275	1.2	88.5	51,227	1.2	106.1	43,898	1.1	85.7	
	画像診断	14,254	0.4	90.3	13,860	0.3	97.2	13,835	0.3	99.8	
	投薬	43,923	1.1	103.4	43,826	1.0	99.8	41,911	1.0	95.6	
	注射	42,936	1.1	109.1	40,412	0.9	94.1	57,792	1.4	143.0	
	理学療法	122,668	3.0	113.2	123,729	2.8	100.9	142,524	3.4	115.2	
	処置	71,361	1.8	89.9	64,713	1.5	90.7	52,911	1.3	81.8	
	手術	635,580	15.8	97.1	693,128	15.8	109.1	705,111	17.0	101.7	
	麻酔	6,703	0.2	7.4	95,549	2.2	1425.5	91,905	2.2	96.2	
	合計	4,028,316	100.0	98.7	4,374,575	100.0	108.6	4,154,507	100.0	95.0	
	患者1人当たり収入(円)	45,833	—	103.3	48,032	—	104.8	49,174	—	102.4	
	外来	基本診療料	336,579	15.5	104.1	356,980	16.4	106.1	350,198	16.6	98.1
		検査料	510,233	23.6	103.5	509,963	23.1	99.9	481,036	22.4	94.3
画像診断		311,169	14.3	106.1	320,387	14.7	103.0	308,822	14.6	96.4	
投薬		123,611	5.7	100.3	63,752	2.9	51.6	50,459	2.4	79.1	
注射		481,396	22.2	116.8	495,466	22.4	102.9	491,145	22.9	99.1	
理学療法		40,697	1.9	103.8	38,178	1.8	93.8	27,836	1.3	72.9	
処置		278,671	12.8	91.5	315,136	14.5	113.1	316,103	14.9	100.3	
手術		26,071	1.2	103.8	30,484	1.4	116.9	32,818	1.6	107.7	
麻酔		1,480	0.1	82.5	1,767	0.1	119.4	1,726	0.1	97.7	
精神療法		2,716	0.1	100.9	2,595	0.1	95.5	2,231	0.1	86.0	
処方せん料		56,967	2.6	100.6	56,871	2.6	99.8	52,780	2.5	92.8	
合計		2,169,590	100.0	104.6	2,178,431	100.0	100.4	2,115,158	100.0	97.1	
患者1人当たり収入(円)		12,710	—	105.8	12,994	—	102.2	13,858	—	106.7	

5 診療科別診療収入の状況

(1) 入院・外来合計

単位：千円

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
内科 (*1)	1,852,785	29.7	1,990,578	30.5	1,861,456	29.8
神経内科 (*2)	22,890	0.4	23,046	0.4	28,487	0.5
消化器内科 (*3)	396,029	6.4	411,688	6.3	507,249	8.1
循環器内科 (*3)	670,784	10.8	640,932	9.8	461,961	7.4
小児科	159,361	2.6	171,122	2.6	126,187	2.0
外科	951,749	15.4	1,106,533	16.9	978,087	15.6
乳腺外科	-	-	-	-	12,757	0.2
整形外科	701,113	11.3	794,388	12.1	860,548	13.7
脳神経外科	408,087	6.6	429,559	6.6	450,238	7.2
皮膚科	112,313	1.8	107,253	1.6	99,769	1.6
形成外科	2,675	-	4,228	-	3,985	-
泌尿器科	463,912	7.5	375,931	5.7	458,169	7.3
産婦人科	285,291	4.6	317,542	4.8	241,390	3.9
眼科	41,497	0.7	40,698	0.6	32,507	0.5
耳鼻いんこう科	13,435	0.2	14,972	0.2	41,682	0.7
放射線科	24,933	0.4	28,483	0.4	25,184	0.4
神経科	4,455	0.1	4,143	0.1	3,750	0.1
麻酔科	2,650	0.1	2,275	0.1	1,845	0.1
リハビリテーション科	26,064	0.4	22,634	0.3	14,277	0.2
歯科	57,881	0.9	67,000	1.0	60,137	1.0
外科	6,197,904	100.0	6,553,006	100.0	6,269,665	100.0
合計						

(*1)は、血液浄化を含む

(*2)は、非常勤医師

(*3)は、一般内科（呼吸器内科、血液内科、糖尿病）を含む

救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

(2) 入院

単位：千円

区分	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科 (*1)	1,025,751	25.4	107.9	1,130,053	25.5	110.2	1,031,097	24.5	91.2
神経内科 (*2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
消化器内科 (*3)	252,760	6.3	117.3	306,468	7.0	121.2	385,791	9.3	125.9
循環器内科 (*3)	512,052	12.7	94.4	483,653	11.1	94.5	330,807	8.0	68.4
小児科	83,538	2.1	91.5	95,046	2.2	113.8	67,542	1.6	71.1
外科	680,046	16.9	96.4	819,533	18.7	120.5	692,063	16.7	84.4
乳腺外科	-	-	-	-	-	-	7,209	0.2	皆増
整形外科	545,588	13.5	102.2	632,978	14.5	116.0	707,558	17.0	111.8
脳神経外科	336,836	8.4	80.0	361,271	8.3	107.3	388,603	9.4	107.6
皮膚科	48,008	1.2	108.7	46,604	1.1	97.1	44,338	1.1	95.1
形成外科	-	-	-	214	0.1	皆増	0	0.0	-
泌尿器科	276,024	6.9	104.9	192,779	4.4	69.8	253,438	6.1	131.5
産婦人科	244,094	6.1	84.6	279,095	6.4	114.3	205,203	4.9	73.5
眼科	14,650	0.4	90.7	15,290	0.3	104.4	10,793	0.3	70.6
耳鼻いんこう科	260	0.1	9.9	232	0.1	89.4	19,086	0.6	8211.6
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神経科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	8,708	0.2	105.7	11,572	0.3	132.9	10,980	0.3	94.9
合計	4,028,316	100.0	98.7	4,374,575	100.0	108.6	4,154,507	100.0	95.0

(*1)は、血液浄化を含む (*2)は、非常勤医師 (*3)は、一般内科（呼吸器内科、血液内科、糖尿病）を含む

救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

(3) 外来

単位：千円

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
内科 (*1)	827,034	38.1	860,525	39.5	830,360	39.3
神経内科 (*2)	22,890	1.1	23,046	1.1	28,487	1.3
消化器内科 (*3)	143,269	6.6	105,220	4.8	121,458	5.7
循環器内科 (*3)	158,732	7.3	157,279	7.2	131,154	6.2
小児科	75,823	3.5	76,076	3.5	58,645	2.8
外科	271,703	12.5	287,001	13.2	286,024	13.5
乳腺外科	-	-	-	-	5,548	0.3
整形外科	155,525	7.2	161,409	7.4	152,990	7.2
脳神経外科	71,251	3.3	68,288	3.1	61,635	2.9
皮膚科	64,305	3.0	60,649	2.8	55,431	2.6
形成外科	2,675	0.1	4,228	0.2	3,985	0.2
泌尿器科	187,888	8.7	183,151	8.4	204,731	9.7
産婦人科	41,197	1.9	38,447	1.8	36,188	1.7
眼科	26,847	1.2	25,408	1.2	21,713	1.0
耳鼻いんこう科	13,175	0.6	14,740	0.7	22,596	1.1
放射線科	24,933	1.1	28,483	1.3	25,184	1.2
神経科	4,455	0.2	4,143	0.2	3,750	0.2
麻酔科	2,650	0.1	2,275	0.1	1,845	0.1
リハビリテーション科	26,064	1.2	22,634	1.0	14,277	0.7
歯科	49,173	2.3	55,428	2.5	49,157	2.3
合計	2,169,590	100.0	2,178,431	100.0	2,115,158	100.0

(*1)は、血液浄化を含む (*2)は、非常勤医師 (*3)は、一般内科 (呼吸器内科、血液内科、糖尿病)を含む

救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

6 企業債・減価償却の状況

(1) 企業債の年度別状況

単位：千円

	発行総額	当年度償還高	償還高累計	未償還残高	企業債利息
平成23年度	9,330,400	405,160	3,620,436	5,709,964	170,995
平成24年度	9,330,400	418,245	4,038,681	5,291,719	157,910
平成25年度	9,210,400	458,245	4,367,926	4,842,474	144,392
平成26年度	9,370,300	401,705	4,616,730	4,753,570	129,915
平成27年度	9,482,100	415,858	5,032,588	4,449,512	116,345
平成28年度	9,575,200	510,799	5,543,387	4,031,813	101,708
平成29年度	7,087,200	380,493	3,309,779	3,777,421	88,178
平成30年度	7,052,400	404,935	3,522,615	3,529,785	80,556
令和元年度	7,214,800	444,282	3,966,896	3,247,904	72,669
令和2年度	7,202,600	405,596	4,050,692	3,151,908	64,525

(2) 減価償却額の年度別状況

単位：千円

	建物	構築物	器械・備品	車両	リース資産	無形固定資産	減価償却費合計
平成23年度	195,740	2,290	35,004	0			233,034
平成24年度	195,789	1,950	28,329	0			226,068
平成25年度	196,358	1,950	13,967	0			212,275
平成26年度	320,218	1,876	83,141	0	188,123		593,358
平成27年度	322,955	1,783	109,743	0	153,813	36,600	624,894
平成28年度	322,405	986	123,793	0	106,829	41,920	595,933
平成29年度	321,314	63	132,761	0	61,462	41,920	557,520
平成30年度	320,659	63	135,206	0	42,996	49,634	548,558
令和元年度	320,184	1,442	130,214	577	34,137	52,254	538,808
令和2年度	318,635	1,442	116,151	1,432	33,319	17,970	488,949

Ⅲ 各部署の活動状況

診療部

【令和2年度の活動】

- ① 新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、地域医療を死守した。
- ② 新型コロナウイルスの流行に伴い発熱外来を設置し、発熱患者の診療にあたった。
- ③ 新型コロナウイルスワクチンの接種業務に積極的にあたり、地域ニーズに応えた。
- ③ 入院、外来患者数は前年並みであったが、積極的にコスト削減に取り組んだ。
- ③ 平成26年度に開設した地域包括ケア病棟を積極的に利用した。
- ④ 当院は救急医療を担っており、二州地区の基幹病院としての役割を果たしている。

【令和2年度の評価】

- ① 新型コロナウイルス関連業務に積極的に取り組み、地域医療に貢献した。
- ② 積極的にコスト削減に取り組み、平成22年度から11年連続の黒字決算となった。
- ③ 地域包括ケア病棟は80%以上の稼働率で収益増に貢献した。
- ④ 救急医療において、地域の救急に貢献した。
- ⑤ 医師不足地域の診療所に医師を派遣し、地域医療に貢献した。

【令和3年度の目標】

- ① 専門医療を充実させる。(最新のガイドラインに準じ、全国水準の治療を行う。)
- ② 各科全ての医師が、common diseaseに対しても、積極的に関与する。
- ③ 病状説明書・同意書等を充実させ、患者さんが安心できる環境を整備する。
- ④ カンファランス・チーム活動等を通じて、他科及び他職種とコミュニケーションを図る。
- ⑤ 紹介患者、救急車の積極的受け入れを行う(原則100%受入)。
- ⑥ 紹介逆紹介を含め、適切な地域医療連携の推進を行う。
- ⑦ 働き方改革の推進。
- ⑧ チーム主治医制等を検討し、労働時間の適正化に取り組む。

医療安全管理室

【令和2年度の活動】

1. インシデント・アクシデント事例において適切な対策が立案できるよう要因分析の教育を強化した。
2. PDCAを有効にまわすために、医療安全カンファレンスの推進に努めた。
3. 組織横断的な医療安全対策のため他部署の事故を未然に防いだ気づきのレポート・他部署に事故を防いでもらった感謝のレポートの推進に努めた。

【令和2年度の評価】

1. 要因分析の教育として要因分析の基礎知識を1クール目に加えて、実際の事例を用いて要因分析を行いながら実践的に教育する2クール目を開始した。指導用スライド指導要綱・運用マニュアル・評価基準・評価表・指導記録を作成し個別指導を丁寧に行った。
2. 医療安全カンファレンスは、報告数令和元年度592枚・令和2年度864枚と約1.5倍となった。今後は、カンファレンス時に関連するマニュアルを参考にカンファレンスすることを推進していく。
3. 気づき・感謝のレポート数は気づき196枚・感謝55枚であった。開始初年度と比較するものはないが、職種間がお互いをリスペクトし質の高い医療へとつなげるためにも気づき・感謝のレポートの推進は継続していく。

【令和3年度の目標】

1. **インシデント・アクシデント事例において適切な対策が立案できる**
各部署のリスクマネージャーと医療安全管理室の担当者が日を設定して要因分析や目標の進捗状況について協議する。
2. **PDCAを有効にまわす**
医療安全カンファレンスで事例検討する場合は、マニュアルに沿ってカンファレンスする。
3. **組織横断的な医療安全対策で他部署の事故防止にもつなげることができる**
病院の中での自部署の役割を理解し、関連部署に支えられて日々の業務を行えていることを認識する。その為、関連部署の業務にも関心を持ちリスペクトする考え方を自部署で教育・普及する。

感染制御センター

【令和2年度の活動】

(目的) 院内感染の発生を未然に防止するとともに、その拡大を最小限にする

(目標) ・院内感染対策を徹底し、職員・患者・家庭を感染から守る

- ・病院職員が感染対策の重要性を理解し、日常行動の中に感染制御の基本を身に付け、実践できる
- ・地域の医療機関や行政と共に、地域の感染制御を支援する

【活動実績】

1. ICT（感染制御チーム）活動

- 1) ICT カンファレンス 週1回（毎火曜日） 10:30～11:30

- 2) ICT ラウンド 週 1 回（毎火曜日） 14:00～15:30
- 3) ICT メンバーおよび感染リンクナース・スタッフによる環境ラウンド
週 1 回（部署で決定）
- 4) 適宜ラウンド
新型コロナウイルス・サーベイランスで感染率が増加した場合など
- 5) 感染防止対策加算 1 相互チェック（カンファレンスおよびラウンド等）
・年 2 回実施：福井勝山総合病院
（令和 2 年 6 月 24 日、令和元年 7 月 3 日）
- 6) 感染防止対策地域連携加算（カンファレンスおよびラウンド等）
・年 4 回実施：泉ヶ丘病院（FICNet による合同カンファレンス含む）
（令和 2 年 6 月 19 日、令和 2 年 7 月 29 日、令和 2 年 11 月 11 日、
令和 2 年 11 月 27 日）

2. 研修・教育

【院内】

- 1) 全体研修（年 2 回以上）：全職員対象（不参加者はレポート提出）

「新型コロナウイルス感染症について」・・・高橋秀房先生

「新型コロナウイルス感染を疑う患者の検体採取について」・・・検査室長 川端直樹

- ① 1 回目：10 回実施（不参加者はビデオ聴講とレポート提出）

令和 2 年 6 月 3 日～令和 2 年 6 月 12 日

	月日	開催時間
1	6 月 3 日（水）	17：30～
2	6 月 5 日（金）	15：30～
3	6 月 8 日（月）	15：30～
4	6 月 8 日（月）	17：30～
5	6 月 9 日（火）	15：30～
6	6 月 10 日（水）	17：30～
7	6 月 11 日（木）	15：30～
8	6 月 11 日（木）	17：30～
9	6 月 12 日（金）	15：30～
10	6 月 12 日（金）	17：30～

*参加者・参加率 461 名/575 名・80.2%

*不参加者 114 名（全員、聴講・レポート提出有）

*最終参加率 100%

- ② 2 回目：7 回実施

「新型コロナウイルス感染症・感染対策」・・・感染制御センター 田中恵実

「新型コロナウイルス感染を疑う患者の検体採取について」・・・薬剤師 新谷智則

令和3年1月26日～令和3年1月28日

	月日	開催時間
1	1月26日(火)	12:15～
2	1月26日(火)	15:30～
3	1月27日(水)	12:15～
4	1月27日(水)	15:30～
5	1月28日(木)	11:00～
6	1月28日(木)	12:15～
7	1月28日(木)	15:30～

上記5回目はボランティア対象

*最終参加率 98.3%

【院外活動】

1) 地域での研修会・講習会・ラウンド・その他

- ・FICNet 世話人会参加(5月、8月、9月、11月、1月、3月) 川端直樹・田中恵実
- ・県内ICN交流会:8月、9月、10月、12月、1月 田中恵実
- ・令和2年8月27日 地域開放型学習会:
「新型コロナウイルス感染症対策について」講師 田中恵実
- ・令和2年10月13日 再就職者研修:
「吸引と採血方法」 田中恵実
- ・令和2年10月26日 福井県美容師組合:
「美容院における新型コロナウイルス感染症対策について」講師 田中恵実
- ・令和2年12月2日 若狭町社会福祉協議会:
訪問看護ステーション対象 新型コロナウイルス感染対策講習会 講師 田中恵実
- ・令和3年2月24日 美浜町地域包括支援センター:
介護支援専門員対象新型コロナウイルス感染症対策 講師 田中恵実
- ・児童福祉施設等対象感染対策に関する相談窓口事業:看護協会
小堀和美(令和2年8月25日・9月17日・10月20日)
田中恵実(令和2年8月18日・9月29日・10月29日) 合計6回従事

2) 施設ラウンド:3施設(二州健康福祉センター職員と合同で実施)

①令和2年6月16日

美浜町子供子育てサポートセンター 田中恵実

②令和2年9月9日

市内私立保育園対象「運動会実施における感染対策について」講師 田中恵実

③ 令和2年9月15日

グループホームつくし「施設内で新型コロナウイルス感染症患者の発生時の対応について」講師 田中恵実

【令和2年度の評価】

今年度はMRSAやCD、耐性菌の検出率の低下がみられた。更に手指消毒剤の1患者あたり1日の使用回数は毎年2回だったが、今年度は8回と使用回数の上昇がみられた。

また、地域に向けて研修会や施設ラウンドも要望件数が徐々に増加している。地域の中核病院として、感染対策の中心病院となり、嶺南地域全体が関連対策のレベルアップに向けて、二州健康福祉センターと協働した活動の取り組みも継続していく。

また、コロナ対応はある特定の人・部署だけがするものからコロナと共存にシフトしていく時期である。次年度の課題は、院内職員全員で新型コロナワクチン感染対策に取り組む体制づくりを強化していくことが必要。

【令和3年度の目標】

- 1) 院内感染・アウトブレイクを起こさないため、平常時からの標準予防策が実践できるよう院内感染対策の教育・指導を徹底する。
- 2) 手指衛生の遵守率、手指消毒剤の使用回数UPにむけた取り組みを継続する。
- 3) 院内の感染対策に関する職員の意識・知識の向上のために、現場実践に即した指導・教育の継続を図る。
- 4) 院内感染の早期発見と対策が部署で実践できるようリンクスタッフを育成する。
- 5) 行政や嶺南地域の医療機関との連携を行い、地域の感染対策に関する知識・技術が向上できる活動を支援する。
- 6) 院内職員全員で新型コロナウイルス感染対策に取り組む体制づくりを強化

人材確保育成室

【令和2年度の活動】

(人材確保)

医師・看護師等医療従事者の確保対策

- ・医師確保のため、県や関係大学への交渉を継続。

(人材育成)

目標管理制度(人事考課)の推進。

- ・目標管理制度(人事考課)について、WEB会議での外部講師による集団研修を実施。

新規採用職員及びリーダー級研修の企画

- ・令和2年度職員全体として初めての新規採用職員研修を実施。
- ・主任・係長級向けの研修会を実施。

【令和2年度の評価】

目標管理制度（人事考課）についても、制度実施により所属での人材育成及び業務改善につなげることができた。また、各職員全体での新規採用職員研修の企画により、入職時から病院職員としての一体感の醸成を図ることができた。主任・係長級向けの研修では、特に必要とされる問題解決プロセスについて学び、スキル向上に繋げることができた。

【令和3年度の目標】

- ① 医療従事者の確保
 - ・令和2年はコロナ禍により学校訪問が実施できなかったため、看護師・薬剤師等の採用困難職種については状況を確認しながら実施する。
- ② 目標管理制度（人事考課）の推進
 - ・外部講師と連携しながら、円滑な制度運用を図る。
- ③ 医療職等の実習体制の整備
 - ・各部署及び職種における受入体制の整備を図る。
- ④ 教育研修体制の整備
 - ・部署間での人材育成にかかる情報交換や業務改善にかかる研修を実施。

地域医療連携室

【令和2年度の活動】

- ① 地域関係機関に向けた広報の充実
 - ・病院広報「きらめき」発刊に向けた医療情報PR
 - ・乳腺外科開設PR
 - ・乳がん検診枠増加に向けたPR
 - ・かかりつけ医ガイドの発行（年1回）
 - ・広報付き病院案内板へのデータ提供
- ② 地域医療連携室の業務の可視化
 - ・紹介逆紹介に関する業務内容を可視化、役割分担
 - 関連図、フローなどマニュアルの見直し、新規作成
- ③ 地域に向けた研修会開催の年間計画、各月調整 アンケート実施および結果の可視化

(病院 HP 参照)

地域開放学習会	開催合計 8 回	参加人数合計 98人
出前講座	開催合計 2 回	参加人数合計 267人

④ 紹介・逆紹介率アップに向けた支援→紹介率 2 p アップ 逆紹介 10.3p アップ
(前年度比較)

- ・診療情報提供書、報告書(返書)の充実に向けた取り組みを支援
返信状況追跡についての基準を見直しフローで可視化
返書依頼についてデータで可視化

⑤ 職員のスキル・知識向上

- ・医師事務作業補助者資格取得 3名

【令和 2 年度の評価】

(1) 紹介及び逆紹介の状況

	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度
全診療情報提供書受理数(件)	6,269	5,659	5,677
紹介患者(初診)(人) A	3,758	3,369	3,001
初診料算定患者(人) B	15,077	13,921	11,272
救急車搬送患者(初診)(人) C	941	931	1,090
外来時間外患者(初診)(人) D	4,714	4,594	3,058
逆紹介数(診療情報料算定(件) E	4,118	4,765	4,781
紹介率(%) ※1	39.9	40.1	42.1
逆紹介率(%) ※2	43.7	56.8	67.1

(C: 救急車搬送者初診のみ)

※1 紹介率(%) = $[A / \{B - (C + D)\}] * 100$

※2 逆紹介率(%) = $[E / \{B - (C + D)\}] * 100$

(2) 開放型病床の状況

	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度
利用医師数(実人数)	192(26)	188(24)	202(24)
利用患者数(実人数)	6,983(518)	6,995(536)	6,844(593)
利用率(%) (*3)	95.6	95.8	93.8

(*3) 利用率 = ((開放型病床に入院した患者の診療を担当している保険医の紹介による延べ入院患者数) / (開放型病床数 × 365 日))

(3) ふくいメディカルネット運用件数 単位：件

	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度
二州地区閲覧病院	428 (83)	301 (66)	206 (41)
その他地区閲覧病院	2 (0)	5 (1)	3 (0)
開示病院	309 (159)	324 (189)	282 (124)
合計	739 (242)	630 (256)	491 (165)

()は当院の同意取得件数

【令和 3 年度の目標】

1. 安全・安心で質の高い医療の提供
 - ①感染対策の推進
 - ②急性期～回復期機能のあらゆる顧客（患者、院内・院外関係者）に満足してもらえる医療支援提供と相談対応
2. 人材のさらなる育成及び活用
 - ①教育・研修体制を確立し、地域に求められる人材育成
 - ②チーム医療を推進し支援調整業務の質向上を目指す
3. つながりのある地域医療の推進
 - ①地域の医療介護福祉施設との連携強化
 - ②地域（市民）とのつながりを意識し、学習会等企画
4. 効率的運用
 - ①算定可能業務の見直し
 - ②業務整理、時間外業務の削減

患者相談室

【令和 2 年度の活動】

- ①安全・安心で質の高い医療の提供：顧客（患者・院内関係者・院外関係者）に満足してもらえる医療支援の提供。高度医療・急性期医療～回復期における連携・医療。
- ②人材のさらなる育成及び活用：スキルアップの体制確立（各種研修会参加・研修会の企画開催）。カンファレンス等の質の向上（チーム医療を推進）。
- ③つながりのある地域医療の推進：地域の医療介護福祉施設との連携強化。地域（市民）とのつながりを意識し、開放学習会等企画・患者中心の医療支援の提供。
- ④効率的運用：算定可能業務の見直し。業務整理、時間外業務の削減。

【令和 2 年度の評価】

- ①安全・安心で質の高い医療の提供
・4/1～2/28 までの相談件数は 322 件。8 月から回答依頼方法を変更したことにより回答依頼後の入力・1 か月後評価もし易く、依頼状況も可視化され分かり易くなった。結果、

8月～事実確認依頼は40件/40件（100%）、1か月評価まで終了34件（85%）、1か月評価依頼中4件（10%）、事実確認依頼中2件（5%）と依頼部署からの回答がスムーズになり依頼回答率が改善された。

・患者サポート相談会議を48回開催。苦情報告の他に、気がかり報告やご意見箱の報告をおこなった。資料提示や俯瞰図を用いて事例提示し部署間の情報共有を密にした。
→顧客満足の確認については、達成基準を追加して評価したところ86件中11件（12%）感謝の言葉や態度表出を受けている。

②人材のさらなる育成及び活用

・患者サポートマニュアルを電子カルテ掲示板に提示できるように内容を検討した。

③つながりのある地域医療の推進

・関係部署への事実確認や患者へのフィードバックを継続した。

・患者相談室ミーティングは、5月・8月に開催した。

・苦情からの改善としては、整形外科書類の保管不備から書類管理環境の改善を行った事例、また相談からの質の改善としては、リハビリ・循環器内科と共同し、運動方法のパンフレットを作成したことが挙げられる。

④効率的運用

業務内容の可視化と記録・面談・情報収集にかかる時間配分を把握し改善を行った。

【令和3年度の目標】

1. 安全・安心で質の高い医療の提供

①感染対策の推進

②急性期～回復期機能のあらゆる顧客（患者、院内・院外関係者）に満足してもらえる医療支援提供と相談対応

2. 人材のさらなる育成及び活用

①教育・研修体制を確立し、地域に求められる人材育成

②チーム医療を推進し支援調整業務の質向上を目指す

3. つながりのある地域医療の推進

①地域の医療介護福祉施設との連携強化

②地域（市民）とのつながりを意識し、学習会等企画

4. 効率的運用

①算定可能業務の見直し

②業務整理、時間外業務の削減

入退院支援室

【令和2年度の活動】

- ①質の高い医療の提供：入退院支援室の運営、マニュアル作成。QCレポートの活用。
- ②つながりのある医療の推進：病棟との情報共有、スムーズな入退院支援。
- ③地域医療の拡充：経済的、社会的問題のある患者に早期に介入し地域との連携を図る。
- ④人材の育成と活用、働き方改革：超過勤務内容の明確化と時間削減、年休取得
- ⑤健全経営の維持：入退院支援加算算定件数の増加

【令和2年度の評価】

- ・MSWのミーティングを定期的で開催し、退院困難な患者について情報共有した。
- ・当月入退院支援スクリーニング患者数は平均412件、入退院支援必要患者数は平均132件、入退院支援加算Ⅰ算定件数は平均40件と前年度と大きな変化はなかった。
- ・当月の入退院支援加算Ⅰ全算定数は平均13件であった。
- ・当日の入院面談実施数はコロナ禍の面会制限の影響で昨年より3割減少したが、代わりに電話での連絡が3割増加し、退院支援の質の維持に向けて対応した。
- ・多職種カンファレンスの記録をテンプレート化し業務を標準化した。
- ・退院カンファレンスの質向上に向けて定期的に多職種ミーティングを行っている。
- ・入院案内・入院支援係では、毎月ミーティングを開催し、安心・安全に入院できるよう質の向上に努めた。また、入院時支援患者以外にも入院時支援ナースからMSWに情報提供し退院支援の早期介入につなげた。
- ・患者サービスの一環として6月から始まったオンライン面会では面会者の窓口となり、年度末までに264件、月平均26.4件に対応した。

【令和3年度の目標】

- 1.安心・安全で質の高い医療の提案
 - ①感染対策の推進
 - ②急性期～回復期機能のあらゆる顧客（患者、院内・院外関係者）に満足してもらえる医療支援の提供
- 2.人材のさらなる育成及び活用
 - ①教育・研修体制を確立し、地域に求められる人材育成
 - ②チーム医療を推進し支援調整業務の質向上を目指す
- 3.つながりのある地域医療の推進
 - ①地域の医療介護福祉施設との連携強化
 - ②地域（市民）とのつながりを意識し、学習会等企画
- 4.効率的運用
 - ①算定可能業務の見直し
 - ②業務整理、時間外業務の削減

医療技術部

【令和2年度の活動】

- ①『医療技術部各室との情報共有と協力』をコンセプトに、医療技術部の目標である『安心・安全に向けた仕組み作りを実践する』ことを目標とした。
- ②『病院目標』を基に医療技術部・各室が作成した目標に沿って個人目標を作成するよう働きかけ、医療技術部内で協力してその目標達成を支援した。
- ③薬剤部・医療技術部主任会の活動を軌道にのせられるようにアドバイスをを行った。

【令和2年度の評価】

- ①医療技術部代表者会議を定期的で開催した（10回／年）。各部署で行っている感染対策を共有し、参考となることは取り入れて安心・安全な医療の提供に向けた仕組み作りを実践した。
- ②個人目標は、おおむね医療技術部、各室が作成した目標に沿っていた。1次考課者および職員同士で協力し目標達成に向け支援できた。
- ③薬剤部・医療技術部主任会活動として、薬剤部・医療技術部職員録を作成できた。コロナ禍で職員間の交流が困難な状況なので、情報交換に役立つツールと思われる。

【令和3年度の目標】

- ①『医療技術部各室との情報共有と協力』を推進し、医療技術部の目標である『他部署の業務負担を軽減し、病院全体の効率化に協力する』ことを目標とする。
- ②『病院目標』を基に医療技術部・各室が作成した目標に沿って個人目標を作成するよう働きかける。協力してその目標達成を支援する。
- ③薬剤部・医療技術部主任会の活動として、感染対策に配慮しつつ多職種共同による院内研修等を開催する。

検査室

【令和2年度の活動】

病院理念、病院目標を基本とし「安全・安心で質の高い医療の提供」、「人材のさらなる育成及び活用」、「つながりのある地域医療の推進」、「効率的運用」を主眼とした検査室部門目標に基づき取り組みを行った。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う業務増加に対し、検査室内のタスク見直しを行い対応した。

1) 安心・安全で質の高い医療の提供

- ①感染制御を踏まえた業務の標準化、精度管理業務の見える化、停電時対応の見直しなどを行った
- ②インシデントレポートや部門ミーティングなど情報共有の仕組みを活かした業務改善を推進し、併せてその記録の充実に取り組んだ

<p>③新たに始業前報告の取り組みの開始や検体受付時の業務改善により、他職種支援を行った</p> <p>2) 人材のさらなる育成及び活用</p> <p>①検査室全体で目標管理制度を通じた人材育成に取り組み、個人目標達成に向けた支援を上司だけでなくスタッフ間でも行った</p> <p>②経験年数に応じたスキル表を作成し、院内および検査室内での立ち位置と役割を明確にした</p> <p>③職員減に向けて業務分掌の見直しと新しい業務の役割を明確にした。</p> <p>3) つながりのある地域医療の推進</p> <p>①新型コロナウイルス感染症関連業務を他職種及び他部署と連携し対応した</p> <p>②システムや検査機器の更新に伴う運用変更、業務改善に伴う運用変更について、他部署と情報共有を継続して行った</p> <p>4) 効率的運用</p> <p>①始業前報告の取り組みをはじめ、中央採血室レイアウト変更など既存設備の有効活用を提案及び実践できた</p> <p>②ガス分析装置、輸血システム、睡眠評価装置、超音波装置、安全キャビネット、遺伝子検出装置など、検査の質を担保した上でコスト削減の提案ができた</p> <p>③看護部支援の一環として、中央採血室における看護師負担を担った</p>
<p>【令和2年度の評価】</p> <p>上記の活動を通じて、当初の目標は概ね達成するとともに、医療の質の向上、検査室機能および患者サービスの向上につながったと考える。さらに新型コロナウイルス感染症対応として検査室の機能拡大を図り、特に遺伝子検査の夜間休日対応など臨床検査技師に求められる業務の遂行に注力した。</p>
<p>【令和3年度の目標】</p> <p>継続性を重視し、病院理念、病院目標を基本とした「安心・安全で質の高い医療の提供」、「人材のさらなる育成及び活用」、「つながりのある地域医療の推進」、「効率的運用」を主眼とし、新型コロナウイルス感染症対応を含め下記のとおり検査室部門目標の設定と取り組みを行う。</p> <p>1) 安心・安全で質の高い医療の提供</p> <p>①感染制御に配慮した検査室業務の標準化推進 ～標準予防策とゾーニングの遵守～</p> <p>②情報共有の仕組みを活かした業務改善の推進とその記録の充実 ～報連相と記録の充実～</p> <p>③質の高い医療提供に向けた他職種支援 ～相手目線で考える～</p> <p>2) 人材のさらなる育成及び活用</p> <p>①検査室全体で取り組む目標管理制度と、個人目標達成に向けた支援 ～上司から同僚から～</p>

②教育プログラムの見直しと、経験年数に応じた教育プログラムの運用 ～立ち位置と役割～

③業務改善の継続と検査室内業務連携 ～組織の進化とすき間業務～

3) つながりのある地域医療の推進

①他職種、他部門間のつながりを広げ、業務の連携を進める ～どこの誰と何をする～

②検査室の特性を活かした、他部門との連携 ～検査の担当者から責任者へ～

③院内外の連携深化にむけて、報連相の実践強化 ～情報の流れ 個人から検査室へ～

4) 効率的運用

①既存検査項目および検査機器の有効活用 ～今あるヒト・モノでナニが出来る～

②検査の質に重点を置いた上でのコスト削減の提案 ～検査技師ならではの視点を～

③業務改善の継続と検査室内業務連携 ～組織の進化とすき間業務～

放射線室

【令和2年度の活動】

1、安全・安心で質の高い医療の提供

1-① 放射線管理の強化と院内教育の充実

1-② 医療機器の有効利用と整備

1-③ 画像診断技術の更なる向上

1-④ 救急医療体制の運用と整備を考える

2、人材のさらなる育成及び活用

2-① 新人教育を通じて人材育成の強化

2-② 各部門のコミュニケーションや情報共有を強化する

2-③ 放射線学および放射線学の枠を超えた研究や学会発表を推進し学問のレベルを高める

3、つながりのある地域医療の推進

3-① 院内外へのつながりを広げ、医療連携の拡大を目指す

3-② 院外医療施設への積極的なPRと正確な情報提供

3-③ 共同利用率の向上

4、効率的運用

4-① 検査予約枠の設定の再考で、ムダのない効率的な時間づくりと人員配置を考える

4-② 働き方改革を推進し勤務の平均化をはかる

4-③ 使用物品の見直しや節約等の経費節減に対する意識改革

4-④ 診療報酬の改定に沿って収入の増加を考える

【令和2年度の評価】

- 1、令和2年4月からはじまる診療用放射線の利用に係る安全管理の取り組みを行った
- 2、医療機器の整備について、コロナの補助金によりCT装置・ポータブル撮影装置が導入され、嶺南医療の補助金により、X線テレビ装置・超音波装置・一般撮影フラットパネルが決定した
- 3、医療安全の強化においてスタッフ間の情報共有により医療事故防止に取り組めた
- 4、院外のCTやMRIなどの予約情報について丁寧な情報発信に心掛けた
- 5、学会発表は新型コロナの影響もあり、例年よりも減少した
- 6、検査数増加に取り組んだことで、ほとんどすべての部門で件数増加となった

【令和3年度の目標】

- 1、安全・安心で質の高い医療の提供
 - 1-① 放射線管理の強化と院内教育の充実
 - 1-② 医療機器の有効利用と整備
 - 1-③ 画像診断技術の更なる向上
 - 1-④ 感染対策を考慮した、救急医療体制の運用と整備を考える
- 2、人材のさらなる育成及び活用
 - 2-① ワクチン接種や感染対策への取り組みを強化し、他部門との協働を考える
 - 2-② 深い専門性と豊かな人間性を育むために、教育体制と人材育成を強化する
 - 2-③ 各部門のコミュニケーションや情報共有を強化する
 - 2-④ 放射線学および放射線学の枠を超えた研究や学会発表を推進し学問のレベルを高める
- 3、つながりのある地域医療の推進
 - 3-① 広報活動を強化し、院内院外へつながりを広げ医療提携の拡大を目指す
 - 3-② 院外医療施設への積極的なPRと正確な情報提供
 - 3-③ 共同利用率の向上
- 4、効率的な運用
 - 4-① 業務内容を見直し、効率のよい働き方と病院全体の効率化に協力する
 - 4-② 検査予約枠の設定の再考で、ムダのない効率的な時間づくりと人員配置をはかる
 - 4-③ 働き方改革を推進し勤務の平均化をはかる
 - 4-④ 使用物品の見直しや節約等の経費削減に対する意識改革
 - 4-⑤ 診療報酬の改定に沿って収入の増加を考える

リハビリテーション室

【令和2年度の活動】

- ①理学療法士の疾患別チーム編成ビジョンにのっとり、チームごとに専門性を高められた。
- ②当院の新型コロナウイルス感染症への対応に沿って、リハ室および職員の感染対策を見直した。
- ③感染症対策としてリハ見学や退院前訪問は行なえず、代わりに動画を用いた情報提供を検討した。
- ④病棟ごとに医師カンファレンスへの参加または多職種カンファレンスを行う体制を整えた。
- ⑤集合型研修等への参加は難しいため、WEB参加を活用した。
- ⑥理学療法士・作業療法士養成施設指定規則の改正に対応するため、都道府県臨床実習指導者講習会に参加した。
- ⑦理学療法士のキャリアデザインを参考に、作業療法士のキャリアデザインを検討した。
- ⑧心肺運動負荷試験実施のための明確な基準を検討し心リハ委員会で承認された。
- ⑨口腔外科医のみならず耳鼻咽喉科医の協力を得て嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を行った。
- ⑩病棟看護師との連携により、地域包括ケア病棟のリハ単位基準を維持した。
- ⑪新型コロナウイルス感染後患者へのリハビリテーションを提供した。

【令和2年度の評価】

- ①1名が呼吸器認定理学療法士の資格を取得した。
- ②リハ室・職員の感染対策を徹底して行った（1階リハ室は原則として外来患者専用、2階リハ室は入院患者専用。職員および患者のリハ実施前後の手指消毒の徹底。備品の使用直後の消毒の徹底など）。
- ③感染予防の観点からリハ見学や退院前訪問は行えなかったが、カンファレンスで動画を用いて情報提供しケアマネージャーなどから好評を得た。退院前カンファレンスだけでなく、入院中の途中経過をケアマネージャー・家族と共有するためのカンファレンス（リハカンファレンス）に積極的に参加し情報を交換したことで具体的な退院後の生活をイメージできるようになった結果、より安心して退院してもらえるようになった。
- ④各病棟で毎週医師カンファレンスに参加、または多職種カンファレンスを行う体制が整った。
- ⑤オンラインやWEBにて学会・研修会に参加し、得た学術的基盤に裏打ちされた知識や技術をリハ室内で回覧し、それを活用したリハビリテーション提供に努めた。
- ⑥都道府県臨床実習指導者講習会に理学療法士1名、作業療法士1名が参加し令和3年度以降入学者の指導資格を持った。
- ⑦理学療法士のキャリアデザインを参考に、作業療法士のキャリアデザインを作成した。
- ⑧心肺運動負荷試験実施のための明確な基準を用いて心肺運動負荷試験数が約20件実施でき、安全で適切な運動処方・指導が行えた。

⑨口腔外科医と耳鼻咽喉科医の協力を得て嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を行い、より安全な摂食・嚥下指導が行えた。

⑩病棟看護師との連携により、地域包括ケア病棟のリハ単位基準を維持できた。

⑪新型コロナウイルス感染後の患者へリハビリテーションを提供し、退院につなげることができた。

【令和3年度の目標】

①カンファレンス参加時にリハサマリーを持参したり、動画での説明など分かりやすい伝達に努め地域との連携を強化する（サマリー件数目標 200 件／年、前年度 184 件）

②チーム編成ビジョンにのっとりチーム間の異動を行なうことで、多種多様な疾患に対応し適切なリハビリテーションを提供できる人材を育成する。

③リハ室でのインシデント内容を分析して対応を検討し、職員に周知することで安全・安心なリハビリテーションにつなげる。

④病棟回診、認知症ケアラウンド、緩和ケアチーム会などに積極的に参加し、多職種間の連携を強化する。

⑤浴室ユニット（入浴動作シミュレーター）を活用し、安心して自宅復帰が出来るよう支援する。

⑥都道府県臨床実習指導者講習会に2名の参加を目指す。

⑦言語聴覚士の人員不足のため、特にニーズの高い小児リハについては小児科医と連携しながら処方調整する。

⑧必要性の高い患者では嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査、心肺運動負荷試験を医師に積極的に提案し、より安全で適切なリハビリテーションにつなげる。

⑨リハ室備品配置の変更、各リハ室最大収容人数の設定など感染対策をより強化し徹底させる。

⑩認定理学療法士、認知症ケア専門士の資格取得支援をする

⑪理学・作業療法士のキャリアデザインに基づき、中堅職員（経験10年以上）による若手職員への指導体制を構築する。

⑫職員各個人の目標を一覧表にしてスタッフルームに掲示し、色別付箋で進捗状況を示すことで可視化し、全員でその達成を支援する体制を構築する。

⑬業務連携のためのマニュアル（外来心リハマニュアル等）を作成する。

臨床工学技術室

【令和2年度の活動】

①透析センターにおける業務を円滑に実施した。

②病棟透析・急性血液浄化・PCPS等の業務における対応を円滑に実施した。

③稼働中の人工呼吸器の動作中点検を、毎日実施した。

④稼働中の閉鎖式保育器の動作中点検を、毎日実施した。

<p>⑤中央管理化しているME機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器・経腸栄養ポンプ・電動式低圧吸引機）の管理を安定して行った。</p> <p>⑥除細動器及びAEDの日常点検を行い、管理を強化した。</p> <p>⑦手術室に技士を派遣し、当日使用する麻酔器・電気メス・腹腔鏡等の点検を行った。</p> <p>⑧⑦に加え手術室業務として、術中回収式自己血輸血（オーソパット）を円滑に実施した。</p> <p>⑨透析液水質確保加算に対応した透析液の管理を実施した。</p> <p>⑩看護師を対象に人工呼吸器・輸液ポンプ・除細動器・生体情報モニター等の勉強会を実施した。</p> <p>⑪ペースメーカー外来に参加しペースメーカーのチェック業務を行った。</p> <p>⑫ペースメーカーの遠隔モニタリング業務を円滑に実施した。</p> <p>⑬ペースメーカー植え込み手術の立ち合いを実施した。</p> <p>⑭その他院内にある様々な医療機器の修理やトラブル対応を行った。</p>
<p>【令和2年度の評価】</p> <p>① 上記活動を通じて、当該年度の目標はほぼ達成できた。今後も安全で効率的なME機器の運用に向け努力していきたい。</p> <p>② ペースメーカーに関する業務はかなり充実できたが、一方で手術室業務に関する新たな人材を育成出来てはいないため、今後の課題としていきたい。</p>
<p>【令和3年度の目標】</p> <p>①令和2年度の活動の継続と強化を図る。</p> <p>②手術室業務をさらに充実させるため、引続き人材の育成を行っていきたい。</p> <p>③臨床工学技術室の業務マニュアルを作成したい。</p>

<p>栄養管理室</p>
<p>【令和2年度の活動】</p> <p>質の高い医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月調理室ラウンドを実施し衛生管理を徹底することで、安心して安全な食事を提供した。 ・毎月医療安全カンファレンスを実施し、インシデント・アクシデントの再発防止に努めた。 <p>人材のさらなる育成及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリセプター制度の導入、栄養管理業務マニュアルを活用し、新規入職者への業務教育を行った。 <p>つながりのある地域医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にチーム医療（NST等）、退院前カンファレンスへ参画した。

効率的運用

- ・給食管理マニュアルの見直し、新規作成を行い業務の効率化を図った。
- ・個々に応じた食事内容を提案し、適切な栄養管理、栄養指導を実施した。

入院栄養食事指導料：540 件/年

外来栄養食事指導料：175 件/年

令和 2 年度の評価】

- ・昨年度に引き続き、調理室ラウンドを実施し、衛生管理の維持に努めることができた。
- ・チーム医療、退院前カンファレンスに参画し、専門性を発揮することができた。
- ・給食管理マニュアルの見直し、新規作成を行い業務の効率化を図った。
- ・人員不足等の影響により、昨年度と比較し栄養指導介入件数が大幅に減少した件は問題点として認識し、令和 3 年度の改善を図っている。

【令和 3 年度の目標】

- ・感染対策、衛生管理、リスク管理の徹底による、安心して安全な食事の提供
- ・プリセプター制度の導入による人材育成の強化
- ・チーム医療、カンファレンスへの積極的な参画
- ・個々に応じた食事内容の提案による、適切な栄養管理の実施

歯科衛生室

【令和 2 年度の活動】

安心安全で質の高い医療の提供

- ・コロナ禍に対応した感染予防対策の徹底、環境の改善、環境整備を行うことにより、より安心安全な歯科診療を提供することができた。

つながりある医療の推進

- ・口腔ケアラウンドに介入する際、患者さんの情報共有の仕組み作り
- ・退院、転院される患者さんへの情報提供をしやすい仕組み作り

効率的運用

- ・外科器具の滅菌の期限切れを調査し少なくすることで無駄の削減
- ・口腔ケアに使用する消耗品の持ち出しを削減する為、口腔ケアオプション加入率を上げる。
- ・歯科材料の注文システムを構築し、注文頻度を把握することより、効率化を図った。

【令和 2 年度の評価】

- ・コロナ禍での歯科診療の対応については、試行錯誤しながら行うことができた。

- ・口腔ケアラウンドに介入される患者さんへの情報共有や情報提供については、仕組みができ、今後活用することで定着していきたい。
- ・外科器具の期限切れについては、10%削減できた
- ・口腔ケアオプションは月平均 77%の人が加入することができ、今後、さらに加入率を上がるよう働きかけていく。
- ・歯科材料 100 種類以上の注文サイクルが、明らかになり、やりやすくなった。

【令和 3 年度の目標】

- 1) 安心安全で質の高い医療の提供
 - ・感染対策として、スタッフの正しい手指消毒、正しい手洗いの実践と患者への手指消毒の促しを工夫する
- 2) 人材のさらなる育成及び活用
 - ・インシデント、ヒヤリハットを共有し、共に知識、技術の向上を目指す
 - ・習得した知識や情報を室内で共有できるようにする
- 3) つながりある地域医療の推進
 - ・NST ラウンドへ参加し、口腔領域の改善に繋げる
 - ・他院への紹介患者の紹介状の内容を充実したものにする
- 4) 効率的運用
 - ・効率的な業務を遂行するため、他部署と協力し助け合う
 - ・効率的な働き方ができるような仕組みを作り、各自が担当する業務改善を 2 項目以上行う

薬剤部

【令和 2 年度の活動】

コロナ禍の中で、医療を取り巻く状況の変化に迅速に対応することと、本来の安全で安心な薬物治療に貢献することを目標に掲げて取り組んだ。限られた人員体制の中で機械化やタスクシフトを進めながら専門的な業務への取り組みを進めた。

①新型コロナウイルスへの対応

消毒薬の確保、コロナ治療薬の供給と情報提供、ワクチンの管理、情報提供、調製業務等に迅速に対応してきた。

②調剤関連業務

調剤関連事故防止のため、アシスタントとも協力して IT 機器を用いた安全管理体制を継続して行った。

また、日々の業務の中で、適正使用を推進した。とくに腎機能のチェックおよびハイリスク薬のモニタリングを強化して行った。

③薬剤管理指導業務

入院中だけでなく退院後の患者さんの療養も考えた指導や、薬剤連携シート等を活用し院外施設との情報連携の強化に取り組んだ。

④医薬品情報管理業務

院内の各部署に対し医薬品適正使用のためのタイムリーな情報提供を行った。

採用医薬品の整理と見直しを医師の協力と理解を得ながら積極的に行った。

相次ぐ後発医薬品の回収等の事態に際し、情報収集を積極的に行い、医薬品の安定供給に努めた。

⑤医療安全対策業務

業務改善の推進；薬剤部QCレポート用紙の評価を行い業務改善につなげた。

⑥医薬品管理業務

SPDによる在庫管理を強化し、適正在庫に努めた。

⑦各種委員会関係

積極的参加；各種委員会へ積極的に参加し薬学的観点から提案した。

感染対策チームのメンバー強化により、AST活動を積極的に展開した。

【令和2年度の評価】

令和2年度は前年度よりさらに厳しい人員体制で始まったが、新型コロナウイルス感染症が広がる中で、薬剤部も様々な対応を求められた。少ない人員の中でタスクシフトを進めながら、求められる役割を積極的に果たしてきた。病棟活動を十分に行える人員体制は確保できなかったが、院外薬局との情報連携は積極的に行い、地域との連携の強化につながっている。その中で薬剤師、アシスタントやSPDと、それぞれの職能を発揮しながら業務の質の向上に努め、院内全体の医療活動に貢献した。

【令和3年度の目標】

① 安全・安心で質の高い医療の提供

安全安心な質の高い薬物治療へ貢献する。

医薬品の安全使用と適正な管理を推進する。

② 人材のさらなる育成と活用

個々の能力を尊重し、良好なコミュニケーションが行われる職場環境を推進する。

若手の育成計画作成と、各人のスキルアップにつながる教育研修を確立する。

③ つながりのある地域医療の推進

地域の医療機関と積極的に連携を行い、患者中心の医療を実践する。

④ 効率的運用

業務内容の見直し、タスクシェアの拡大、ICTの活用によりルーチン業務の効率化とレベルアップにつなげる。

看護部

【令和2年度の活動】

- 1 地域の皆様に、安心・安全な看護を提供します
- 2 生き活きと働き続けられる職場を目指します
- 3 多職種と連携・協働し、看護の力を最大限に発揮します

【令和2年度の評価】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各目標の達成というよりは、感染症病棟や一般病棟への勤務者の調整、PCR検査対応、発熱外来等の対応などが中心となり、委員会活動においては年間4回から6回の開催がほとんどであった。その中でも、教育や働き方改革など業務改善等も行いながら看護の質向上に向けた取り組みを行った。

1. 働き方改革委員会を主に花丸（定時で帰る）企画を実践したが、帰ることができない部署と帰ることができない部署に分かれてしまう現状があったため、次年度は応援体制等も含めた体制を整備する必要がある。
2. 教育委員会では各ステップの研修やeラーニング等を主に行った。学研サポートナーシングに変更して、教育委員会としての働きかけや、データ分析が少なかったため、次年度は必須研修を100%受講できるよう働きかけていく。
3. 記録委員会は監査の実施報告をもっとアピールして確実な実施の継続を行っていく必要がある。電子カルテのテンプレート入力が入院時に一体化したことは実施入力の時間短縮になった。精度や時間能率を次年度分析する必要がある。
4. 業務委員会はPNSグループと看護補助者担当に分かれて活動を行った。特殊部署のPNSに向けた導入の取り組みを今後検討していく。看護補助者のラダーについて検討、次年度ラダーを取り掛かる方向。
5. 褥瘡委員会は、体圧測定に関する意識を持って雨量に声掛けを継続し、体圧測定時の体位に応じた体圧測定部位を理解して測定できるように働きかける。クッションの数は足りていない現状であり、次年度予算計上していく。テンプレートの記載漏れの確認を今後の継続し定着できるようにする。

【令和3年度の目標】

- 1 看護職の倫理綱領に基づいた、安心・安全・安楽な質の高い看護の提供
- 2 生き活きと働き続けられる職場づくり、職員が働きたいと思える職場づくりの実践
- 3 多職種と連携・協働し、継続した看護を提供
- 4 看護業務の明確化とタスクシフト・タスクシェアの実施

総務企画課

【令和2年度の活動】

- ①中期経営計画の推進
 - ・11年連続で経常収支比率が100%越えになり、累積欠損金が解消した。
- ②医療器械の効果的配置
 - ・必要性や優先度を基準に審議し、補助金の活用を図った結果、CT撮影装置、人工呼吸器、採血管準備システム、全自動錠剤分包機などを導入できた。
- ③施設設備の計画的補修と円滑な管理
 - ・災害に備え、本館のUPS更新工事を行った。
 - ・管理体制の強化のため、中央監視装置等の取替工事を行った。

【令和2年度の評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により、医業収益は令和元年度と比較し、減少したものの、経常収支比率が11年連続して100%を超えたことは、職員一丸となって取り組んだ結果と考える。

アウトリーチ事業を自粛しているため、広報活動、特に薬剤師、看護師の確保に力を入れる必要がある。

【令和3年度の目標】

- ①中期経営計画の推進
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、経営悪化が懸念されるが、健全な病院経営を目指す。
 - ・経費削減
- ②医療器械の効果的配置
 - ・機種選定委員会などを開催し、必要性や優先度を基準に予算の範囲内及び各種補助金を活用し新設及び更新を行う。
- ③施設設備の計画的補修と円滑な管理
 - ・経年劣化で修繕が必要な個所を洗い出し、計画的な修繕を行う。

医療サービス課

【令和2年度の活動】

- ① 2019年及び2020年診療報酬改定への対応
 - ・施設基準に従った算定及び点数算定取得への取り組み
- ② 未収金削減に向けた取り組み
 - ・委託弁護士法人へのプロポーザルの実施と未収金削減
- ③ 情報システムの適切な整備・運用
 - ・診療報酬改定に伴う対応と、電子カルテ更新に向けた準備
- ④ 新型コロナウイルスに関する適正事務
 - ・新型コロナウイルス関連における未収金の防止、適切な公費請求の実施

【令和2年度の評価】

近畿厚生局施設基準適時調査に向けた独自の取り組みについて、院内各部署を対象に模擬監査を行った。各部署に施設基準に関する責任者を定め施設基準の理解と適時調査に向けた準備を行った。

コロナ禍の中、未収金に対する訪問徴収は消極的になったが、電話催告を中心に未収金削減に努めた。

令和3年に控えた電子カルテシステムプロポーザルに向けて、各業者におけるデモストレーションを各部署に行い電子カルテ入替えに向けた意識の強化を図った。

新型コロナウイルス関連業務に関して、オンライン面会の実施をはじめ、発熱外来、PCRドライブスルー、ワクチン接種といった業務の中で課員が通常業務以外にコロナ関連業務を多々行った。こうした中で適正なワクチン接種請求、COVID-19入院患者の早急な公費請求、発熱外来における未収金ゼロといった実績を挙げられた。

【令和3年度の目標】

- ① 2022年診療報酬改定への対応
 - ・施設基準に従った算定及び点数算定取得への取り組み
- ② オンライン資格確認の活用
 - ・事前保険証確認を行い患者の混雑解消・適正なレセプト請求の執行
- ③ 情報システムの適切な整備・運用
 - ・診療報酬改定に伴う対応と、電子カルテ更新に向けた準備
- ④ 未収金削減に向けた取り組み
 - ・委託弁護士法人との連携と委託件数の強化
- ⑤ 新型コロナウイルス対応に向けた準備・行動
 - ・ワクチン接種における適正事務の執行、発熱外来及びCOVID-19陽性患者入院における適正な請求

訪問看護ステーション つなぐ

【令和2年度の活動】

令和2年度 訪問診療 利用者数 46名 延べ訪問件数 100件

令和2年度 訪問看護 利用者数 111名 延べ訪問件数 891件

在宅推進委員会 月1回第2火曜日開催

訪問診療部会 毎週水曜日開催

訪問診療患者報告・新規訪問患者紹介・その他

【令和2年度の評価】

- ・病院併設型の訪問看護ステーションとして開設後、訪問診療と共に定着し、在宅看取りの体制強化と維持ができています。
- ・今後とも患者、家族の意思を尊重し、安心して在宅療養ができるよう、他職種や地域の医療・介護従事者との連携と協働をさらに強化していく。

【令和3年度の目標】

- 1、安全安心で質の高い医療の提供
→医療依存度が高い重症者(ターミナルを含む)の在宅療養生活を安心・安全に支える。
- 2、人材のさらなる育成及び活用
→互いに高め合い、働き続けたいと思える職場を作る。
- 3、つながりのある地域医療の推進
→利用者・家族を中心に、オーバーラップした看護連携を行う。

10 委員会活動

部長会		
委員長 事業管理者	開催数 12回	掌握する事項 <ul style="list-style-type: none"> ・病院運営の基本方針に関すること ・重要な施策に関すること ・企画推進に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・月1回開催 ・毎月の重症度、医療・看護必要度についての報告 ・毎月の診療収入等についての報告 ・毎月の月間運動テーマの決定 ・病院の運営について報告 		

管理運営診療委員会		
委員長 事業管理者	開催数 12回	掌握する事項 <ul style="list-style-type: none"> ・病院管理運営上の基本方針策定及び審議に関すること ・診療業務の検討、連絡に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の重症度、医療・看護必要度についての報告 ・毎月の診療収入等についての報告 ・病院の運営について報告 		

防災対策委員会		
委員長 事業管理者	開催数 12回	掌握する事項 <ul style="list-style-type: none"> 災害に関すること、防災・避難訓練に関すること
活動状況等 <p>救急蘇生災害医療部会の活動報告をもとに避難訓練、防災訓練（年2回、うち1回は休日夜間を想定した訓練）、原子力防災訓練について話し合い協議し方向性を決定する。</p>		

救急蘇生災害医療部会		
委員長 関節外科部長	開催数 11回	掌握する事項 <ul style="list-style-type: none"> 災害医療及び心肺蘇生法の普及とその意識の向上に関すること

<p>活動状況等</p> <p>毎月第2木曜日開催</p> <p>【救急部門】</p> <p>救急カート点検、チェックの実施、コードブルー検証会の実施</p> <p>【災害部門】</p> <p>災害対策マニュアルの改定、勉強会の開催（3回）、院内防災訓練、安否確認メール連絡訓練（3回）、消火訓練の実施</p>
--

DMA T		
委員長	開催数	掌握する事項
関節外科部長	11回	災害医療活動に関すること
<p>活動状況等</p> <p>毎月第2木曜日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMA T 隊員養成研修（業務調整員：1名） ・中部ブロックDMA T 実動訓練（1チーム） ・技能維持訓練（医師：1名、看護師：2名、業務調整員：2名） ・近畿府県合同防災訓練（1チーム） 		

医療安全対策委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
副院長	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療事故やインシデント事例の分析・評価・改善計画に関すること ・医療安全対策委員会での検討事項、改善計画をマニュアルに反映し職員全体への定期的な周知徹底に関すること ・医療安全対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し見直しに関すること ・新聞等から他施設の医療事故の情報を入手し、事故防止の検討に関すること ・医療事故防止のための職員の教育・研修に関すること
<p>活動状況等</p> <p>毎月第3月曜日開催</p> <p>医療機器、医薬品、インシデント・アクシデント事例、対策評価、院内ラウンド、患者相談、医事紛争に関する内容について報告、討議をおこなった。</p>		

リスクマネジメント部会		
委員長 副院長	開催数 12回	掌握する事項 ・インシデント・アクシデントの原因を究明し、職員の医療安全に対する意識向上と指導に関すること
活動状況等 毎月第2水曜日開催 医療安全管理室目標から各部署での医療安全目標を立案。取り組み、振り返りについて部会で発表をおこなった。 中間・最終評価についての勉強会開催。		

医療安全推進会議		
委員長 副院長	開催数 52回	掌握する事項 医療安全対策に関わる取り組みの評価。タイムリーなインシデント・アクシデントの情報共有に関すること
活動状況等 毎週月曜日開催 インシデント・アクシデント事例の報告、看護、薬剤、検査、医療事務に関する内容の報告と取り組みについて討議をおこなった。		

医療機器管理委員会		
委員長 副院長	開催数 1回	掌握する事項 MEセンター業務及び医療機器の安全かつ効果的な管理
活動状況等 機器点検保守年間計画について検討を行った。 毎月、MEセンター業務状況について報告を行った。		

病棟管理委員会		
委員長 副院長	開催数 12回	掌握する事項 病棟の管理運営に関し必要な事項を定める。
活動状況等 ・月1回開催 ・先月分の実績に基づき、平均在院日数・病床利用率についてや重要度、医療・看護必要度、在宅復帰率、リハビリ単位について等検討したり、病棟の抱えている問題・課題等について話し合いを行った。		

感染対策委員会		
委員長 管理者	開催数	掌握する事項
	1 2 回	感染対策に関する事項の調査・審議に関すること
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月 1 回開催 ・ 感染対策マニュアルの作成と改定事項の決定 ・ 感染防止にかかる施策の提案 ・ 感染予防にかかる教育に関する報告 ・ 感染対策に関する方針やコスト面について決定 ・ 耐性菌や無菌材料から菌の検出状況、各種サーベイランス報告 ・ 抗菌薬（抗 MRSA 薬、カルバペネム系薬）の使用や届け出状況の報告 ・ インフルエンザアウトブレイク時の方針と対策の決定 ・ 新型コロナウイルス感染症に関する感染管理についての提案と決定 		

放射線安全委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
放射線科部長	1 回	放射線障害の防止に関すること
活動状況等 <p>個人被ばく線量測定結果について報告を行った。 健康診断問診票について調整を図った。</p>		

検体検査適正化委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
呼吸器内科部長	3 回	検体検査の適正化に関すること
活動状況等 <p>日臨技臨床検査精度管理調査について報告を行った。 福臨技臨床検査精度管理調査について報告を行った。 医師会臨床検査精度管理調査について報告を行った。</p>		

血液製剤管理委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
消化器外科部長	6 回	輸血用血液製剤の取扱いに関すること

<p>活動状況等</p> <p>偶数月の月末に年6回開催しており、血液製剤の使用、廃棄及びアルブミン/RBCの状況及び輸血後感染症検査の実施状況について報告を行っている。</p> <p>ガイドラインの変更や当院での輸血事例をもとに運用の改善を行い、安全な輸血医療について議論している。</p> <p>日本輸血細胞治療学会からの提言をうけ、「輸血後感染症検査」の実施について県内の状況を確認し、今後の運用変更について協議した。</p> <p>また、FFPの緊急使用事例をもとに院内の在庫数について検討を行っている</p>
--

医療ガス安全委員会		
委員長 麻酔科部長	開催数 1回	掌握する事項 医療ガス設備の取り扱い、安全維持管理に関すること。
<p>活動状況等</p> <p>病院内で使用している医療ガス設備（酸素、吸引、笑気、圧縮空気、窒素等）の保守点検、日常点検について、酸素ボンベ使用時の取り扱い、安全維持管理について話し合いを行う。</p> <p>医療ガス設備の不具合個所の修繕については計画を立てて委員会で協議する。</p>		

労働安全衛生委員会		
委員長 事務局長	開催数 9回	掌握する事項 院内衛生上の改善に関すること 職員の健康に関すること（健康診断、保持増進の指導等）
<p>活動状況等</p> <p>育休、育短、部分休業、病休、退職者等の報告</p> <p>超過勤務時間について毎月検討し、改善の方策を議論</p> <p>院内ラウンドを定期的を実施し、各部署の職場環境の点検を実施</p>		

電子カルテ委員会		
委員長 小児科部長	開催数 12回	掌握する事項 ・医療情報トータルシステムの整備推進に関すること ・入院患者のカルテ管理に関すること ・病歴管理に関すること
<p>活動状況等</p> <p>毎月第2月曜日開催</p> <p>診療報酬改定に伴う電子カルテシステム変更の対応を実施。</p>		

利用者の操作ログを調査し、不正な閲覧者がいないか監視。
 診療録の記載内容を確認し、記載内容が充足されているか確認。

クリティカルパス委員会

委員長	開催数	掌握する事項
脳神経外科部長	8回	1 診療の質の適正化に伴う標準的な治療計画の作成に関すること 2 治療計画の説明により、患者の満足度の向上に関すること 3 その他適正な医療プログラム作成に関すること

活動状況等

【活動内容】
 毎月第3水曜日に委員会を開催し、クリティカルパスに関する事項を報告・検討。

【活動状況】
 2020年06月 新人看護職員向けパス研修会を開催（参加者 20名）
 11月 パス見直し大会を開催（参加者 23名）
 2021年02月 第20回日本医療マネジメント学会福井県支部学術に参加

診療材料検討委員会

委員長	開催数	掌握する事項
小児科部長	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用診療材料に関すること ・診療材料の統合整理に関すること ・その他診療材料に関すること

活動状況等

毎月第1木曜日に回開催しており、新規診療材料導入についての審議、費用対効果の高い同種同効品への切り替えを行っている。

栄養管理委員会

委員長	開催数	掌握する事項
副院長	12回	給食に係るサービス改善等に関すること

活動状況等

- ・インシデント・アクシデント報告
- ・調理室ラウンド実施、報告
- ・食事アンケート調査実施、報告
- ・その他栄養管理に関する事項についての報告

褥瘡サポート部会		
委員長 皮膚科医師	開催数 12回	掌握する事項 ・感染褥瘡源の調査に関する事 ・褥瘡サポートに関する事
活動状況等 毎月第4金曜日に開催 毎月、院内褥瘡患者の発生状況を共有し、発症患者抑制に向けて意見交換を行った。		

栄養サポート委員会		
委員長 外科診療部長	開催数 8回	掌握する事項 栄養サポートに関する事
活動状況等 NST 介入患者について各症例と栄養管理法に関する情報共有・意見交換を行った。		

在宅医療推進委員会		
委員長 診療部長 (外科系)	開催数 8回	掌握する事項 ・訪問診療の運営に関する事 ・訪問看護の運営に関する事
活動状況等 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一時委員会を中止していましたが、訪問診療、訪問看護で協議された内容に関しては、文書で周知していましたが、訪問看護部会、訪問診療部会も中止していたため、在宅関係の協議内容がなかなか進行せず、文書のみでは十分な周知には至らなかったため、6月に在宅医療推進委員会、訪問診療部会、訪問看護部会の合同委員会を実施しています。それぞれの委員会を9月より本格的に再開しています。 昨年度と継続して、訪問診療部会、訪問看護部会での活動報告や運営方針に対する協議などを行っています。部会であがった協議内容を報告し、それに対して、在宅医療推進委員会で決定をしています。 委員会の活動自粛期間もあり、新たに取り組みをした内容はありません。来年度は、さらなる在宅支援の充実のため、新たな取り組みが出来るように活動していきたいです。		

訪問診療部会		
委員長 診療部長 (外科系)	開催数 26回	掌握する事項 訪問診療に関する事

活動状況等

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一時委員会を中止していましたが、訪問診療、訪問看護で協議された内容に関しては、文書で周知していました。訪問看護部会、訪問診療部会も中止していたため、在宅関係の協議内容がなかなか進行せず、文書のみでは十分な周知には至らなかったため、6月に在宅医療推進委員会、訪問診療部会、訪問看護部会の合同委員会を実施しています。それぞれの委員会を9月より本格的に再開しています。

訪問診療患者情報の共有

新規の訪問診療依頼患者に対しての協議

訪問診療の体制作りに対しての協議・評価・再協議

訪問看護利用にあたっての利用者振り分けの協議

訪問看護の体制作りに対しての協議・評価・再協議

訪問看護のマニュアル作り

訪問看護部会

委員長	開催数	掌握する事項
診療部長 (外科系)	26回	訪問看護に関すること

活動状況等

訪問看護利用にあたっての利用者振り分けの協議

訪問看護の体制作りに対しての協議・評価・再協議

訪問看護のマニュアル作り

救急室・外来運営委員会

委員長	開催数	掌握する事項
消化器外科部長	4回	救急室、外来の運営に関すること

活動状況等

- ・救急科医不在時の対応について、救急室の運営体制について調整を図った。
- ・ドクターヘリについて調整を行った。
- ・救急診療マニュアルについて改定を行った。

HCU運営委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
副院長	1回	HCUの円滑・適正な管理運営に関すること
活動状況等 HCU入退室基準の見直しを行い、職員に周知した。 <ul style="list-style-type: none"> ・入退室基準の調整 ・手術後の患者さんの入室について事前予約を行うこと。 		

緩和ケア委員会（チーム会）		
委員長	開催数	掌握する事項
診療部長（外科系）	24回	生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOLを、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげる支援を通して向上させるアプローチを行う。
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・入院中のオピオイド使用患者を対象としたカンファレンスを実施。対象：133人/年 対象となった患者数：55名 ・緩和ケア介入依頼患者7名 ・福井県緩和ケア研修会受講推の推奨 3名（医師3名） ・学会・研修会参加 <ul style="list-style-type: none"> 第25回日本緩和医療学会学術大会 3名（学会発表3題） 第33回日本サイコオンコロジー学会 3名 第29回日本緩和医療学会教育セミナー 4名 第30回日本緩和医療学会教育セミナー 4名 日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 IN 福井 2名 福井県がん相談支援センター 相談員研修 2名 第6回北陸緩和医療研究会総会 2名 ・院内研修会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 地域開放学習会（9月）第1会議室にて <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア「せん妄」について 講師：神経科精神科医師 松本日和 緩和ケア認定看護師 仲間有希 院内出前勉強会（9月）4階病棟にて <ul style="list-style-type: none"> 「疼痛コントロール」について 講師：緩和ケア認定看護師 仲間有希 （1月）訪問看護ステーションにて <ul style="list-style-type: none"> 「グリーフケア」について 講師：緩和ケア認定看護師 仲間有希 		

糖尿病診療委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
内分泌・代謝 内科部長	3回	糖尿病診療の充実化を図ること
活動状況等 医師を中心とし、看護師、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、臨床検査技師、管理栄養士など他職種が協力し、糖尿病診療の充実化を目指し活動しています。 委員会のみでなく、病棟ラウンド、糖尿病教室、学会参加なども行っております。		

化学療法委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
消化器外科部 長	3回	化学療法に関すること
活動状況等 調製件数、採用プロトコル数、薬剤部への疑義照会件数等について実績報告、新規レジメンについての審議を中心に行った。また、化学療法に関する説明と同意書の改訂を行った。 院内化学療法マニュアル、化学療法室の運用、抗がん剤の適応拡大に伴う院内の枠組み等について検討を行った。		

医療器械購入機種選定委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
事業管理者	5回	医療機器の選定に関すること
活動状況等 年5回開催しており、導入目的、導入時期、費用対効果の有益性等を審議し、次年度導入すべき医療器械について、優先順位を決めている。 医療器械が故障した際には、緊急的に委員会を開催し、修理すべきか購入すべきかを審議している。		

CS・ES委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
循環器内科部 長	1回	患者及び職員満足度並びにコミュニケーションの向上に関すること

活動状況等

C S 部会及びE S 部会により 1 年間活動した内容を全職員に発表するための企画を立て、発表会を実施した

C S 部会

委員長	開催数	掌握する事項
循環器内科部長	1 2 回	患者サービスの向上

活動状況等

毎月第 2 木曜日に開催

3 チーム（企画提案、接遇、アンケート）で構成

各月の取り組み

7 月 七夕飾り

8 月 接遇スタンダードチェックシート記入開始

10 月 患者満足度調査

11 月 ボランティア交流会

11 月 ボランティア健康診断、インフルエンザ予防接種

12 月 院内クリスマス会開催

1 月 ボランティア感染対策講習会開催

3 月 雛飾り

3 月 感謝のご意見を掲示 等を実施した。

※毎月：掲示板ラウンド・正面玄関置き傘の整理整頓

※毎週木曜日：ご意見箱のご意見を回収し、該当部署へ回答を依頼し回答を得ている。

また、得たご意見・回答は掲示にて公表している。

ES 部会

委員長	開催数	掌握する事項
小児科部長	1 2 回	職員満足度の向上に関すること

活動状況等

毎月第 3 火曜日に開催

3 チーム（福利厚生アンケート、職員確保、業務改善）で構成

福利厚生に関してのアンケート調査、ペーパーレス化の推奨、電子カルテ使い方説明会を実施した。

聴き上手広め隊		
委員長 循環器内科部 長	開催数 9回	掌握する事項 コミュニケーション向上に関する事 こと
活動状況等 イベントグループ ・ワールドカフェの実施 推進グループ ・褒め合いデーの実施 ・アンケートの実施 広報グループ ・広報誌の作成及び配布（年3回）		

倫理委員会		
委員長 院長	開催数 30回	掌握する事項 医療職員の高い資質の高揚及び臨床研究の審査に関する こと
活動状況等 臨床研究に係る必要な手続き等を行った。 講演会を1回実施した。		

臓器移植チーム会		
委員長 腎臓内科部長	開催数 2回	掌握する事項 臓器移植の体制整備と啓発に関する事 こと
活動状況等 ・院内マニュアルの読み合わせを行った。 ・リーフレットの配布を実施した。		

薬事委員会		
委員長 診療部長 （内科系）	開催数 10回	掌握する事項 ・新規採用薬品に関する事 こと ・採用薬品の統合整理に関する事 こと ・その他薬事に関する事 こと ・院内使用する後発薬剤採用に係る調査検討に関する事 こと

<p>活動状況等</p> <p>毎月第1月曜日に回開催しており、新規採用医薬品導入についての審議、費用対効果の高い同種同効品への切り替え及び後発医薬品採用率の月次報告を行っている。</p>

DPC委員会		
委員長 事業管理者	開催数 4回	掌握する事項 DPCに関すること
<p>活動状況等</p> <p>DPC/PDPSコーディングテキストを用いて、適切なコーディングに向けた実務的な事例の報告と検討を行った。</p> <p>DPCデータを活用し、当院の実績や医療の質の評価などの分析を行った。</p>		

広報委員会		
委員長 小児科部長	開催数 12回	掌握する事項 広報に係る年次計画の企画立案と情報の発信に関すること 病院フェスタの開催、運営に関すること 市立敦賀病院のホームページの充実、更新に関すること 市民公開講座の開催、運営に関すること
<p>活動状況等</p> <p>(1) 広報誌の更新 院外向け広報誌の「きらめき」と、患者さん向け広報誌「ぬくもり」を合併した「きらめき」を年3回発行した。 (6月、12月、2月)</p> <p>(2) ホームページの更新 随時各部署の更新 病院フェスタ及び市民公開講座についてはコロナ禍のため中止となった。</p>		

医療の質・経営改善推進室		
委員長 医療の質・経営改善推進室長	開催数 11回	掌握する事項 ・医療の質の改善に関すること ・経営状況の情報収集、分析に関すること

<p>活動状況等</p> <p>全部署に模擬適時調査を実施した。</p> <p>病床機能報告の作成及び報告を実施した。</p>
--

認知症サポート部会		
<p>委員長</p> <p>脳神経外科 部長</p>	<p>開催数</p> <p>12回</p>	<p>掌握する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアに関すること ・認知症ラウンドに関すること
<p>活動状況等</p> <p>認知症ケアマニュアルの改訂を行った。</p> <p>認知症ケア加算1算定に向けた活動を行った。</p>		

臨床研修管理委員会		
<p>委員長</p> <p>院長</p>	<p>開催数</p> <p>1回</p>	<p>掌握する事項</p> <p>臨床研修プログラムに関すること</p>
<p>活動状況等</p> <p>臨床研修プログラム修了認定についての報告</p> <p>臨床研修プログラムについての報告</p> <p>臨床研修医予定者についての報告</p>		

心臓リハビリテーション運営委員会		
<p>委員長</p> <p>循環器内科 部長</p>	<p>開催数</p> <p>10回</p>	<p>掌握する事項</p> <p>心臓リハビリテーションの充実化を図ること</p>
<p>活動状況等</p> <p>看護師勤務体制の調整</p> <p>心肺運動負荷試験導入基準を明確化</p> <p>心臓カテーテルチームと合同開催を行い、心疾患チームとして情報共有を図った</p> <p>コロナウイルス感染対策として外来通院頻度の調整、体温確認、手指消毒、機器消毒など</p> <p>日本心臓リハビリテーション学術集会がWEB開催となり、2名発表</p>		

医療従事者修学資金貸与審査委員会		
<p>委員長</p> <p>院長</p>	<p>開催数</p> <p>3回</p>	<p>掌握する事項</p> <p>修学資金貸与の審査に関すること</p>

<p>活動状況等</p> <p>新規申請者について随時審査を実施。</p>
--

診療材料管理業務委託検討委員会		
<p>委員長 副院長</p>	<p>開催数 4回</p>	<p>掌握する事項 診療材料SPD委託の運用に関すること</p>
<p>活動状況等</p> <p>令和元年度に契約満了となる診療材料SPD委託の運用について、各部署から意見を聞き仕様書に反映していく。</p> <p>周辺病院を視察して業務効率化と診療材料費削減方法について検討を行い、仕様書策定を行った。</p>		

医薬品管理業務委託検討委員会		
<p>委員長 診療部長 (内科系)</p>	<p>開催数 4回</p>	<p>掌握する事項 医薬品SPD委託の運用に関すること</p>
<p>活動状況等</p> <p>令和元年度に契約満了となる医薬品PD委託の運用について、各部署から意見を聞き仕様書に反映していく。</p> <p>周辺病院を視察して業務効率化と委託範囲について検討を行い、仕様書策定を行った。</p>		

地域包括ケア病棟運営委員会		
<p>委員長 院長</p>	<p>開催数 12回</p>	<p>掌握する事項 地域包括ケア病棟の運営に関すること</p>
<p>活動状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回開催 ・毎月の稼働状況、転入時期、個別の症例の検討をとおして、病棟運営の検証を行う。 ・医局会にて、ケア病棟運営についての勉強会も定期的に行った。 ・直接入院患者を積極的に受け入れ、前年度に比べ約80人増加した。 ・総入院患者数についても、前年度に比べ約70名増加した。 		

地域医療連携委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
腎臓内科部長	1 2 回	1. 紹介、逆紹介に関する事 2. 入退院支援に関する事 3. 支援困難ケースに関する事
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第3水曜日に定期開催 ・紹介、逆紹介に関する報告 ・入退院支援に関する実績報告 ・支援困難ケースに関する情報共有・検討 		

がん診療連携拠点病院推進委員会		
委員長	開催数	掌握する事項
消化器外科部長	2 回	・拠点病院の指定に必要な企画立案に関する事 ・その他拠点病院の指定に関し必要な事
活動状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院指定に必要な項目について分析を行い、整備できていない項目の確認。 ・がんセンターボードの立ち上げ 		

IV 業務の概要

1 患者の状況

(1) 入院・外来別患者数

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
入院	患者数（人）	93,442	96,742	89,538
	対前年度比（%）	104.6	103.5	92.6
	開院日（日）	365	366	365
	一日平均（人）	256.0	264.3	245.3
	病床稼働率（%）	77.1	79.6	73.9
	平均在院日数（日）	15.8	16.1	16.8
外来	患者数（人）	170,696	167,654	152,630
	対前年度比（%）	100.1	98.2	91.0
	開院日（日）	244	240	243
	一日平均（人）	699.6	698.6	628.1
合計	患者数（人）	264,138	264,396	242,168
	対前年度比（%）	98.5	100.1	91.6

※診療報酬の基本診療料の施設基準等の別表第2に規定する入院患者も含む。

(2) 患者数の推移

①入院患者数

	病床数				患者延数（人）	対前年度比（%）	1日平均患者数（人）
	一般	感染	ドック	無菌			
平成25年度	323	2	6	1	99,380	95.6	272.3
平成26年度	323	2	6	1	94,618	95.2	259.2
平成27年度	323	2	6	1	94,759	100.1	258.9
平成28年度	323	2	6	1	95,693	101.0	262.2
平成29年度	323	2	6	1	97,710	102.1	267.7
平成30年度	323	2	6	1	93,442	95.6	256.0
令和元年度	323	2	6	1	96,742	103.5	264.3
令和2年度	323	2	6	1	89,538	92.6	245.3

②外来患者数

	患者延数（人）	対前年度比（%）	1日平均患者数（人）
平成25年度	177,235	98.9	726.4
平成26年度	175,061	98.8	717.5
平成27年度	169,961	97.1	699.4
平成28年度	169,454	99.7	697.3
平成29年度	170,464	100.6	698.6
平成30年度	170,696	100.1	699.6
令和元年度	167,654	98.2	698.6
令和2年度	152,630	91.0	636.0

(3) 診療科別患者数

	入院						外来					
	平成30年度 (人)	令和元年度 (人)	令和2年度 (人)	対前年度比 (%)	平成30年度 (人)	令和元年度 (人)	令和2年度 (人)	対前年度比 (%)				
	令和元年度 (人)	令和2年度 (人)	対前年度比 (%)	平成30年度 (人)	令和元年度 (人)	令和2年度 (人)	対前年度比 (%)					
内科	25,400	26,551	22,698	85.5	41,536	41,908	40,204	95.9				
神経内科	0	0	0	-	2,033	1,745	1,829	104.8				
消化器内科	6,053	6,840	9,195	134.4	6,291	6,470	6,822	105.4				
循環器内科	9,175	8,730	5,386	61.7	14,971	14,095	11,623	82.5				
小児科	2,146	2,348	1,591	67.8	9,113	9,015	5,624	62.4				
外科	14,603	17,285	14,419	83.4	12,406	12,302	11,079	90.1				
乳腺外科	0	0	114	-	-	-	358	-				
整形外科	14,002	14,044	16,058	114.3	17,090	17,208	16,880	98.1				
脳神経外科	8,877	9,123	9,741	106.8	7,452	7,201	6,559	91.1				
皮膚科	1,402	1,328	993	74.8	11,176	10,342	8,995	87.0				
形成外科	0	0	0	-	441	479	496	103.5				
泌尿器科	6,534	4,469	5,007	112.0	16,746	15,388	14,960	97.2				
産婦人科	4,940	5,649	3,586	63.5	5,658	5,433	4,721	86.9				
眼科	164	172	109	63.4	4,853	4,661	4,052	86.9				
耳鼻いんこう科	0	0	486	-	2,290	2,693	3,143	116.7				
放射線科	0	0	0	-	1,004	981	893	91.0				
神経科	0	0	0	-	1,171	1,588	1,707	107.5				
麻酔科	2	10	0	-	2,156	1,839	1,594	86.7				
リハビリテーション科	0	0	0	-	6,191	5,816	4,021	69.1				
歯科	144	193	155	80.3	8,118	8,490	7,070	83.3				
外科												
合計	93,442	96,742	89,538	92.6	170,696	167,654	152,630	91.0				

(4) 市町村別患者数

	平成30年度						令和元年度						令和2年度					
	外来		入院		合計		外来		入院		合計		外来		入院		合計	
	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)
敦賀市	139,910	82.0%	70,907	75.9%	210,817	79.7%	137,475	82.0%	75,207	77.7%	212,682	80.4%	124,593	81.6%	68,333	76.3%	192,926	79.7%
美浜町	15,971	9.4%	11,515	12.3%	27,486	10.4%	15,811	9.4%	10,742	11.1%	26,553	10.0%	14,792	9.7%	11,080	12.4%	25,872	10.7%
若狹町	9,050	5.3%	7,076	7.6%	16,126	6.1%	8,949	5.3%	6,879	7.1%	15,828	6.0%	8,491	5.6%	7,157	8.0%	15,648	6.5%
その他	2,132	1.2%	1,196	1.3%	3,328	1.3%	2,143	1.3%	1,300	1.3%	3,443	1.3%	2,046	1.3%	1,237	1.4%	3,283	1.4%
県外	3,633	2.1%	2,748	2.9%	6,381	2.4%	3,276	2.0%	2,614	2.7%	5,890	2.2%	2,708	1.8%	1,731	1.9%	4,439	1.8%
合計	170,696	100.0%	93,442	100.0%	264,138	100.0%	167,654	100.0%	96,742	100.0%	264,396	100.0%	152,630	100.0%	89,538	100.0%	242,168	100.0%

(5) 月別患者数

令和2年度

入院

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合 (%)
内科	1,612	1,839	1,950	2,060	2,145	2,127	2,079	1,736	1,688	1,957	1,783	1,722	22,698	62.2	25.4
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
消化器内科	741	764	764	704	833	835	935	786	831	818	560	624	9,195	25.2	10.3
循環器内科	477	320	398	495	551	571	483	469	329	412	377	504	5,386	14.8	6.0
小児科	132	124	197	191	121	133	110	124	110	115	118	116	1,591	4.4	1.8
外科	1,138	1,162	1,142	1,262	1,274	1,396	1,510	1,418	1,060	925	975	1,157	14,419	39.5	16.1
乳腺外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	23	84	114	0.3	0.1
整形外科	1,151	1,153	1,247	1,399	1,374	1,344	1,513	1,410	1,282	1,465	1,307	1,413	16,058	44.0	17.9
脳神経外科	586	715	844	931	795	629	723	521	831	1,169	988	1,009	9,741	26.7	10.9
皮膚科	44	112	129	77	55	56	88	81	78	131	76	66	993	2.7	1.1
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
泌尿器科	357	328	433	425	407	386	469	530	537	407	381	347	5,007	13.7	5.6
産婦人科	341	269	357	393	372	302	216	240	327	285	214	270	3,586	9.8	4.0
眼科	14	8	4	12	4	8	12	12	10	10	6	9	109	0.3	0.1
耳鼻いんこう科	40	55	32	66	29	48	50	27	45	34	7	53	486	1.3	0.5
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
歯科口腔外科	18	6	0	18	14	13	18	12	12	8	15	21	155	0.4	0.2
合計	6,651	6,855	7,497	8,033	7,974	7,848	8,206	7,366	7,140	7,743	6,830	7,395	89,538	245.3	100.0

外来

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合 (%)
内科	3,269	3,150	3,428	3,554	3,514	3,363	3,525	3,216	3,437	3,265	3,036	3,447	40,204	165.4	26.3
神経内科	158	133	154	171	140	174	142	142	145	146	142	182	1,829	7.5	1.2
消化器内科	485	521	607	583	513	572	632	554	638	531	553	633	6,822	28.1	4.5
循環器内科	1,003	880	1,002	987	918	1,011	1,060	933	998	947	836	1,048	11,623	47.8	7.6
小児科	390	254	414	496	497	452	498	478	463	418	632	632	5,624	23.1	3.7
外科	815	773	1,072	999	865	1,038	999	937	1,009	814	758	1,000	11,079	45.6	7.3
乳腺外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	101	106	151	358	1.5	0.2
整形外科	1,202	1,210	1,590	1,462	1,428	1,466	1,599	1,378	1,448	1,301	1,224	1,572	16,880	69.5	11.1
脳神経外科	529	494	607	528	479	602	593	509	584	477	470	687	6,559	27.0	4.3
皮膚科	659	709	871	917	781	792	849	735	703	602	596	781	8,995	37.0	5.9
形成外科	28	26	52	43	46	29	55	49	38	29	37	64	496	2.0	0.3
泌尿器科	1,168	1,166	1,335	1,172	1,275	1,312	1,311	1,217	1,247	1,215	1,181	1,361	14,960	61.6	9.8
産婦人科	379	319	429	435	388	413	450	389	387	324	349	459	4,721	19.4	3.1
眼科	326	298	413	362	330	370	354	289	331	301	297	381	4,052	16.7	2.7
耳鼻いんこう科	196	174	262	290	255	260	313	298	274	261	241	319	3,143	12.9	2.1
放射線科	54	55	70	88	55	84	91	93	81	72	58	92	893	3.7	0.6
神経科精神科	139	129	139	153	153	132	179	158	132	125	123	145	1,707	7.0	1.1
麻酔科	133	111	150	159	131	123	152	120	114	114	131	156	1,594	6.6	1.0
リハビリテーション科	345	255	359	359	313	336	370	329	316	307	321	411	4,021	16.5	2.6
歯科口腔外科	582	403	555	592	609	621	626	584	614	567	594	723	7,070	29.1	4.6
合計	11,860	11,060	13,509	13,350	12,690	13,150	13,798	12,408	12,959	11,917	11,685	14,244	152,630	625.5	100.0

(6) 救急患者の取扱状況

平成30年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	273	346	312	484	468	354	317	329	369	743	423	338	4,756
神経内科	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
消化器内科	20	24	23	6	7	22	13	13	20	8	10	9	175
循環器内科	19	18	14	32	18	19	30	15	34	35	20	27	281
小児科	126	136	127	180	127	113	117	129	147	200	132	92	1,626
外科	39	53	43	48	33	35	47	41	60	47	36	40	522
整形外科	103	98	94	112	125	118	94	101	122	117	82	111	1,277
脳神経外科	81	78	75	98	81	73	72	78	83	73	60	83	935
皮膚科	46	58	61	102	77	68	63	37	40	29	32	53	666
泌尿器科	19	33	26	25	31	36	26	30	29	29	26	35	345
産婦人科	34	38	29	28	35	47	29	39	34	22	31	41	407
眼科	6	8	6	3	4	2	5	5	8	3	0	1	51
耳鼻いんこう科	17	22	15	24	24	13	15	24	20	18	8	11	211
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	4
歯科口腔外科	1	2	1	0	0	2	2	0	1	0	0	0	9
救急科	0	2	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	8
合計	784	916	829	1,144	1,033	903	832	841	968	1,324	860	841	11,275
入院患者数(再掲)	139	181	160	175	160	165	158	165	176	160	151	179	1,969
救急車台数(台)	135	131	152	193	212	148	172	137	172	198	139	165	1,954

令和元年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	399	412	342	421	442	386	296	347	452	642	368	261	4,768
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	7	20	8	15	15	16	9	4	9	13	7	14	137
循環器内科	20	30	19	17	18	17	16	20	19	27	15	24	242
小児科	203	161	162	109	132	119	86	104	154	199	108	52	1,589
外科	48	54	45	52	48	57	41	37	42	31	37	26	518
整形外科	102	118	121	119	147	126	117	128	120	81	88	86	1,353
脳神経外科	75	75	77	72	80	85	84	84	77	99	69	71	948
皮膚科	48	56	55	92	88	58	39	38	39	40	27	32	612
泌尿器科	30	33	36	30	26	24	22	31	22	27	11	20	312
産婦人科	34	39	58	45	44	43	26	26	38	55	35	24	467
眼科	10	9	5	1	4	9	7	7	4	4	4	1	65
耳鼻いんこう科	20	28	14	17	23	21	14	17	28	28	19	18	247
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
麻酔科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3
歯科口腔外科	3	2	1	0	3	2	1	2	1	0	0	0	15
救急科	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
合計	999	1,039	943	991	1,071	963	760	845	1,005	1,248	788	629	11,281
入院患者数（再掲）	165	167	181	191	175	185	162	127	162	195	136	145	1,991
救急車台数（台）	174	163	162	160	178	169	157	162	169	177	148	164	1,983

令和2年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	222	263	282	308	417	292	266	251	275	270	215	249	3,310
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	5	11	12	8	8	11	6	6	5	9	7	7	95
循環器内科	16	13	17	14	9	20	29	14	13	22	19	11	197
小児科	31	38	42	63	67	53	68	57	38	48	45	45	595
外科	10	34	25	39	27	42	34	26	35	38	32	36	378
整形外科	50	104	117	121	100	121	117	97	111	97	89	89	1,213
脳神経外科	76	64	74	75	58	72	88	76	77	67	65	73	865
皮膚科	18	61	64	87	81	74	60	44	35	39	42	36	641
泌尿器科	8	30	21	22	22	13	24	20	27	31	26	22	266
産婦人科	23	21	33	25	14	21	25	24	33	25	26	24	294
眼科	4	1	2	4	1	4	3	0	3	4	5	3	34
耳鼻いんこう科	9	16	24	25	20	22	13	23	25	24	23	20	244
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	1	0	1	0	2	0	1	0	2	0	0	2	9
救急科	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	1	5
合計	473	656	714	791	826	747	734	638	679	676	594	618	8,146
入院患者数(再掲)	115	139	161	144	147	130	148	110	171	147	135	132	1,679
救急車台数(台)	128	146	170	169	204	176	175	160	201	197	161	157	2,044

(7) 患者搬送の状況

単位：件

	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		周産期医療 関係搬送数		周産期医療 関係搬送数		周産期医療 関係搬送数
市 内	3		2		5	
県 内	80	14	101	11	82	4
石川県	1					
京都府	1					
滋賀県	1		2			
兵庫県					1	
大阪府	1		1		1	
秋田県			1			
合計	87	14	107	11	89	4

2 人間ドックの状況

単位：件、円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
30年度	1日ドック	13	34	48	56	51	33	40	33	26	31	32	430	
	2日ドック	0	2	3	0	3	1	3	2	4	6	3	30	
	脳ドック単独	1	2	4	5	5	3	2	3	5	0	4	5	39
	オプション検査	21	35	45	46	52	46	44	68	40	26	46	69	538
	けんぽ一般	94	156	148	137	149	131	170	157	133	119	137	165	1,696
	けんぽ付加	7	4	4	1	3	7	3	7	4	8	8	4	60
	乳がん	4	20	17	19	24	15	26	29	15	18	15	22	224
	子宮がん	4	18	18	20	28	18	25	34	14	20	13	19	231
	子宮がん(20~40歳)	3	7	4	5	4	5	3	2	1	1	2	5	42
	肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	147	278	291	289	319	259	316	336	247	222	262	324	3,290
	金額	2,452,917	5,056,163	5,673,955	5,779,027	5,856,988	4,454,367	5,755,429	5,367,111	4,399,591	3,850,658	5,091,074	5,596,369	59,333,649
	元年度	1日ドック	19	35	39	45	42	34	35	24	25	19	17	359
2日ドック		1	0	2	1	2	2	1	1	0	1	2	13	
脳ドック単独			2	2	7	5	5	1	5	5	3	3	38	
オプション検査		42	43	77	77	51	43	48	57	55	35	39	58	625
けんぽ一般		95	139	135	161	144	137	165	158	146	140	115	177	1,712
けんぽ付加		4	5	4	1	2	6	7	4	1	10	9	6	59
乳がん		8	12	12	15	18	19	23	24	14	19	19	26	209
子宮がん		4	13	11	15	18	17	23	25	13	18	18	21	196
子宮がん(20~40歳)		1	7	2	5	4	5	7	2	5	1	0	0	39
肝炎		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計件数		174	256	284	327	286	268	310	300	264	252	224	305	3,250
金額		3,288,972	5,000,459	5,810,606	5,841,002	5,169,912	5,380,639	5,631,969	4,839,918	4,393,195	4,425,815	4,302,286	4,704,887	58,789,660
2年度		1日ドック	14	0	16	18	34	52	48	44	26	34	13	25
	2日ドック	1	0	1	1	1	0	0	1	1	4	2	8	20
	脳ドック単独	0	0	0	3	6	2	3	5	5	1	3	3	31
	オプション検査	29	0	64	67	64	50	64	27	40	39	34	67	545
	けんぽ一般	39	0	151	168	141	152	172	124	119	108	157	165	1,496
	けんぽ付加	3	0	5	5	0	7	9	10	3	18	6	7	73
	乳がん	2	0	18	18	6	18	25	19	8	11	11	29	165
	子宮がん	0	0	18	17	8		14	14	9	12	8	20	106
	子宮がん(20~40歳)	4	0	7	4	3	1	1	1	1	3	3	1	29
	肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	92	0	280	301	263	282	322	245	212	230	237	325	2,789
	金額	1,526,426	0	4,001,664	4,513,863	4,625,672	5,549,741	6,073,640	5,337,886	4,003,879	4,484,245	3,946,855	6,120,125	50,183,996

3 中央手術室業務の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
内科	40	45	34
神経内科			
消化器内科			
循環器内科			
小児科	0	2	0
外科	534	597	550
整形外科	370	393	381
脳神経外科	38	41	44
皮膚科	71	68	69
泌尿器科	237	203	290
産婦人科	96	108	98
眼科	83	82	58
耳鼻いんこう科	0	0	13
放射線科	0	0	0
神経科精神科	0	0	0
麻酔科	1	0	0
リハビリテーション科	0	0	0
歯科口腔外科	39	47	51
合計	1,509	1,586	1,588

4 種類別麻酔件数

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
全身麻酔	759	811	810
腰椎麻酔・硬膜外麻酔	274	296	348
局所麻酔	444	444	386
その他	32	35	40
合計	1,509	1,586	1,584

5 内視鏡検査件数

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
食道・胃・十二指腸	3,783	3,774	3,335
膵・胆道	153	163	166
大腸	1,078	1,105	1,011
気管支	87	100	109
合計	5,101	5,142	4,621

6 周産期医療の状況

(1) 月別出産等の状況

令和2年度

単位：件

()内休日

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	経膈分娩	16(7)	19(6)	17(5)	17(3)	15(4)	16(4)	18(5)	14(5)	17(8)	20(8)	11(7)	17(5)	197(67)
	帝王切開	9(0)	3(0)	8(1)	5(1)	2(0)	7(1)	4(0)	1(0)	5(0)	5(0)	7(2)	5(0)	61(5)
	計	25(7)	22(6)	25(6)	22(4)	17(4)	23(5)	22(5)	15(5)	22(8)	25(8)	18(9)	22(5)	258(72)
時間内	経膈分娩	7(3)	6(2)	9(3)	6(0)	6(3)	5(1)	10(3)	3(1)	8(4)	6(2)	3(1)	7(1)	76(24)
	帝王切開	8(0)	3(0)	6(0)	4(1)	2(0)	6(1)	3(0)	1(0)	4(0)	3(0)	5(3)	4(0)	49(5)
	計	15(3)	9(2)	15(3)	10(1)	9(3)	11(2)	13(3)	4(1)	12(4)	9(2)	8(4)	11(1)	126(29)
時間外	経膈分娩	3(3)	7(1)	5(1)	5(1)	5(1)	6(1)	6(2)	4(1)	3(1)	5(1)	4(4)	2(1)	55(18)
	帝王切開	1(0)	0(0)	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	1(1)	1(0)	7(1)
	計	4(3)	7(1)	6(1)	6(1)	5(1)	6(1)	7(2)	4(1)	3(1)	6(1)	5(5)	3(1)	62(19)
深夜等	経膈分娩	6(1)	6(3)	3(1)	6(2)	4(0)	5(2)	2(0)	7(3)	6(3)	9(5)	4(2)	8(3)	66(25)
	帝王切開	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	0(0)	5(2)
	計	6(1)	6(3)	4(2)	6(0)	4(0)	6(3)	2(0)	7(3)	7(3)	10(5)	5(2)	8(3)	71(25)

時間内：平日 8:30～17:00

時間外：平日 6:00～ 8:30、17:00～22:00

深夜等：平日22:00～ 6:00、土曜日、日曜日、祝日

令和元年度

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
経膈分娩		21(2)	18(7)	21(7)	17(2)	26(5)	31(13)	15(3)	23(11)	20(8)	21(10)	21(10)	25(7)	259(85)
帝王切開		5(0)	5(1)	6(1)	9(1)	2(0)	7(1)	6(1)	8(1)	5(0)	7(1)	5(0)	3(0)	68(7)
計		26(2)	23(8)	27(8)	26(3)	28(5)	38(14)	21(4)	31(12)	25(8)	28(11)	26(10)	28(7)	327(92)

平成30年度

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
経膈分娩		29(7)	23(6)	19(8)	24(5)	22(7)	26(9)	17(5)	19(6)	24(5)	12(2)	15(5)	17(5)	247(70)
帝王切開		6(0)	8(1)	4(0)	8(3)	5(0)	1(0)	10(1)	6(1)	7(1)	7(0)	6(2)	4(1)	72(10)
計		35(7)	31(6)	23(8)	32(8)	27(7)	27(9)	27(6)	25(7)	31(6)	19(2)	21(7)	21(6)	319(80)

(2) 助産師外来の状況 (延件数)

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
令和元年度		3	7	6	3	5	4	5	8	3	2	1	3	50
平成30年度		8	9	11	9	17	13	7	13	9	9	2	10	117

(3) 母乳育児外来の状況 (延件数)

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度		39	43	61	59	43	38	51	57	44	39	13	39	526
令和元年度		88	74	80	80	95	60	58	50	44	61	57	58	805
平成30年度		73	112	99	92	121	74	142	109	97	96	88	63	1,166

(4) 新生児聴覚検査実施状況 (延件数)

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度		24	21	25	22	17	22	22	15	22	25	17	20	252
令和元年度		26	23	25	26	28	37	21	30	25	28	25	28	322
平成30年度		73	112	99	92	121	74	142	109	97	96	88	63	1,166

7 薬剤室業務の状況

(1) 調剤業務の状況

単位：件

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
調 剤 数	外 来	13,962	13,624	9,018
	入 院	82,138	90,241	87,990
	合 計	96,100	103,865	97,008
処 方 箋 枚 数	外 来	7,642	7,427	3,710
	入 院	35,138	37,819	27,327
	合 計	42,780	45,246	31,037

(2) 服薬指導の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
服薬指導患者数（人）	1,858	1,739	1,165
服薬指導延回数（回）	3,268	2,199	1,775

(3) 注射剤調製の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
外来注射（化学療法）	1,742	1,626	1,625
外来注射（レミケード注他抗リウマチ薬）	98	120	110
入院注射（化学療法）	342	300	406
入院注射（レミケード注他抗リウマチ薬）	9	5	8

(4) 後発医薬品採用率

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
採用率（％）	23.1	23.4	24.9
当院採用の後発医薬品数	300	312	333
当院採用の全医薬品数	1,300	1,331	1,336

採用率（％）＝当院採用の後発医薬品数／当院採用の全医薬品数

8 人工透析の状況

単位：人

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
多人数用装置	11,877	12,985	13,541
単身用装置	369	357	380
合 計	12,246	13,342	13,921

令和元年度末現在

患者数（定期） 88人

多人数用装置設置台数 22台（透析センター）

単身用装置設置台数 3台（透析センター1台、MEセンター 1台、HCU 1台）

アフェレシスマニタ 3台（MEセンター 2台、HCU 1台）

9 放射線科（室）の状況

（１）撮影の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
一般撮影	32,790	33,259	31,022
尿路撮影（DIP）	1	2	0
透視撮影	1,024	987	1,121
血管造影撮影	644	690	572
CT（2台）	13,383	14,023	13,513
MRI（1台）	3,796	3,794	3,651
超音波診断	4,793	4,847	4,914
R I	622	631	581
放射線治療	762	576	588
骨密度測定	819	923	940
マンモグラフィ	1,660	1,615	1,665
合計	60,294	61,339	58,567

（２）紹介患者の取り組み

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
紹介患者データ取り込み	2,952	3,316	3,186
当院データコピー	2,349	2,576	2,348
合計	5,301	5,892	5,534

（３）血管撮影検査の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
脳神経外科	73	67	87
循環器科	469	443	295
放射線科	102	143	133
その他の診療科	0	37	1
合計	644	690	516

※血管内手術も含む

（４）MRI検査の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
院内件数	3,449	3,450	3,319
院外件数	346	344	318
合計	3,795	3,794	3,637
頭部件数	1,830	1,925	1,997
体部件数	1,971	1,869	1,654
合計	3,801	3,794	3,651

（５）CT検査の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
MDC T（CT室①）	4,914	5,166	5,194
MDC T（CT室②）	8,469	8,857	8,319
合計	13,383	14,023	13,513
院内件数	12,985	13,593	13,153
院外件数	398	430	360
合計	13,383	14,023	13,513

(6) 核医学検査の状況

単位：件

		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
脳神経系	脳血流	115	126	143	163	139	151
	脳血流（負荷）	0		1		2	
	脳	11		19		10	
	脳槽	0		0		0	
	シャントフロー	0		0		0	
循環器系	心筋血流（同期）	0	189	1	160	0	179
	心筋脂肪酸代謝	0		0		1	
	心筋交感神経	14		14		30	
	急性心筋梗塞	1		2		2	
	代謝＋血流同時	49		30		50	
	負荷心筋（運動）	12		15		5	
	負荷心筋（薬剤）	112		98		90	
	心プール	0		0		0	
	四肢血流（上肢）	0		0		0	
	四肢血流（下肢）	1		0		1	
	静脈血栓	0		0		0	
	循環血漿流量	0		0		0	
呼吸器系	肺血流	6	12	7	13	1	2
	肺換気	5		6		1	
	静脈血栓	1		0		0	
消化器系	肝	0	3	0	2	0	3
	胆道	1		0		0	
	唾液腺	2		0		0	
	メックェル憩室	0		1		0	
	蛋白漏出試験	0		1		2	
	異所性胃粘膜	0		0		2	
	胃排泄能試験	0		0		0	
	門脈循環短絡	0		0		0	
消化管出血	0	0	3				
内分泌系	甲状腺	7	10	5	6	3	7
	副甲状腺	3		1		4	
腎尿路系	レノグラム	29	35	8	14	19	30
	レノグラム（負荷）	3		1		6	
	腎	3		3		4	
	副腎	0		2		1	
	精巣	0		0		0	
全身検索系	骨	211	253	233	273	179	206
	腫瘍・炎症	42		40		26	
	骨髄	0		0		1	
	リンパ節	0		0		0	
	筋血流	0		0		0	
合計		628		631		582	

(7) 放射線治療の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
新患数（人）	32	26	28
延治療件数（件）	762	576	588

(8) マンモグラフィーの状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ドック	393	375	303
外科	872	449	711
外科検診	395	791	651
合計	1,660	1,615	1,665

(9) 骨密度検査の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
延件数	819	923	940

(10) エコー検査の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
頸部	459	496	478
頸部血管	381	432	466
乳腺	1,424	1,280	1,169
腹部	2,021	2,151	2,288
その他	577	488	513
合計	4,862	4,847	4,914

(11) 透視検査の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ドッグ、健診外科胃透視	235	213	208
消化管（注腸含む）	242	237	348
肝胆道	183	190	201
胸部、IVH挿入	14	14	96
腎尿路系	87	96	2
整形領域	53	16	57
内視鏡併用	47	42	23
その他	163	179	186
合計	1,024	987	1,121

(12) 血管造影の状況

単位：件

循環器科

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
冠動脈造影	290	312	177
冠動脈ステント留置術	116	95	89
心筋灼熱術	1	0	0
下肢動脈	36	3	12
体外式ペースメーカー	17	25	10
その他	9	8	7
合計	469	443	295

脳神経外科

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
頭部血管造影	49	47	59
経皮的脳血管内手術 (脳動脈瘤)	8	7	11
経皮的脳血管内手術 (脳腫瘍)	1	1	2
経皮的脳血管内手術 (脳動静脈奇形)	0	0	3
脳血栓・塞栓溶解術	7	4	6
脳血管ステント留置術	8	8	6
合計	73	67	87

放射線科

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
肝動脈塞栓術	43	61	70
経皮的肝胆管 ステント挿入術	10	9	13
経皮的胆管 ドレナージ術	17	24	22
経皮的肝膿瘍 ドレナージ術	11	14	12
シャント拡張術	21	31	13
その他	0	4	3
合計	102	143	133

10 臨床検査の状況

(1) 各種検査件数

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
病 理 検 査	5,488	5,422	5,461
細 菌 検 査	8,719	9,289	8,104
生 化 学 ・ 免 疫 検 査	79,715	77,662	68,504
血 液 検 査	66,503	67,324	63,150
一 般 検 査 (検 尿 ・ 検 便)	46,618	45,744	42,844
そ の 他 (院 内 検 査)	72,768	62,575	46,795
輸 血 検 査	2,309	3,319	3,020
生 理 学 的 検 査	26,629	28,591	26,843
そ の 他 (外 部 委 託 検 査)	13,154	13,516	13,038
合 計	321,903	313,442	277,759

(2) 生理機能検査件数

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
12 誘 導 心 電 図 検 査	14,580	14,577	12,021
3 分 間 心 電 図	138	159	138
マ ス タ ー 負 荷 心 電 図	471	347	322
ト レ ッ ド ミ ル 検 査	5	13	4
ホ ル タ ー 心 電 図	296	266	253
心 臓 超 音 波	3,507	3,595	3,381
そ の 他 循 環 器 領 域 超 音 波 検 査	30	117	98
経 食 道 心 臓 超 音 波	13	8	3
脳 波 検 査	157	169	152
神 経 伝 導 検 査	235	167	186
聴 性 脳 幹 反 応	9	7	13
ス パ イ ロ メ ト リ ー	1,671	1,592	1,598
可 逆 性 試 験	150	132	132
精 密 肺 機 能 検 査	35	50	110
ABI/PWV	745	616	610
CVR-R	85	25	64
心 臓 カ テ ー テ ル	454	455	303
OD テ ス ト	89	97	78
終 夜 睡 眠 ポ リ グ ラ フ ィ (簡 易)	21	39	28
終 夜 睡 眠 ポ リ グ ラ フ ィ	27	28	21
聴 力 (検 査 室 で 施 行)	2,104	2,263	2,283
耳 鼻 咽 喉 科 依 頼 聴 力 検 査	369	539	817
自 動 ABR (新 生 児 聴 力 検 査)	285	282	228
残 尿 超 音 波 検 査	963	2,833	3,731
尿 素 呼 気 試 験 (UBT)	147	161	141
小 腸 通 過 性 試 験 (バ テ ン シ ー)	3	1	5
カ プ セ ル 内 視 鏡	22	12	5
そ の 他 生 理 機 能 検 査	18	41	102
合 計	26,629	28,591	26,827

(3) 血液製剤使用量 (単位数)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
赤血球	1,584	1,438	1,846
血小板	320	650	1,610
新鮮凍結血漿	110	204	282
自己血	4	2	4
アルブミン	2,500	2,313	3,175
合計	4,518	4,607	6,917

1.1 リハビリテーションの状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
運動 (単位)	58,530	57,064	57,089
水治療 (件)	350	351	201
物理 (件)	441	392	301
作業 (単位)	26,191	26,996	28,001
装具 (件)	2	3	4
言語 (単位)	8,088	9,144	10,325
摂食 (単位)	3,025	3,930	2,532
合計	96,627	97,880	98,453

1 2 患者給食及び栄養指導の状況

単位：食

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
一般食	109,239	106,797	100,692
特別食	109,923	111,584	104,258
特別食割合	50.2%	51.1%	50.9%
経管栄養食	8,744	9,797	7,020
合計	227,906	228,178	211,970

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
栄養指導 (件)	入院指導	1,236	1,200	540
	外来指導	511	277	175
	集団指導	22	13	0
	N S T	561	678	315
	合計	2,330	2,168	1,030

1 3 死亡患者数及び病理解剖件数

	死亡患者数 (人)			病理解剖件数 (件)			病理解剖検査率 (%)		
		男	女		男	女		男	女
平成20年度	300	199	101	12	10	2	4.0	5.0	2.0
平成21年度	252	156	96	12	9	3	4.8	5.8	3.1
平成22年度	226	142	84	10	8	2	4.4	5.6	2.4
平成23年度	212	118	94	4	2	2	1.9	1.7	2.1
平成24年度	222	129	93	10	4	6	4.5	3.1	6.5
平成25年度	204	126	78	4	3	1	2.0	2.4	1.3
平成26年度	236	145	91	12	6	6	5.1	4.1	6.6
平成27年度	292	173	119	3	2	1	1.0	1.2	0.8
平成28年度	285	163	122	11	8	3	3.9	4.9	2.5
平成29年度	300	178	122	2	2	0	0.7	1.1	0.0
平成30年度	270	175	95	10	9	1	3.7	5.1	1.1
令和元年度	301	185	116	10	9	1	3.3	4.9	0.9
令和2年度	333	201	132	7	5	2	2.1	2.5	1.5

14 患者相談の状況

(1) 患者相談の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度
診療に関すること	332	298
療養生活に関すること	4,529	4,407
医療費に関すること	26	13
制度について	45	58
セカンドオピニオン	2	1
その他の	68	53
合計	5,002	4,830

※「療養生活に関すること」は退院支援の相談を含む

(2) 病院に対するご要望の状況

単位：件

	平成30年度	令和元年度
診療に関すること	23	55
職員の対応に関すること	22	39
設備・システムに関すること	5	2
医療費に関すること	4	3
その他の	11	5
合計	65	104

相談内容件数

単位：件

項目	令和2年度
診療に関すること	211
療養生活に関すること	54/3121 (MSW)
職員の対応に関すること	15
医療費に関すること	4
設備・システムに関すること	10
制度について	26
セカンドオピニオン	1
その他	38
合計	3480

※「療養生活に関すること」は退院支援の相談を含む

令和2年より相談件数内に要望を統合し、内容を分類する方法に変更しました。

(3) 入院説明・案内の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入院説明をした患者数(人)	5,204	5,212	4,574
全入院に対する割合(%)	94.1	92.3	90.6
病棟案内をした患者数(人)	1,851	1,994	1,746
全入院に対する割合(%)	33.4	35.3	34.6

(4) ボランティアの活動状況

(令和2年度)

○活動人数 12名

○活動時間 午前8時～午後0時

○活動状況

・活動延べ人数 393人

・活動延べ日数 175日

・一日平均活動人数 3.2人

○活動内容

- ・新規患者受付の案内
- ・再診受付機の案内
- ・自動精算機の案内
- ・再診受付機・自動精算機の除菌清掃
- ・車椅子の介助及び整備(空気入れ等)
- ・各科外来、検査室への案内
- ・入院時の病棟への案内
- ・正面玄関フロア、病院前バス停の清掃
- ・エレベータ昇降時の見守り
- ・子ども連れの方への受診の手伝い

15 地域医療連携の状況

(1) 紹介及び逆紹介の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
全診療情報提供書受理数	6,269	5,659	5,677
紹介患者(初診) A	3,758	3,369	3,001
初診料算定患者 B	15,077	13,921	11,272
救急車搬送患者(初診のみ) C	941	931	1,090
外来時間外患者(初診のみ) D	4,714	4,594	3,058
逆紹介数(診療情報料算定) E	4,118	4,765	4,781
紹介率(%) ※1	39.9	40.1	42.1
逆紹介率(%) ※2	43.7	56.8	67.1

※1 紹介率(%) = $[A / \{B - (C + D)\}] * 100$

※2 逆紹介率(%) = $[E / \{B - (C + D)\}] * 100$

(2) 開放型病床 (15床) の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用医師数 (実人数)	192 (26)	188 (24)	202 (24)
利用患者数 (実人数)	6,983 (518)	6,995 (536)	6,844
利用率 (%) (*3)	95.6	95.8	93.8

(*3) 利用率= ((開放型病床に入院した患者の診療を担当している
保険医の紹介による延べ入院患者数) / (開放型病床数×365日))

(3) 地域包括ケア病棟の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
地域包括ケア病棟 (71床)	延日数(日)	20,656	22,052
	利用率	79.7%	84.8%

(4) 退院支援の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
退院支援介入人数 (年間)	1,842	1,829	1,733
退院支援人数 (月平均)	293	284	270
退院支援算定数	1,143	1,004	481
退院前カンファレンス (回)	404	424	404

(5) 地域連携パスの状況

単位：人

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
大腿頸部骨骨折連携パス	12	3	0
脳卒中地域連携パス	9	9	26
急性心筋梗塞・狭心症連携パス	3	1	0

(6) ふくいメディカルネット運用件数

単位：件

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
二州地区閲覧病院	428 (83)	301 (66)	206 (41)
その他地区閲覧病院	2 (0)	5 (1)	3 (0)
開示病院	309 (159)	324 (189)	282 (124)
合計	739 (242)	630 (256)	491 (165)

()は当院の同意取得件数

1.6 医療安全の状況

(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況

単位：枚

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
薬剤	683	647	676
輸血	4	5	18
治療・処置	83	88	74
ドレーン・チューブ	120	118	121
検査	199	228	309
療養上の世話	112	102	230
医療機器等	66	76	42
転倒	194	169	160
転落	59	82	66
その他	269	277	360
合計	1,789	1,792	2,056

17 院内がん登録の状況（令和2年1月～12月）

単位：件

(1) 部位別院内がん登録状況

部位	総数	治療開始後	初発	性別		入院の有無		STAGE別					治療の有無			
				男	女	有	無	0	I	II	III	IV	その他	外科的	体腔的	内視鏡的
全部位	459	36	423	249	174	201	222	23	161	71	47	93	12	85	33	53
口唇・咽頭	4	1	3	3	0	0	3	0	0	2	0	1	0	0	0	0
食道	10	0	10	9	1	6	4	0	2	4	0	4	0	0	0	2
胃	61	0	61	37	24	42	19	0	38	9	2	10	2	14	3	21
結腸	43	2	41	21	20	35	6	3	8	13	6	8	3	11	18	4
直腸・肛門	24	0	24	13	11	19	5	1	7	2	6	5	3	8	6	5
肝臓	12	4	8	5	3	4	4	0	4	3	1	0	0	0	0	0
胆嚢・胆管	15	0	15	7	8	2	13	0	9	3	2	1	0	1	0	0
膵臓	20	2	18	11	7	8	10	0	5	1	1	11	0	1	0	0
喉頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺・気管支	57	13	44	34	10	15	29	0	10	0	12	22	0	0	0	0
骨・軟部組織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚	16	0	16	10	6	7	9	1	10	2	1	0	1	12	0	0
乳房	47	4	43	0	43	22	21	4	18	13	2	5	1	30	0	0
子宮頸部	4	1	3	0	3	0	3	1	0	1	1	0	0	0	0	0
子宮体部	3	0	3	0	3	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0
卵巣	2	0	2	0	2	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0
前立腺	51	4	47	47	0	3	44	0	20	9	6	11	1	1	0	1
腎	18	0	18	12	6	6	12	0	12	1	1	4	0	0	5	0
腎盂・尿管	6	0	6	4	2	3	3	0	0	0	2	4	0	0	0	0
膀胱	27	0	27	21	6	22	5	13	6	4	1	2	1	2	0	20
脳・神経	7	2	5	1	4	1	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0
甲状腺	2	1	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
リンパ腫・骨髄腫	15	0	15	6	9	0	15	0	3	1	3	4	0	0	0	0
白血病	4	2	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄増殖性疾患	3	0	3	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原発部位不明	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	7	0	7	3	4	6	1	0	5	2	0	0	0	4	1	0

※院内がん登録は、当院初発がん患者を対象としており、性別、入院の有無、ステージ別及び治療の有無については、初発がん患者の内訳となっている。

(2) 経緯別院内がん登録の状況

単位：件

来院経路	登録数
自 主 的 受 診	101
他 施 設 か ら の 紹 介	197
自施設での他疾患経過観察中	161
そ の 他	0
不 明	0
合 計	459

発見経緯	登録数
がん検診・健康診断・人間ドック	35
他疾患の経過観察中の偶然発見	213
剖 検 発 見 (A i を 含 む)	0
そ の 他	198
不 明	13
合 計	459

症例区分	登録数
診 断 の み	59
自施設診断・自施設初回治療開始	321
自施設診断・自施設初回治療継続	0
他施設診断・自施設初回治療開始	36
他施設診断・自施設初回治療継続	7
初 回 治 療 終 了 後	36
そ の 他	0
合 計	459

V D P Cの概要

1 D P C係数の状況

(令和3年4月時点)

係数	内訳	係数	
機能評価係数I	急性期一般入院料 4	0.0220	
	臨床研修病院入院診療加算 1	0.0014	
	診療録管理体制加算	0.0031	
	医師事務作業補助体制加算 1 (15 : 1)	0.0341	
	急性期看護補助体制加算 (25 : 1) 5割以上	0.0607	
	看護職員夜間配置加算 (16 : 1)	0.0164	
	医療安全対策加算 1	0.0030	
	医療安全対策地域連携加算 1	0.0018	
	感染防止対策加算 1	0.0137	
	感染防止対策地域連携加算	0.0035	
	抗菌薬適正使用支援加算	0.0035	
	後発医薬品使用体制加算 1	0.0014	
	検体検査管理加算IV	0.0133	
	データ提出加算 2	0.0053	
	地域医療体制確保加算	0.0183	
		小計	0.2015
	機能評価係数II	保険診療係数	0.01575
		効率性係数	0.01728
		複雑性係数	0.01283
		カバー率係数	0.01169
地域医療係数		0.02717	
		体制評価係数	0.00918
		定量評価係数 (小児)	0.00872
		定量評価係数 (小児以外)	0.00927
救急医療係数		0.01139	
		小計	0.0961
基礎係数	D P C 標準病院群	1.0404	
医療機関別係数		1.3380	

2 DPC/PDPSにおけるMDC2析分類(令和2年度)

	MDC2析コード	件数	平均在院 日数(日)	入院期間率				DPC 1日当り 平均(円)
				入院期間I	入院期間II	入院期間III	入院期間III超	
01	神経系疾患	307	19.0	20.5%	33.2%	40.1%	3.9%	54,009
02	眼科系疾患	40	2.0	10.0%	90.0%	0.0%	0.0%	98,636
03	耳鼻咽喉科系疾患	100	5.7	9.0%	53.0%	38.0%	0.0%	38,791
04	呼吸器系疾患	591	17.9	16.4%	40.6%	35.0%	4.2%	43,160
05	循環器系疾患	417	11.5	14.9%	60.0%	22.1%	2.6%	68,523
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	1,185	13.3	12.0%	43.0%	40.8%	2.4%	53,653
07	筋骨格系疾患	189	17.0	18.0%	50.8%	29.6%	1.1%	68,476
08	皮膚・皮下組織の疾患	69	9.3	8.7%	33.3%	37.7%	0.0%	54,057
09	乳房の疾患	50	16.4	12.0%	16.0%	56.0%	8.0%	51,705
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	104	14.6	23.1%	40.4%	28.8%	7.7%	36,967
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	715	10.6	13.3%	51.3%	30.6%	3.4%	49,216
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	288	8.3	30.9%	31.6%	33.7%	3.1%	51,313
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	38	19.9	28.9%	21.1%	44.7%	5.3%	57,131
14	新生児疾患、先天性奇形	86	9.0	15.1%	46.5%	37.2%	1.2%	44,817
15	小児疾患	18	5.3	0.0%	44.4%	55.6%	0.0%	54,950
16	外傷・熱傷・中毒	372	14.3	18.3%	44.1%	35.5%	1.6%	55,130
17	精神疾患	6	5.2	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	27,505
18	その他	96	19.2	9.4%	19.8%	22.9%	5.2%	64,026
統計		4,671	13.4	15.7%	44.0%	34.5%	3.0%	53,038

VI 研究業績

1 診療部

内科

(学会発表)

1. FLT-PET を用いた非小細胞肺癌に対する抗 PD-1 抗体治療の早期治療効果予測
佐藤譲之, 梅田幸寛, 武田俊宏, 島田昭和, 山口牧子, 園田智明, 本定千知, 門脇麻衣子, 重見博子, 安齋正樹, 辻川哲也, 岡沢秀彦, 石塚全
第 60 回日本呼吸器学会学術講演会, ポスター発表, 2020 年 9 月, WEB.
2. 当院での進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法後におけるデュルバルマブ投与の安全性の検討
藤井裕也, 塚尾仁一, 堺隆大, 山口航, 中屋順哉, 小嶋徹, 清水陽介
第 60 回日本呼吸器学会学術講演会, ポスター発表, 2020 年 9 月, WEB.
3. 自動浴槽洗浄システムで家庭内発症した hot tub lung の一例
藤井裕也, 佐藤譲之, 中嶋康貴, 五十嵐一誠, 高橋秀房, 原田憲一
第 86 回日本呼吸器学会北陸地方会, 2020 年 10 月, WEB
4. EUS-B-FNA でドライバー遺伝子変異を検出し長期生存を得た Oncologic Emergency NSCLC 3 例の検討
中嶋康貴
第 61 回日本肺癌学会学術集会, 2020 年 11 月, WEB.

(講演)

1. 高齢者とコロナ禍の糖尿病診療
石倉和秀
三方郡医師会学術講演会, 2020 年 9 月, 若狭町.
2. コロナ禍での糖尿病診療について
石倉和秀
T2DM Forum2020 in FUKUI, 2020 年 10 月, 福井市.
3. 高齢 2 型糖尿病治療の新たな目標 ～フレイル対策と栄養～
石倉和秀
第 14 回二州糖尿病フォーラム, 2020 年 10 月, 敦賀市.

4. 腎臓内科専門医からみた糖尿病

小林元夫

敦賀市薬剤師会講演会, 2021年1月, 敦賀市.

5. 糖尿病合併の難治性高血圧症とPA

石倉和秀

Hypertension & PA-Seminar in Tsuruga, 2021年2月, 敦賀市.

循環器内科

(学会発表)

1. 心不全患者における腎 123I-MIBG シンチグラフィの検討

岡部佳孝, 中嶋憲一

第30回日本心臓核医学総会・学術大会, 2020年12月, WEB.

2. 心不全患者における 123I-MIBG 腎動態シンチグラフィの検討

岡部佳孝, 中嶋憲一

第30回日本心臓核医学総会・学術大会, 2020年12月, WEB.

(講演)

1. 心房細動患者の心臓・脳を助ける医療連携

三田村康仁

抗凝固療法 UP to DATE in Reinan, 2021年2月, 敦賀市.

消化器内科

(著作)

1. 日本消化器内視鏡学会北陸支部の歴史 一支部長としての6年間を振り返って一

米島學

ENDOSCOPIC FORUM for digestive disease Vol.36 No.1 pp.1-4, 2020 7月.

2. 北陸支部の活動と歴史

米島學

Gastroenterological Endoscopy 2811 日本消化器内視鏡学会総会 100回記念号 VOL. 62 (Supplement3) NOVEMBER 2020.

3. Fatal case of pancreatic panniculitis caused by occult Neuroendocrine tumor

in the corresponding organ: A case report and review of the published work.
Hiroshi Kasamatsu, Noritaka Oyama, Minoru Hasegawa, Yohei Oku, Genki Inoue, Makiko Kimura, Masataka Kanno, Takumi Kawakami, Hajime Ohta, Manabu Yoneshima.
Volume 48, Issue 2 Special Issue: Atopic dermatitis

4. Endoscopic resection of local recurrences of diminutive polyps by cold forceps polypectomy.
Toshi Kuwai, Takuya Yamada, Tatsuya Toyokawa, Tomohiro Kudo, Naoki Esaka, Hajime Ohata, Haruhiro Yamashita, Yasuo Hosoda, Noriko Watanabe & Naohiko Harada.
Scandinavian Journal of Gastroenterology Published online: 14 Jan 2021.

(学会発表)

1. IgG4 関連硬化性胆管炎における胆管狭窄のマネジメント
宮澤正樹, 鷹取元, 北村和哉, 金子周一
第 106 回日本消化器病学会総会, 2020 年 8 月, WEB.
2. 悪性遠位胆道閉塞に対する両端フレア付き内外側 Covered self-expandable metallic stent の有用性
宮澤正樹, 鷹取元, 林智之, 山田真也, 北村和哉, 水越英四郎, 金子周一
第 99 回日本消化器内視鏡学会総会, 2020 年 9 月, WEB.
3. 当院で経験した門脈肺高血圧症の 2 例
宮澤正樹
第 27 回日本門脈圧亢進症学会総会, 2020 年 10 月, WEB.
4. 蛋白漏出性胃腸症が診断契機となった IgA 血管炎による十二指腸・空腸多発潰瘍の 1 例
宮澤正樹, 熊井達男, 川上巧, 原田憲一, 太田肇, 米島學
第 130 回日本消化器病学会北陸支部例会, 2020 年 11 月, 福井市.
5. #202289 - GEMCITABINE PLUS ANTI-PD-1 ANTIBODY ENHANCES ANTICANCER EFFECT BY M1 MACROPHAGE AND Th1 RESPONSE IN A PDAC LIVER METASTASIS MURINE MODEL
Masaki Miyazawa
AASLD The Liver Meeting, 2020 年 11 月, WEB.
6. S-0 Clip と Clutch Cutter の併用で安全かつ容易に施行しえた盲腸 ESD の 1 例
川上巧, 熊井達男, 宮澤正樹, 太田肇, 米島學

第 115 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会，2020 年 11 月，WEB.

(講演)

1. 消化器専門医からみる薬剤起因性消化管傷害のマネジメント

米島學

小浜医師会学術講演会，2020 年 12 月，WEB.

外科

(学会発表)

1. 腹腔鏡補助下に切除した末梢型成人小腸間膜嚢胞型リンパ管腫の 1 例

永野秀樹，木村俊久，飯田敦，戸川保，大西颯司，渡邊剛史，五井孝憲，佐藤保則

第 120 回日本外科学会定期学術集会，2020 年 8 月，WEB.

2. 長期経過観察した直腸嚢胞型リンパ管腫の 1 例

嶋田通明，福岡秀哲，上藤聖子，永野秀樹，林泰生

第 115 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会，2020 年 11 月，WEB.

整形外科

(学会発表)

1. 腰椎原発性脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術

清水貴樹，出村諭，加藤仁志，新村和也，米澤則隆，奥規博，北川亮，半田真人，安念
遼平，土屋弘行

第 53 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会，2020 年 9 月，WEB.

2. 腫瘍脊椎骨全摘術後 instrumentation failure への脊柱再建アライメントの影響

清水貴樹

第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会，2020 年 9 月，WEB.

3. 腰部脊柱管狭窄症患者における立ち上がりテストに影響を及ぼす運動機能の検討

清水貴樹

第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会，2020 年 9 月，WEB.

4. 肩こりに対する低用量プレガバリンの有効性

田尻和人

第 69 回東日本整形災害外科学会，2020 年 9 月，WEB.

5. 心筋梗塞治療で軽快した腱板損傷を伴った両肩痛の1例
田尻和八
第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2020年11月, WEB.
6. 脛骨神経に神経移植を行った下腿不全切断再接着の1例
本田宗一郎
第47回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2020年11月, WEB.
7. 創外固定器を併用したダメージコントロール手術～スポーツ外傷例の小体験～
柳下信一
JOSKAS-JOSSM 2020, 2020年12月, WEB.

(講演)

1. 末梢性神経障害性疼痛に対するミロガバリンの有用性
田尻和八
Pain Live Symposium in Fukui, 2021年1月, WEB.
2. その痛み、末梢性神経障害性疼痛かもしれません ～当院の診断と治療～
田尻和八
敦賀市医師会学術講演会“痛み”について考える in 嶺南, 2021年3月, WEB.

脳神経外科

(学会発表)

1. 視野障害、後頭部通にて発症した1例
木戸口正宗
第239回福井脳・神経疾患談話会, 2020年7月, 小浜市.
2. 頭痛、後頭部痛のみで発症した椎骨動脈乖離の臨床像
荒井大志
STROKE 2020, 2020年8月, WEB.
3. ステンント併用コイル塞栓術にて治療を行った内頸動脈前壁破裂動脈瘤の1例
木戸口正宗
STROKE 2020, 2020年8月, WEB.
4. 多発性骨髄腫による過粘稠度症候群にて脳梗塞を発症し血栓回収療法を施行した1例

木戸口正宗

一般社団法人日本脳神経外科学会第79回学術総会，2020年10月，WEB.

5. くも膜下出血後の重度遅発性脳血管攣縮症例の検討

荒井大志

第36回NP0法人日本脳神経血管内治療学会学術総会，2020年11月，京都市.

6. 多発性骨髄腫による過粘稠度症候群からの脳梗塞に対し血栓回収療法を施行した1例

木戸口正宗

第36回NP0法人日本脳神経血管内治療学会学術総会，2020年11月，WEB.

7. 術前栄養血管塞栓術を行った髄膜種の1例

荒木大志

第12回福井脳神経外科歳末研究会，2020年12月，福井市.

(講演)

1. 脳外科医として心原性脳塞栓症を考える

新井良和

加賀市医師会学術講演会，2021年3月，WEB.

乳腺外科

(学会発表)

1. Palbociclib投与後のAbemaciclibの治療効果の検討

横井繁周

第28回日本乳癌学会学術総会，2020年10月，WEB.

2. CDK4/6阻害薬が有効であった腹膜転移を伴う進行乳癌の1例

矢尾祥子

第28回日本乳癌学会学術総会，2020年10月，WEB.

皮膚科

(論文・共著)

1. Sister Mary Joseph's Noduleを呈したスキルス胃癌の1例

岡村咲由莉，長谷川巧，八代浩，長谷川義典

皮膚科の臨床 62巻8号 2020年7月.

(学会発表)

1. エコーガイド下マ Manson 孤虫症摘出の一例

岡村咲由莉, 八代浩, 長谷川義典, 馬場夏希, 矢野泰弘

第 38 回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会

SKIN SURGERY 2020/11/14. 15

2. Melanocytic tumor of uncertain malignant potential (MELTUMP) と考えられた左足底皮膚腫瘍の 1 例

岡村咲由莉, 尾山陽子, 八代浩, 長谷川義典, 福本隆也, 後藤啓

第 36 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2021 年 1 月, WEB 開催.

神経科精神科

(講演)

1. 心不全改善後も継続する咽頭違和感に対して半夏厚朴湯が奏功した症例について

松本日和

福井漢方臨床講座, 2020 年 11 月, 福井市.

2 医療支援部

(執筆)

1. 地域医療連携の手引き (Ver. 1) の解説

荒木隆一

日本病院薬剤師会雑誌, Vol. 57. N03. 2021

(学会発表)

1. 全人的苦痛緩和の共通認識を目的とした緩和ケアチームによる講習会開催の取り組み

今井裕子, 仲間有希, 松本日和, 林泰生

緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020 第 25 回日本緩和医療学会学術大会, Web 学会.

2. 2040 年を見据えた地域連携を考える

荒木隆一

第 30 回日本医療薬学会年会 シンポジウム 19, 2020 年 10 月, WEB.

(講演)

1. 地域医療連携の手引きについて

荒木隆一

日本保険薬局協会 薬局機能創造委員会 オンライン勉強会, 2020 年 8 月, WEB.

2. 2040 年を見据えた地域医療連携を考える～病院薬剤師の立場から～

荒木隆一

Novartis Pharmacists Web Seminar, 2020 年 11 月, WEB.

3. 2040 年を見据えた地域医療連携を考える～病院薬剤師の立場から～

荒木隆一

幡多薬剤師研修会, 2020 年 11 月, WEB.

4. 2040 年を見据えた地域医療連携を考える～病院薬剤師の立場から～

荒木隆一

Fukui Pharmacist Seminar, 2020 年 12 月, WEB.

5. 医療機関と薬局の連携について病院薬剤師の立場から (2040 年を見据えて)

荒木隆一

令和 2 年度 薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業 次世代薬剤師指導者研修会, 2021 年 2 月, WEB.

6. 地域医療連携を考える ～トレーシングレポートの利活用について～

荒木隆一

AKI Pharmacy Director Seminar, 2021年3月, WEB.

3 医療技術部

検査室

(論文)

1. Clinical evaluation of a non-purified direct molecular assay for the detection of *Clostridioides difficile* toxin genes in stool specimens
Toshinori Hara(*), Hiromichi Suzuki, Tadatomo Oyanagi, Norito Koyanagi, Akihito Ushiki, Naoki Kawabata, Miki Goto, Yukio Hida, Yuji Yaguchi, Kiyoko Tamai, Shigeyuki Notake, Yosuke Kawashima, Akio Sugiyama, Keiichi Uemura, Seiya Kashiya, Toru Nanmoku, Satoshi Suzuki, Hiroshi Yamazaki, Hideki Kimura, Hiroyuki Kunishima, Hiroki Ohge
PLoS ONE 15(6):e0234119.
2. Evaluation of GENECUBE Mycoplasma for the detection of macrolide-resistant *Mycoplasma pneumoniae*
Yoshitomo Morinaga, Hiromichi Suzuki, Shigeyuki Notake, Takashi Mizusaka, Keiichi Uemura, Shinobu Otomo, Yuka Oi, Akihito Ushiki, Naoki Kawabata, Kazuaki Kameyama, Eri Morishita, Yoshiko Uekura, Akio Sugiyama, Yosuke Kawashima, Katsunori Yanagihara
Journal of Medical Microbiology DOI 10.1099/jmm.0.001264
3. Development and evaluation of a novel quenching probe PCR (GENECUBE) assay for rapidly detecting and distinguishing between *Chlamydia pneumoniae* and *Chlamydia psittaci*
Kyoko Hisada, Yukio Hida, Naoki Kawabata, Yosuke Kawashima, Yoshihiro Soya, Akihiro Shimada, Masayuki Iwano, Hideki Kimura
Journal of Microbiological Methods 184 (2021) 106212
4. 福井県における新型コロナウイルスに対する検査体制 ―第11回福井感染制御ネットワーク会議でのアンケート報告―
飛田征男, 久田恭子, 川端直樹, 津田寛子, 岩崎博道
福井県臨床検査技師会誌 第51巻1号:2-5, 2020年12月.

(講演)

1. COVID-19 第1波を経験して 福井県内における患者受け入れ施設からの報告 ～リソースの少ない地方病院における COVID19 が浮き彫りにした課題～

川端直樹

令和 2 年度福井県臨床検査技師会臨床微生物部門勉強会，2020 年 9 月，Web.

2. 新型コロナウイルス感染症 ～市立敦賀病院の取り組み～

荒木隆一，川端直樹

敦賀市西地区区長会 区長・団体長会議，2020 年 10 月，敦賀市.

3. 心エコー図検査！的を得た報告で信頼度アップ

河野裕樹

第 2 回京滋福 WEB セミナー，2020 年 12 月，Web.

(執筆)

1. 新型コロナウイルス感染症について

川端直樹

敦賀気比高等学校附属中学校 中学部委員会広報誌「VOICE」

放射線室

(講演)

1. 市立敦賀病院における新型コロナ患者の対応

山崎巖

福井 CT.MR 研究会，2020 年 9 月，WEB 学会

2. 私の活動報告

山崎巖

福井県 DMAT インスト・タスクの集い，2021 年 3 月，WEB 学会

リハビリテーション室

(学会発表)

1. 心不全患者における継続的な外来心臓リハビリテーション通院の効果～心不全管理と ADL 維持に関する検討～

高木隆幸

第 26 回日本心臓リハビリテーション学術集会，2020 年 7 月，Web 学会.

2. 当院を非自宅退院した心リハ患者の傾向-効率的な退院支援を目指して-

大澤拓実

第 26 回日本心臓リハビリテーション学術集会，2020 年 7 月，Web 学会.

3. 学会発表に関する行動変容ステージに応じた支援方法の検討

増井正清

第 57 回日本リハビリテーション医学学会, 2020 年 8 月, 京都市 (ハイブリッド開催).

4. 高齢 2 型糖尿病患者の運動習慣と筋力、各種臨床指標等との関連

増井正清

第 63 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2020 年 10 月, Web 学会.

(講演)

1. 福井県における糖尿病対策と理学療法士の関わり

増井正清

日本糖尿病理学療法士学会, 2020 年 7 月, Web 研修.

2. 慢性炎症性脱髄性多発性神経炎を呈した症例に対する作業療法

鴛田夏希

福井県地域連携研修会, 2021 年 3 月, ZOOM.

4 看護部

(学会発表)

1. 地域包括ケア病棟における看護補助者との PNS 協働を試みて

稲垣香緒里, 田辺里江, 戸田千代子, 小田島尚子

第 8 回 PNS 研究会, 2021 年 3 月, 福井市.

2. 地域包括ケア病棟間の統一に向けての人事交流の取り組み

藤長真由美, 稲垣香緒里, 近江谷未幸

第 8 回 PNS 研究会, 2021 年 3 月, 福井市.

3. 疑似症例受け入れ病棟における PNS 体制の現状報告

百田美樹子, 藤井優子, 藤長ひろ美

第 8 回 PNS 研究会, 2021 年 3 月, 福井市.

4. 難治性疼痛・精神症状のある患者の「帰りたい」を支えるために

— 多職種連携による退院支援の一例 —

仲間有希, 松本日和, 林泰生

緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020 第 25 回日本緩和医療学会学術大会, Web 学会.

5. 在宅につないで硬膜外鎮痛法を行った療養者の一例～訪問看護師がコーディネートして～
砂原里子，仲間有希，田辺里江，松本日和，林泰生
緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020 第 25 回日本緩和医療学会学術大会，Web 学会.

令和2年度剖検一覧

No.	剖検番号	性別	依頼科	主治医	臨床診断	執刀医	CPC実施日	CPC会場
1	13703	M	内科	高橋 秀房	慢性閉塞性肺疾患の急性増悪	五十嵐 一誠	2020/7/31	市立敦賀病院 東診療棟3階 医局
2	13710	M	内科	林 萌乃果	敗血症性ショック	小林 元夫 林 萌乃果	-	COVIDの影響により 病理医判断で実施せず 剖検診断報告書の報告のみ
3	13714	F	内科	藤井 裕也	1.敗血症 2.S状結腸憩室穿孔 3.肺炎 4.胃悪性リンパ腫(DLBCL) 5.抗セントロメア抗体陽性漿膜炎 6.強皮症、PBC疑い、抗ミトコンドリア抗体陽性	藤井 裕也	2020/10/30	市立敦賀病院 東診療棟3階 医局
4	13715	M	内科	岡部 佳孝	1.甲状腺クリーゼ 2.急性肝不全 3.敗血症 4.たこつぼ型心筋症 5.発作性心房細動 6.急性腎不全	岡部 佳孝	2021/7/27	金沢大学 人体病理学教室
5	13720	M	内科	林 萌乃果	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	林 萌乃果	2020/11/20	金沢大学 人体病理学教室
6	13726	M	内科	清水 和朗	慢性胸膜炎、良性石綿胸水	清水 和朗	2020/3/19	金沢大学 人体病理学教室
7	13731	F	内科	中嶋 康貴	1.肺出血の疑い 2.食道裂孔ヘルニア	中嶋 康貴	2021/9/28	金沢大学 人体病理学教室

令和2年度 臨床病理検討会(CPC)一覧

No.	開催日	開催場所	症例	臨床診断名	病理診断名	発表者	参加人数
1	6月26日	市立敦賀病院医局	70代男性	悪性胸膜中皮腫	悪性中皮腫(右胸膜原発、肉腫型)	臨床医 岩井良磨 五十嵐一誠 病理医 山村美奈子	14名
2	7月31日	市立敦賀病院医局	60代男性	慢性閉塞性肺疾患の急性増悪	間質性肺炎	臨床医 萩原峻太 高橋秀房 病理医 山村美奈子	9名
3	8月28日	市立敦賀病院医局	90代女性	慢性心不全	慢性心不全	臨床医 五十嵐一誠 病理医 山村美奈子	8名
4	9月25日	市立敦賀病院医局	90代男性	誤嚥性肺炎	肺炎	臨床医 梅田秀人 五十嵐一誠 病理医 山村美奈子	8名
5	10月30日	市立敦賀病院医局	70代女性	敗血症	肺炎	臨床医 森一将 藤井裕也 病理医 山村美奈子	12名
6	11月20日	金沢大学人体病理学教室	80代男性	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	臨床医 林萌乃果 病理医 佐々木素子	5名
7	3月19日	金沢大学人体病理学教室	70代男性	慢性胸膜炎、良性石綿胸水	アスベスト関連疾患	臨床医 清水和朗 病理医 佐々木素子	5名

VII 臨床研修プログラム概要

<令和2年度 市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績>

1. プログラムの名称

市立敦賀病院臨床研修プログラム

2. プログラムの目的と特徴

プライマリー・ケアを中心に、医師として必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を身に付け、患者とのコミュニケーションやチーム医療など医療人としての人格を涵養することがこの研修プログラムの目的です。

当院の卒後臨床研修は、協力型（金沢大学附属病院、福井大学医学部附属病院）および基幹型臨床研修病院として、病院群を形成し連携をとりながら研修を行います。また、地域医療における療養型病院、診療所などの研修をはじめとして、本院で行う各診療科のプログラムの一部を担うため、豊富な研修協力施設を設けています。

なお、当院の協力型研修は、金沢大学附属病院および福井大学医学部附属病院と各々たすきがけ方式を採用していますので、研修のコース選択によっては両大学病院の研修プログラムと全く同じか一部重複するところがあります。

3. 研修方式および研修内容

当院、敦賀温泉病院、つるが生協診療所などにおいて研修を行う。

(1) オリエンテーション

研修開始直後の数日間はオリエンテーションを行います。研修を円滑に実施できるよう、カルテの記載、インフォームド・コンセント、医療事故、院内感染、チーム医療、保険医療など、医療を行うために必要な事項を学びます。

(2) 基本科目研修

基本科目研修では、内科6ヶ月、救急3ヶ月（うち1ヶ月麻酔科可）、外科1ヶ月、小児科1ヶ月、産婦人科1ヶ月、精神科1ヶ月、地域医療1ヶ月の研修を行います。

①内科研修では、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、透析の内科領域の到達目標を達成できるようローテート研修します。

②救急研修では、救急初期診療の実践訓練を主体とします。全ての救急患者に対して、電話連絡の時点からの情報収集、患者や家族、救急隊へのアドバイスを含めて、救急室における初期診療全般に関して、救急・内科・麻酔科医師等の監督・指導のもとに実践します。また、ローテーション中に心肺蘇生のミニ訓練コース、外傷初期診療のミニ訓練コースを受講していただきます。

救急研修内で1ヶ月研修可で麻酔科研修では、麻酔科医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

- ・患者の全身状態の把握の仕方と患者との接し方を会得する。
- ・呼吸、循環、代謝などの全身管理学の基本を手術麻酔管理を通じて身に付ける。
- ・手術室での研修を基本として、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を修得する。
- ・疼痛を中心とした神経管理・除痛、調整、回復蘇生の技術を外来、手術室、病室において研修する。

③外科研修では、外科的疾患に対する診断法・手術手技・術後管理の基本と外科的救急疾患へのプライマリ・ケアが修得できるよう研修します。

④小児科研修では、小児医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

- ・小児および小児期の疾患の特性を学び、小児の診療の特性を学ぶ。
 - ・検診などを通して発育、発達についての知識を深める。
 - ・年齢による検査値や薬用量の違いを知る。
 - ・母親など保護者との信頼関係の確立とコミュニケーションの保持に努める。
- ⑤産婦人科研修では、一般患者全般を診るために必要な産科婦人科診療を体験し学びます。具体的には、妊娠に関連する症状や異常、婦人科疾患による諸症状を、他の異常と見誤らない能力と知識を身につけます。
- ⑥精神科研修では、精神疾患に対する診断、治療、予防についての健全な臨床的判断とそれに必要な知識を修得します。
- ⑦地域医療では、「かかりつけ医」として必要な技能と判断力のうち最低限度のものを身につけることを研修します。

(3) 選択科目研修

選択科目研修は、それまでの研修で不十分であった部分を補ったり、将来の進路に合わせて研修医の自由選択により、本院の次の診療科等から選択して研修を行います。

内科（消化器、循環器、血液、アレルギー・膠原病、感染症、神経、脳血管障害、内分泌代謝、腎・透析・高血圧、呼吸器）、小児科、呼吸器外科、消化器外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、神経科精神科、救急・麻酔科・地域保健（二州健康福祉センター・福井県赤十字血液センター）

4. 研修協力病院・施設

地域の研修協力病院や研修協力施設と連携をとりながら効果的な研修を行います。これらの病院や施設には特色あるプログラムが用意されています。

- ・協力型臨床研修病院
 - 医療法人積善会 猪原病院（精神科）猪原久貴
 - 福井大学医学部附属病院救急部（救急）林寛之
 - 福井県立病院救急部（救急）石田浩
 - 金沢大学附属病院（内科）和田隆志
 - 医療法人 敦賀温泉病院（精神科）玉井顯
- ・臨床研修協力施設
 - 医療法人保仁会 泉ヶ丘病院（地域医療）上坂敏弘
 - 美浜町東部診療所（地域医療）村寄文人
 - 福井県医療生活協同組合つるが生協診療所（地域医療）大門和
 - 福井県二州健康福祉センター（地域保健）高木和貴
 - 福井県赤十字血液センター（地域保健）武藤眞

5. 研修指導体制

研修の管理責任者は市立敦賀病院長であり、病院長のもとに研修管理委員会を置き、研修の計画から修了認定までを管理します。また研修期間中、プログラムおよび研修医の指導・管理を担当するプログラム責任者、研修医を直接指導し評価を行う研修指導医を置きます。

(1) 研修管理委員会

研修管理委員会は、病院長、プログラム責任者、副プログラム責任者、各診療科研修実施責任者および臨床研修協力病院、地域保健・医療を含めた研修協力施設の代表者および事務責任者で組織し、臨床研修プログラムおよび研修医の管理、評価等を行います。

(2) プログラム責任者（臨床研修センター長 太田 肇）

プログラム責任者は、研修プログラム全体を統括し、全研修期間を通して研修医の指導・管理を行います。また各診療科および各臨床研修協力病院に研修実施責任者を置き、当該診療科等の研修期間中プログラムを管理し、研修医の指導・管理を行います。

(3) 研修指導医

指導医は、研修プログラムに基づき直接研修医を指導し、研修医に対する評価を行います。指導医は臨床経験7年以上の指導医講習会受講済者で、プライマリ・ケアを中心とした指導を行える十分な能力を有する者とし、診療科長の推薦により病院長が任命します。なお、研修協力病院および研修協力施設の指導医はその病院または施設の長に委ねます。

(4) 臨床研修の評価と修了認定

- ①指導医は担当する診療科での研修期間中、研修目標の到達状況を適宜把握し、研修実施責任者に報告します。
- ②各診療科の研修実施責任者は、当該研修期間が終了したとき、研修医の目標到達状況をプログラム責任者および研修管理委員会に報告します。
- ③研修管理委員会は、研修終了時に、勤務記録、行動目標や経験目標の到達度などで総合的な評価を行います。病院長は、研修管理委員会が臨床研修を修了したと認めるときは臨床研修修了証書を交付します。また、臨床研修を修了したと認めないときは、その理由を文書で研修医に通知します。

6. 研修医の募集人員および選抜方法

基幹型研修プログラムを全国に公開し、マッチング方式により全国から募集します。大学病院との協力型研修の場合は、全国公募はありません。応募の窓口は臨床研修センターとします。

(1) 募集人員

6名

(2) 選抜方法

研修医の選抜は、書類審査および面接により行います。面接は夏季休暇期間中に複数回実施します。出願書類、選抜期日など詳細は決定次第発表します。

(3) 選考結果通知

医師臨床研修マッチングの結果により決定し、速やかに本人に通知します。

7. 処遇

処遇については以下のとおりです。なお、研修協力病院における処遇は、当該病院の定めるところによります。

身分	臨時医師
給与	1年次 465,000円（平成31年4月1日現在） 2年次 481,430円（平成31年4月1日現在） （医師手当を含む。）
その他手当	超過勤務手当、宿日直手当等
賞与	1年次 計 873,750円（平成31年4月1日現在） 2年次 計 1,366,640円（平成31年4月1日現在）
勤務時間	8時30分～17時15分
休日・休暇	土・日曜日、祝日、夏期休暇、年次休暇、特別休暇等 （正規職員に準ずる。）
宿舎	あり
社会保険等	社会保険、厚生年金、労災保険、雇用保険適用
医師賠償責任保険	施設として加入
その他	学会、研修会の旅費および負担金の支給あり

8. 臨床研修ローテーション表

・1年次 基本研修科目（基本パターン）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科			救急			内科			外科	小児科	産婦人科

*必修科目は、内科6ヶ月、救急3ヵ月（うち1ヶ月麻酔科可）、外科、小児科、産婦人科、精神科の中から3科目を各1ヶ月とし、研修を行っていない科目については2年次に1ヶ月研修

*外科は外科、整形外科、脳神経外科等より全身を管理する科目を研修医の希望により選択可

*内科研修時に4週以上の一般外来を研修（2年次でも可）

*内科又は外科研修時に在宅医療（訪問診療）を研修（2年次でも可）

・2年次 必修科目および選択科目（基本パターン）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域医療	精神科	選択科目									

*1年次に研修を行っていない必修科目（外科、小児科、産婦人科、精神科）1ヶ月

*選択科目のうち9ヶ月以上は、市立敦賀病院における研修とする。

*2年次に1週間、福井県赤十字血液センター研修を行う。

<初期研修医の採用状況>

年度	定員 (基幹型)	採用数 (協力型含む)	出身大学
平成16年度	4	1	福井大学
平成17年度	4	4	福井大学(3)、金沢大学
平成18年度	4	3	福井大学(3)
平成19年度	6	2	福井大学、兵庫医科大学
平成20年度	6	6	福井大学(2)、金沢大学、山梨大学 昭和大学、慶應義塾大学
平成21年度	6	3	金沢大学、関西医科大学、広島大学
平成22年度	6	6	福井大学、金沢大学、東京大学 滋賀医科大学(2)、島根大学
平成23年度	6	8	金沢大学(2)、北海道大学、高知大学 大阪市立大学、熊本大学、佐賀大学、三重大学
平成24年度	6	4	金沢大学、高知大学、三重大学 関西医科大学
平成25年度	6	5	福井大学、金沢大学、新潟大学、 大阪医科大学、関西医科大学
平成26年度	6	5	福井大学(2)、金沢大学、 旭川医科大学、大阪市立大学
平成27年度	6	3	福井大学(2)、大阪市立大学
平成28年度	6	5	福井大学(2)、京都府立大学、 近畿大学、旭川医科大学
平成29年度	6	3	山口大学、大阪市立大学、信州大学
平成30年度	6	3	福井大学、金沢大学、近畿大学
平成31年度	6	7	福井大学(6)、金沢大学
令和2年度	6	2	福井大学(2)
令和3年度	6	5	福井大学(4)、金沢大学(1)

参 考 资 料

第2次市立敦賀病院中期経営計画（改定版）の概要

1 策定の経緯

第2次市立敦賀病院中期経営計画は、第1次の計画の進捗状況及び「第6次福井県医療計画」など医療制度の方向性をふまえて策定した。

また、平成29年3月には「新公立病院改革ガイドライン」及び「福井県地域医療構想」を受けて、見直しを行い改訂した。

国は病院における入院治療を中心とする医療から在宅医療への移行を推進するとともに、介護制度などを含め地域全体で医療・介護をする地域包括ケアシステムの構築を目指している。

当院は、このように医療制度が大きく変化する中、新たな事業計画及び経営指標の達成に向けて経営改善を発展的に継続し「地域の医療をささえ、信頼され、温もりのある」病院づくりを推進し市民の医療ニーズに対応するものとする。

2 事業計画（計画期間中の取組目標）

（1）人材の確保、定着及び育成

ア 医師の確保

- ・関係機関の協力と実践的な臨床研修プログラムによる研修医の確保により、医師の増員を図る。
- ・医師の事務負担を軽減し診療に専念できる環境づくりのため、医師事務作業補助者を増員する。

イ 看護師等の確保

- ・敦賀市立看護大学の実習病院として良好な学習、実習環境を提供する。
- ・継続的に認定看護師を養成する。
- ・看護補助者の採用による看護業務の負担軽減を図る。

ウ 薬剤師の確保

- ・修学資金制度を継続運用するとともに、大学薬学部への広報を強化する。

エ その他の医療職の確保

- ・理学療法士等の適正な人員を確保し、祝日等のリハビリを含めた機能の充実を図る。

オ 事務職

- ・地域がん診療連携拠点病院及び地域医療支援病院の指定・承認に向けて、地域医療連携体制及び医療福祉相談体制の充実に必要な医療ソーシャルワーカーの人員を確保する。

カ 問題解決力の向上と活力ある職場づくり

- ・各部署の年次計画（アクションプラン）の設定を継続する。
- ・目標管理制度や人事考課制度を医師及び医療技術職員に拡大し、職員の意欲向上と能力開発を促進する。
- ・院内保育所について利用状況に応じて拡充を検討する。

(2) 医療機能の充実と情報発信

ア 救急医療、災害時医療の充実

- ・関係機関との連携により医師を確保し救急医療体制の充実を図る。
- ・災害拠点病院として防災訓練を定期的実施するとともに、災害医療チーム（DMAT）の人員確保と研修・訓練による技能向上を図る。

イ 地域医療確保のために果たすべき役割

- ・高度医療機器の計画的な整備と、地域の医療機関への広報により利用を促進する。
- ・地域がん診療連携拠点病院及び地域医療支援病院の指定・承認を目指す。

ウ 医療の質、医療安全の推進

- ・医療安全大会の開催を継続する。
- ・クリティカルパスの作成数の増加と利用率の増加を図る。
- ・電子カルテシステムを更新する。
- ・病院機能評価など外部機関の審査制度により医療の質の確保と患者サービスの向上を図る。

エ 患者サービスの向上

- ・患者アンケートの実施と改善活動への反映を継続する。
- ・職員接遇研修の継続的に実施する。

オ 地域医療連携の推進

- ・ふくいメディカルネットの運用を推進する。
- ・紹介率、逆紹介率を向上させ地域医療支援病院の指定を目指す。
- ・地域連携クリティカルパスの作成と利用を促進する。

カ 当院の取組みの情報発信

- ・ホームページ、院内掲示、広報紙による情報発信を強化する。
- ・市民公開講座、出前講座、病院フェスタを継続開催する。

(3) 収入増加と経費削減への取組み

ア D P C 請求病院としての効率的・効果的な医療の提供

- ・平均在院日数の短縮を図る。

- ・診療科別損益分析・検証により効率的・効果的診療を実施する。
- イ 手術体制の維持
- ・手術室等における体制を維持し、効率化を図ります。
- ウ 新規施設基準等の取得
- ・地域がん診療連携拠点病院の指定及び地域医療支援病院の承認を目指す。
 - ・新規の施設基準の取得を継続的に目指す。
- エ 自費診療
- ・人間ドックの利用増加を目指す。
 - ・オプション検査等の利用増加を目指す。
- オ 委託化の推進、経費の縮減、業務の質の確保
- ・後発医薬品の採用率数量ベース80%を目指す。
 - ・委託業務の指導・監督の強化により、業務の適正運用と質を確保する。
 - ・高額の未収金回収を強化するとともに、新たな未収金の発生の抑制を図る。
- (4) 経営形態の見直し
- ・地方公営企業法全部適用病院として、当面の間経営形態を維持しながら安定かつ健全な経営を目指す。
- (5) 地域包括ケアについて
- ・県、市町、医療・福祉・介護の関係機関等の協議の場に参画する。

3 主要経営指標（数値目標）

事業計画を推進し、安定的な経営を継続するため次の数値目標を設定する。

項目		H27年度実績	R2年度目標	備考
経常収支比率		103.8%	101.1%	黒字経営を維持する。
医業収支比率		95.7%	96.0%	更なる医業費用の削減を図る。
職員給与費対医業収益比率		45.8%	52.5%	人材確保等による給与増
病床利用率	計(332床)	78.0%	79.7%	地域包括ケア病棟の効果的な活用を図る。
	急性期	77.0%	76.0%	
	包括ケア	88.3%	93.0%	
患者1人1日 当たり診療収入	入院（急性期）	45,067円	50,305円	平成27年度の水準から約10%の増加を図る。
	入院（包括ケア）	32,053円	29,391円	
	外来	13,367円	13,018円	
平均在院日数	急性期	16.1日	14.3日	退院支援を強化し、平成27年度の水準から約10%の短縮を図る。
	包括ケア	23.4日	40.0日	
材料費対医業収益比率		25.9%	24.5%	H27年度の水準から約5%低下させる。
後発医薬品採用率		67.7%	80.0%	厚生労働省が目指す数量ベース80%以上とする。
紹介率		39.3%	50.0%※	地域医療支援病院の承認を目指す。
逆紹介率		47.5%	70.0%※	

※診療報酬改正により基準が変更となったが、地域医療支援病院の承認を得られる水準を目指すものとする。

4 主要経営指標（令和元年度報告）

項 目		H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度目標
経常収支比率		101.9%	100.9%	104.2%	101.1%
医業収支比率		97.2%	93.7%	97.4%	96.0%
職員給与費対医業収益比率		48.1%	50.0%	49.2%	52.5%
病床利用率	計(332床)	79.0%	72.5%	74.9%	79.7%
	急性期	77.0%	70.6%	72.2%	76.0%
	包括ケア	86.2%	79.7%	84.8%	93.0%
患者1人1日 当たり診療収入	入院（急性期）	44,908円	50,034円	52,641円	50,305円
	入院（包括ケア）	32,072円	32,158円	33,601円	29,391円
	外来	12,240円	12,792円	12,993円	13,018円
平均在院日数	急性期	14.9日	14.1日	14.3日	14.3日
	包括ケア	24.9日	24.3日	25.6日	40.0日
材料費対医業収益比率		22.5%	23.2%	21.6%	24.5%
後発医薬品採用率		81.4%	84.0%	85.0%	80.0%
紹介率		39.6%	39.9%	40.1%	50.0%
逆紹介率		38.3%	43.7%	56.8%	70.0%

市立敦賀病院の患者権利章典

患者さんは、人間としての尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は患者さんと医療従事者との互いの信頼関係の上に成り立つものであり、患者さんに主体的に参加していただくことが必要です。

当院では、このような考え方にに基づき、ここに「市立敦賀病院の患者権利章典」を制定します。

患者さんの権利

1 良質な医療を公平に受ける権利

社会的な地位、信条、障害の有無などに関わらず、良質な医療を公平に受ける権利があります。

2 個人の人格が尊重される権利

個人の人格、価値観などが尊重され、医療従事者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

3 個人の情報やプライバシーが守られる権利

診療に関する個人情報やプライバシーは厳正に保護される権利があります。

4 病気、検査、薬、治療方法などについて、十分な説明、情報提供を受ける権利

自分が受ける治療や検査の効果や危険性、薬の効果や副作用、他の治療方法の有無などについて、理解できるまで十分な説明を受ける権利があります。

5 治療方法などを自らの意思で選択する権利

十分な説明、情報提供を受けた上で、自分の治療計画を立てる過程に参加し、治療法などを自らの意思で選択する権利があります。その際、別の医療機関の意見（セカンド・オピニオン）を聞きたいというご希望も尊重します。

6 自分が受けている医療について知る権利

自分が受けている医療について不明なことがあれば、医療従事者に質問することができ、自分の診療記録の開示を求める権利があります。

患者さんにしていただきたいこと

7 医療に関する説明に対し、十分理解できるまで質問してください

納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについては、十分理解できるまで質問してください。

8 自身の健康に関する情報を正確に提供してください

良質な医療を実現するために、医療従事者に対し、患者さん自身の健康に関する情報（家族歴、既往歴、アレルギーの有無など）をできるだけ正確に提供してください。

9 必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください

治療効果の向上のために、医療従事者とともに病気を治していくという姿勢で、必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください。

10 他の患者さんが適切な治療を受けられるように配慮してください

患者さんは通常の社会生活にはない制約を受けざるを得ない場合もあります。病院の規則などを守り、他の患者さんの治療や病院職員による業務などに支障を与えないよう配慮してください。

市立敦賀病院 職業倫理規程

医学及び医療は、病める人の治療はもとより人々の健康の維持・増進を図るものであり、すべての職員が病院理念及び基本方針に基づき、意欲と誇りをもってその使命を果たすことを目的として、次のとおり職業倫理に関する規程を定める。

- 1 職員は、質の高い医療の提供を目指し、知識と技術の習得に努めます。
- 2 職員は、患者さんの人権及び人格を尊重し、良心をもって医療を提供します。
- 3 職員は、互いの尊敬と理解のもと、協力して医療を提供します。
- 4 職員は、公務員としての責任を自覚し、医療の公共性を重んじ、医療を通じ社会の発展に貢献するとともに、法規範の遵守及び法秩序の形成に努めます。
- 5 職員は、より質の高い医療の提供のため、自己の心身健康の保持増進に努めます。

医療事故防止のための8カ条

- 第1条 医療従事者は、医療事故はいつでも起こりうるものであるという「危機意識」を常に持ち業務にあたる。
- 第2条 患者さん最優先の医療を徹底し、患者さん本位の医療を実践する。
- 第3条 業務にあたっては基本的事項の遵守と確認、再確認を徹底する。
- 第4条 患者さんとのコミュニケーションには十分配慮し、患者さんや家族への説明は、その内容が十分理解されるよう心がける。
- 第5条 診療に関する諸記録は正確かつ丁寧に記載するとともに、相互チェックを実施する。
- 第6条 自己の健康管理には十分留意し、万全の体制で業務にあたる。
- 第7条 職員の具体的、実践的な教育・研修を実施する。
- 第8条 病院管理者、所属長が率先して医療事故防止に対する意識改革を実践する。

病院年報編集委員会

編集委員長 米島 學

編集委員 太田 肇 新井 良和

高橋 秀房 織田 一宏

小堀 和美 増井 正清

上野 建吾 川本 義之

森田 定善 谷元 亮友

市立敦賀病院年報（令和2年度）

令和4年2月発行

編集 病院年報編集委員会

発行 市立敦賀病院

〒914-8502 福井県敦賀市三島町1-6-60

TEL (0770)22-3611 FAX (0770)22-6702

